

MUTOH

Creation, we make it happen ...

取扱説明書

サイン・カッティングプロッタ

ValueCut II

VC2-600

VC2-1300

VC2-1800



管理 No.

VC2J-A-01a

ご使用前に必ずお読みください

本書記載の商標

- ・ MUTOH、ValueCut、ValueJet、VC2-600、VC2-1300、VC2-1800 は、武藤工業株式会社の商標および商品名です。
- ・ 記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

注記

- ・ 本製品および本書の内容の全部または一部を個人で使用する他は、著作権者である弊社の承諾を得ずに複写・複製・転載することを禁止します。
- ・ 本製品や本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容につきましては万全を期していますが、万一ご不明の点や、誤り、お気づきの点がございましたら、弊社またはお買い求めの販売店にご連絡くださいますようお願い申し上げます。
- ・ 本製品および本書を運用した結果につきましては、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

安全に関する事項

この度は、ValueCut カuttingプロッタをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ごぞいます。

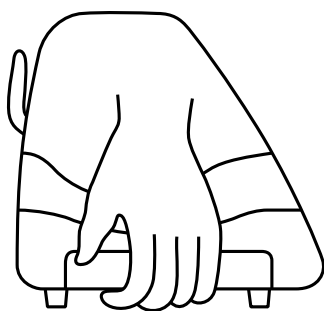
Cuttingプロッタをご使用になる前に、必ず下記の安全注意事項及び使用上の注意をご覧ください。



Caution

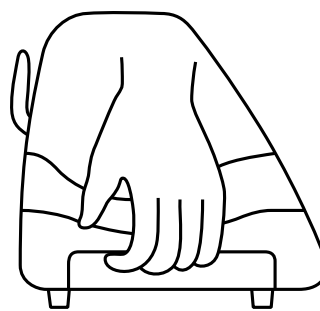
安全注意事項

- 安全のため、本製品の組立および移設する場合は、必ずしっかりと底部から持つようにしてください。両側のくぼみを持って、本製品を持ち上げないでください。



○(正しい持ち方)

底部から持つ



×(禁止)

くぼみを持つ

- Cuttingプロッタで作業中に指を挟まれないように、キャリッジの近くに手を置かないでください。



- 動作中、指や髪の毛、衣類などがキャリッジ、およびグリッドローラー部に巻き込まれないように注意してください。



- カッターホルダーを揺すったり落としたりしないでください。カッター刃が飛び出す恐れがあります。
- 運転中は、機械の稼動部分（キャリッジなど）に触らないでください。また、衣服や髪を巻き込まれないようにご注意ください。
- 電源ケーブルは必ずアース付コンセントに接続してください。
- 必ず指定の電源ケーブルをご使用ください。電源ケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源コンセントから直接電源を取ってください。タコ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。
- 必ずお子様の手の届かないところに保管してください。

使用上の注意事項

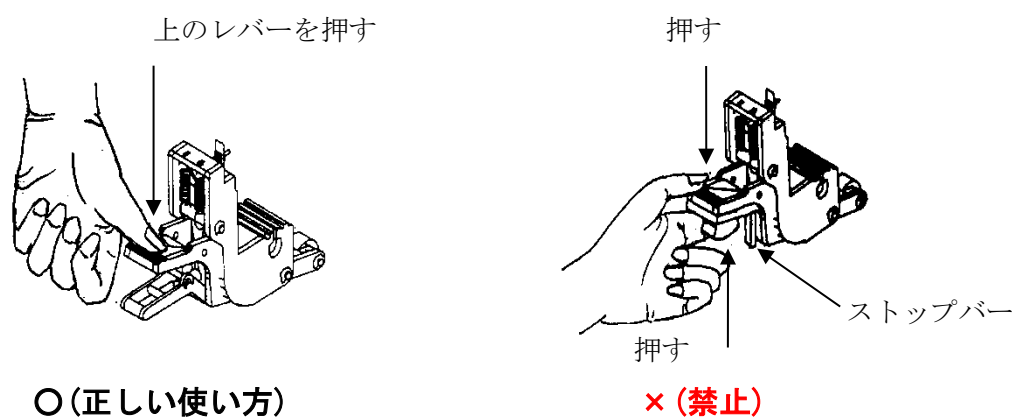
- ピンチローラーは常に白いマーク内にセットしてください。

注意:

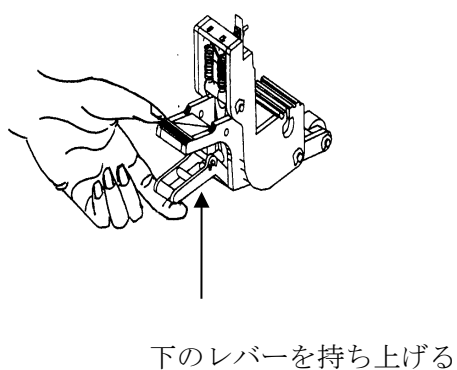
下の絵のように 上部解除グリップ（解除グリップはカチッと音がするまでしっかりと押してください）を押すと同時に下部解除グリップを引かないでください。ストップバーがフックされずにピンチローラーを無効にできません。

誤った操作により2つのグリップが密着した場合は、上部解除グリップを押しながら、ピンセットを使用してストップバーを引き出してください。ストップバーを外側に引き出したまま、下の絵のようにグリップを外してください。

無効にする



有効にする



液晶の言語切替え

プロッタの初期設定では液晶表示が英語になっています。使用を開始する前にパネルの表示を日本語に切り替えてください。

プロッタにメディアをセットしない状態で、かつ、用紙セットレバーが上がっている状態（加圧ローラがアップしている状態）で、プロッタの電源を入れてください。
しばらくすると、液晶にメッセージが表示されます。

```
To Load: Place Media  
To Setup: Valid Keys
```

と英語表示される場合は、パネルの表示を日本語に変更します。
表示が

```
メディア ナシ  
セットアップ モード
```

と表示される場合は、すでに日本語表示になっていますので、言語切り替えは不要です。

注意：電源投入時にメディアがセットされているか、用紙セットレバーが上がっているか否かにより液晶の表示が変わります。ここでは、必ず、用紙をセットしないで、用紙セットレバーを上げた状態で確認してください。

英語で上記のとおり表示されている場合は、機械のセットアップモードになっています。以下の手順で日本語表示に切り替えます。

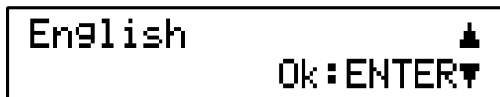
[MISC]キーを押します。以下のメッセージが表示されます。

```
Auto Unrolled Media  
Select:◀▶ Ok:ENTER
```

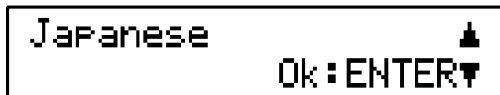
[▶]キーを6回クリックすると、液晶の表示は"Select Language"に変わります。

```
Select Language  
Select:◀▶ Ok:ENTER
```

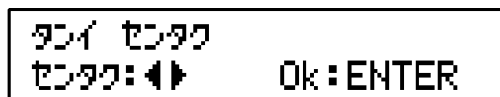
[ENTER]キーをクリックします。液晶に"English"が表示されます。



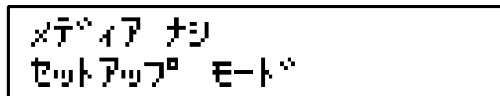
パネルの"English"の文字が"Japanese"に変わるまで、[▼]キーを5回クリックします。
以下のメッセージが表示されます。



[ENTER]キーをクリックすると液晶が日本語 (カタカナ) に変わり、以下のメッセージが表示されます。



[ON/OFF LINE]キーをクリックすると、機能設定のセットアップモードから抜けることができます。以下のメッセージが表示されます。



目次

1	製品の概要	12
1.1	はじめに	12
1.2	梱包品の確認	12
1.3	製品の特長	14
1.4	製品の外観	15
1.4.1	正面	15
1.4.2	背面	16
1.4.3	全体	16
1.4.4	左側	17
1.4.5	右側	17
2	設置	18
2.1	安全上の注意	18
2.2	スタンド&メディアサポート (VC2-1300/1800)	19
2.3	USB ケーブルの結束バンドとサドル	25
2.4	デスクトップメディアサポート (VC2-600 のみ)	27
2.5	ロールホルダーシャフトのダンパー設定	29
2.6	メディアバスケット (VC2-1300/1800)	30
2.7	カッターマットの交換	33
2.8	カッター刃の取り付け方	36
2.9	カッター刃先長さ自動検出	38
2.10	インターフェースケーブルの接続	40
3	操作パネル	41
3.1	操作パネル	41
3.2	オンラインモードのメニュー	42
3.3	オフラインモードのメニュー	43
3.4	メニュー項目	45
4	操作	51
4.1	メディアのセット	51
4.1.1	カット紙のセット	51

4.1.2	ロール紙のセット	53
4.2	メディア搬送	56
4.3	カット圧及びカッターオフセット調節	57
4.4	小文字のカット	58
4.5	長尺のカット	58
4.6	カッティング作業が終わったら	59
5	AAS II システム	60
5.1	始めに	60
5.2	AAS 輪郭カッティングシステム	61
5.2.1	メディア補正	61
5.2.2	トンボの条件	61
5.2.3	トンボの種類	62
5.3	プロッタのテストとオフセット調整	65
5.4	トンボマークの読み取り範囲	67
5.5	輪郭カット	68
5.6	輪郭カットのコツ	71
6	お手入れ	72
6.1	本体のお手入れ	72
6.2	グリッドローラーのお手入れ	73
6.3	ピンチローラーのお手入れ	73
7	トラブルシューティング	74
7.1	操作以外の問題	74
7.2	操作上の問題	75
7.2.1	エラーメッセージ	75
7.2.2	その他操作上の問題	76
7.3	カッティングプロッタ/コンピュータの通信上の問題	79
7.4	ソフトウェアの問題	80
7.5	カッティング品質の問題	81
8	FlexiSTARTER クイックスタートガイド	82
8.1	はじめに	82
8.2	FlexiSTARTER のインストール	82
8.2.1	FlexiSTARTER ValueCut Edition のインストール要件	82
8.2.2	FlexiSTARTER ValueCut Edition をインストールする	83
8.3	FlexiSTARTER の起動	89

8.4	デバイスの登録	90
8.5	初期設定	91
8.5.1	カットジョブ後のジョブを残す設定に変更する	91
8.5.2	Production Manager で使用する単位を変更する.....	92
8.6	基本設定	93
8.6.1	FlexiSTARTER の画面周り.....	93
8.6.2	標準ツールバー	94
8.6.3	メインツールバー.....	95
8.6.4	表示ツールバー	95
8.7	文字の作成	96
8.7.1	カット・プロットウィンドウ	97
8.8	文字のカット	98
8.9	輪郭カットデータの作成	100
8.9.1	輪郭カットの流れ.....	100
8.9.2	Adobe Illustrator データの読み込み.....	100
8.9.3	輪郭カットデータの作成.....	101
8.9.4	輪郭カットマーク（トンボ）について	102
8.9.5	輪郭カットマーク（トンボ）の作成	103
8.10	輪郭カット	104
8.10.1	プリントデータの印刷	104
8.10.2	輪郭カットウィンドウ	104
8.10.3	輪郭カット.....	105
8.10.4	手動補正手順(参考)	106
8.11	機能リスト	108
8.12	トラブルシューティング	110
8.12.1	FlexiSTARTER よりデータを送信できない場合.....	110
8.12.2	ペンアップの速度が変更できない	112
9	付録	113
9.1	ValueCut 仕様書.....	113
9.2	カッター刃について	114
9.3	ツールについて.....	115
9.4	消耗品・オプション品リスト	116
9.5	ユーザーサポート	118
9.5.1	製品に関するお問い合わせ窓口	118
9.5.2	テクニカルサポート連絡窓口	118
9.5.3	保守・修理に関するお問い合わせ窓口	119

1 製品の概要

1.1 始めに

ValueCut シリーズカッティングプロッタは、コンピュータで作ったデータを塩ビシート等の専用シートのカットや、ValuJet プリンタ等で印刷したメディアの輪郭をカットできるようにデザインされています。

このマニュアルは、下記モデルの ValueCut シリーズカッティングプロッタに適用します。

・VC2-600	シート幅: 50 mm ~ 770 mm
・VC2-1300	シート幅: 50 mm ~ 1,594 mm
・VC2-1800	シート幅: 300 mm ~ 1,990 mm

1.2 梱包品の確認

ValueCut モデルのパッケージには、次のアイテムが同封されていますので、ご確認ください。確認後、装置の破損や梱包品で不足するものがある場合は、ご購入先、または MUTOH 各営業所へご連絡ください。

標準アイテム	数量
1. カッティングプロッタ本体	1
2. スタンドセット (VC2-1300/1800 のみ) (VC2-600 はオプション)	1
● ベースビーム 2 個	
● サイドビーム 2 個	
● スタンドビーム 1 個	
● 六角穴付きボルト (M6) 20 個	
● 六角レンチ (4 mm) 1 個	
● スタンドセットの組立説明書 1 部	

3.メディアサポートシステム			1
品目	VC2-1300/1800 のみ	VC2-600	
ロールメディアフランジ 2 個	√	√	
ロールホルダーシャフト 2 本	√	√	
ロールホルダーガイドブッシュ 4 個	√	√	
ロールホルダーサポート 2 個	√	√	
六角レンチ (5 mm) 1 個	√	√	
ロールホルダー取り付け説明書 1 個		√	
六角レンチ (4 mm) 1 個		√	
デスクトップサポートブラケット 2 個		√	
ゴム足 4 個		√	
ネジ (M4) 4 個		√	
六角穴付きネジ (M6) 12 個		√	
六角レンチ (3 mm) 1 個		√	
4.メディアバスケット (VC2-1300 / 1800 のみ) (VC2-600 はオプション)			1
● バスケットアーム 2 本			
● バスケットロッド 2 本			
● バスケット 1 枚			
● つまみネジ 4 個			
● バスケットアーム固定板 2 個			
● ネジ (M3) 8 本			
● 六角レンチ (2 mm) 1 本			
4. 付属品			1
● ユーザガイド、ソフトウェア (CD-ROM) 1 枚			
● データケーブル (USB ケーブル 3 m) 1 本			
● イーサネットケーブル 1 本			
● カッターホルダー (カッティングプロッタのキャリッジに取り付け) 1 本			
● カッター刃 (赤キャップ 45 度、カッターホルダーに取り付け) 1 本			
● 予備カッター刃 (赤キャップ 45 度) 1 本			
● ボールペンホルダー 1 本			
● 油性ボールペン 1 本			
● 横切りカッター 1 個			
● カッティングマット 1 個			
● ピンセット 1 個			
● 結束バンド 1 個			

1.3 製品の特長

ValueCut シリーズカッティングプロッタの主な特長は下記の通りです。

- ・ 3種類のインターフェースポートに対応
- ・ 最大 600 g のカット圧
- ・ 最大 1,530 mm / 秒のカッティングスピード
- ・ 使いやすい多言語コントロールパネル
- ・ メディアを汚さないメディアバスケット (VC2-600 はオプション)
- ・ 自動で輪郭カットできる高度なAAS IIシステム

1.4 製品の外観

1.4.1 正面

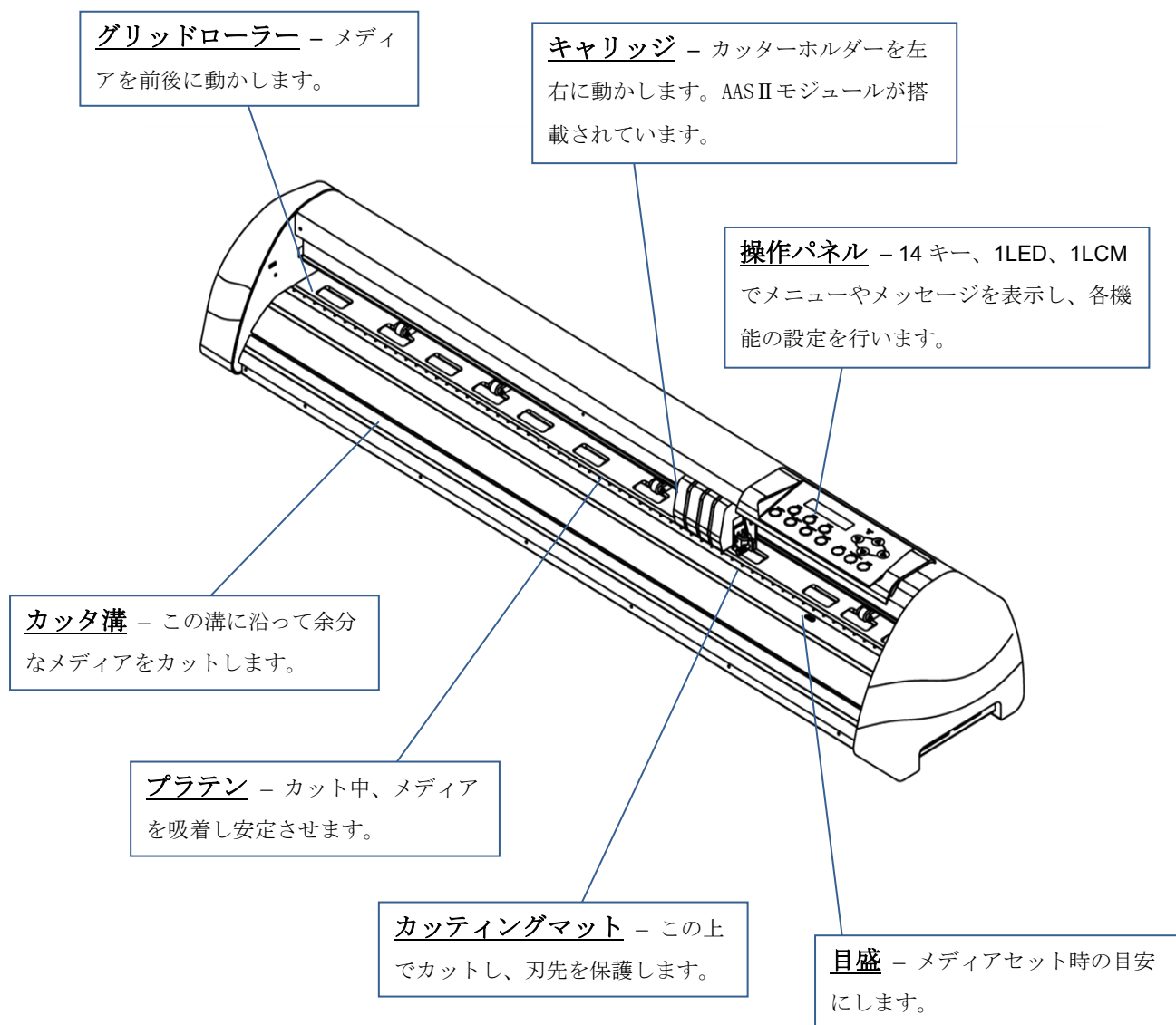


図 1-1

1.4.2 背面

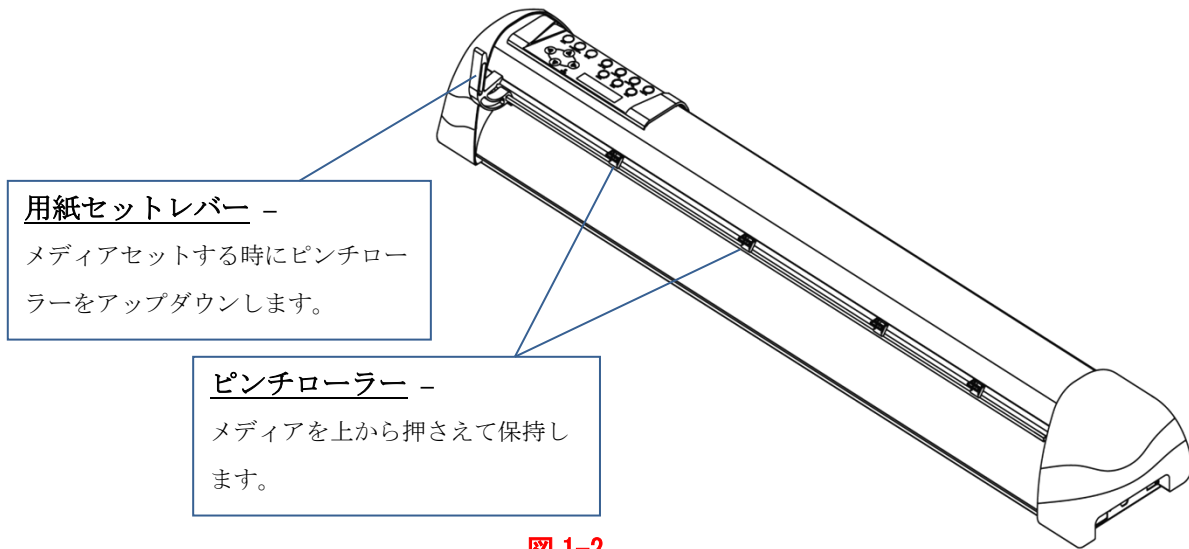


図 1-2

1.4.3 全体

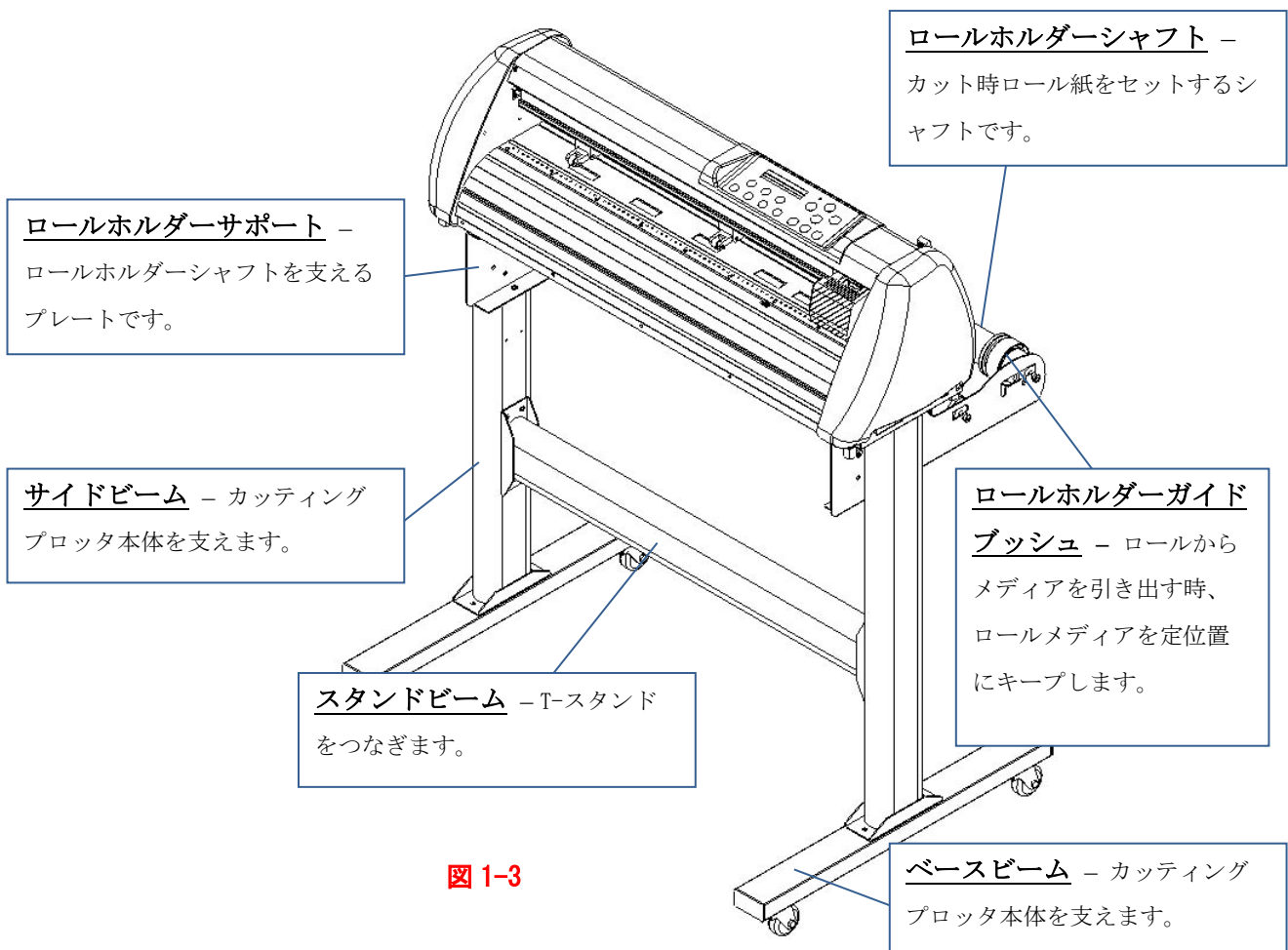


図 1-3

1.4.4 左側



図 1-4

電源スイッチ – [I]でスイッチ入、[O]で切

ブレーカー – 3 アンペア以上の電流が流れると電気部品や配線回路を保護するためにブレーカーが遮断します。
ブレーカーが遮断した場合はブレーカーのスイッチを押して復帰させてください。復帰させても直ぐに遮断する

AC 電源コネクタ – AC 電源ケーブルを差し込んで使用。

1.4.5 右側



シリアルインターフェイスコネクタ (RS232C) – シリアルインターフェイスケーブルでコンピュータにカッティングプロッタを接続時使用。

イーサネットコネクタ – ローカルエリアネットワークにカッティングプロッタを接続時使用。

USB コネクタ – USB ケーブルでコンピュータにカッティングプロッタを接続時使用。

図 1-5

2 設置

2.1 安全上の注意

設置作業を始める前に、下記の注意事項をよく読んでください。

注意:

1. はじめに

- カuttingプロッタを取り付ける前に、必ず電源スイッチがオフになっているか、確認してから行ってください。
- カッターを取り扱うときは、怪我しないように十分注意してください。

2. Cuttingプロッタを設置する前に、最適な場所を選んでください。

Cuttingプロッタを取り付ける前に、下記の状況に適する場所を選んでください。

- どの方向からも簡単に機械を操作できるようにスペースを確保してください。
- 機器、周辺機器及び補給品を置くのに十分な場所を確保してください。
- 振動を避け安定して作業ができる場所に設置してください。
- 作業時の温度は **15~30℃** に保ってください。
- 作業環境の相対湿度は **25%~75%** に保ってください。
- 機器はホコリや強風の当たる場所を避けてください。
- 機器に直射日光や過剰に強い光が当たる場所は避けてください。

3. 電源ケーブルの接続

コンセントにしっかり接続しているか、電源ケーブルのプラグを確認してください。

異常がある場合は、[9.5.3 保守・修理に関するお問い合わせ窓口](#)にお問い合わせください。

- プラグ（オス）をコンセントに接続する。
- 電源ケーブルの反対側の端子（メス）をCuttingプロッタのACコネクタに接続する。

4. ドライバを使用したネジの締め付けまたは取り外し

ドライバが手動か電動かに関わらず、ネジの締め付けまたは取り外しの際は、過剰なトルクがかからないように注意してください。鉄またはステンレス鋼のネジの締め付けまたは取り外しの際は、下記の標準ネジトルク表を参照してください（他の材料のネジには適用しません）。

ネジ呼び径	高硬度材料の場合の標準トルク値 (kgf-cm)
M3	6
M4	16
M5	30
M6	50

2.2 スタンド&メディアサポート (VC2-1300/1800)

Step 1

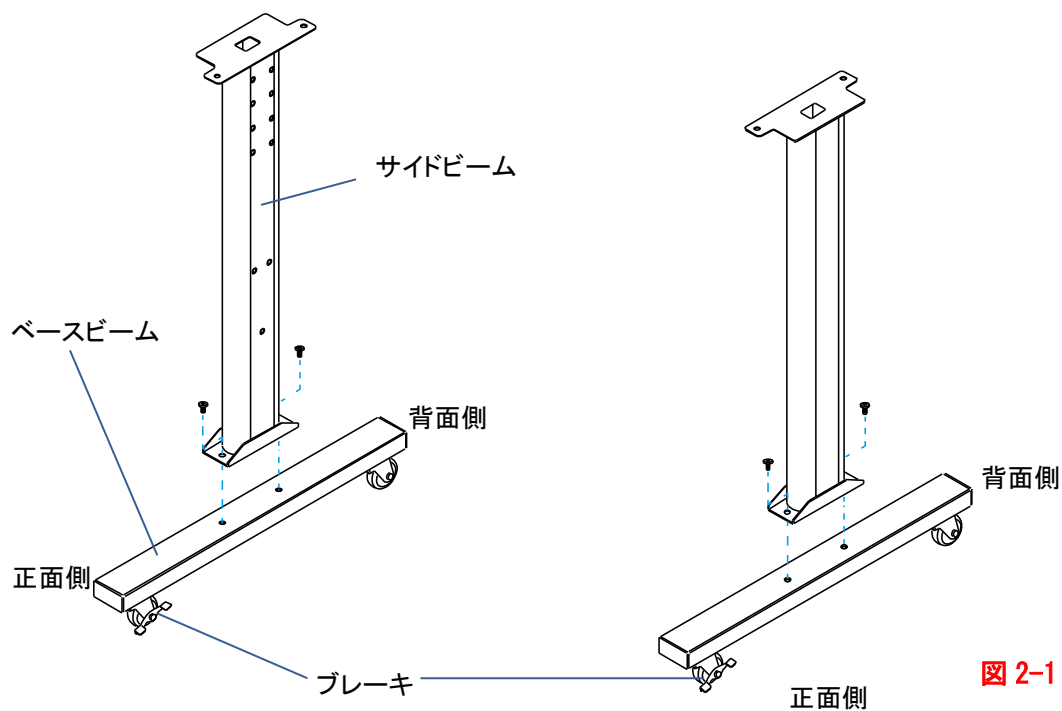
スタンド付属品の箱の中に下記アイテムが入っているか確認してください。

- ロールメディアフランジ 2 個
- ロールホルダーシャフト 2 本
- ベースビーム 2 個
- サイドビーム 2 個
- スタンドビーム 1 個
- ロールホルダーサポート 2 個
- 六角穴付きネジ (M6) 20 個
- 六角レンチ (4 mm) 1 個
- スタンドセットの取り付け説明書 1 部

Step 2

プロッタ本体と付属品を箱から取り出します。

ベースビームにサイドビームをT型になるように2本のネジで組み付けてください。(図 2-1)



ベースビームの方向に注意してください（ブレーキが付いたキャスターが本体の正面側になるように左右の向きを合わせてください）。

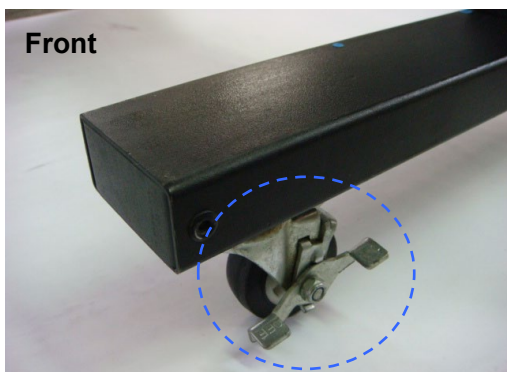


図 2-2

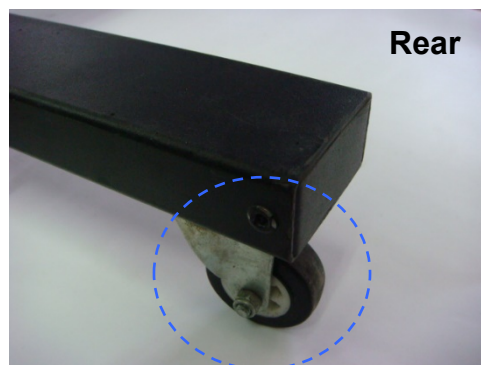


図 2-3

Step 3

T スタンドの間にスタンドビームを立てた状態に置き、①②のように組み立てます。（図 2-2&2-3 参照）

両側の T スタンドには、位置決めピンとして六角穴付きネジが取り付けられています。

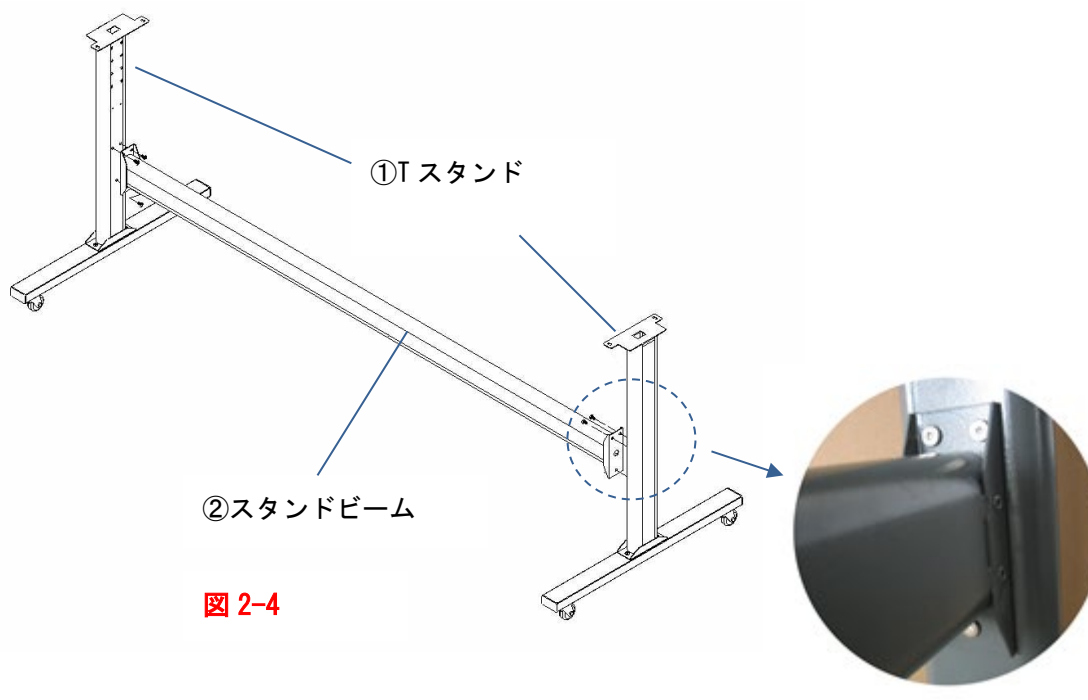


図 2-4

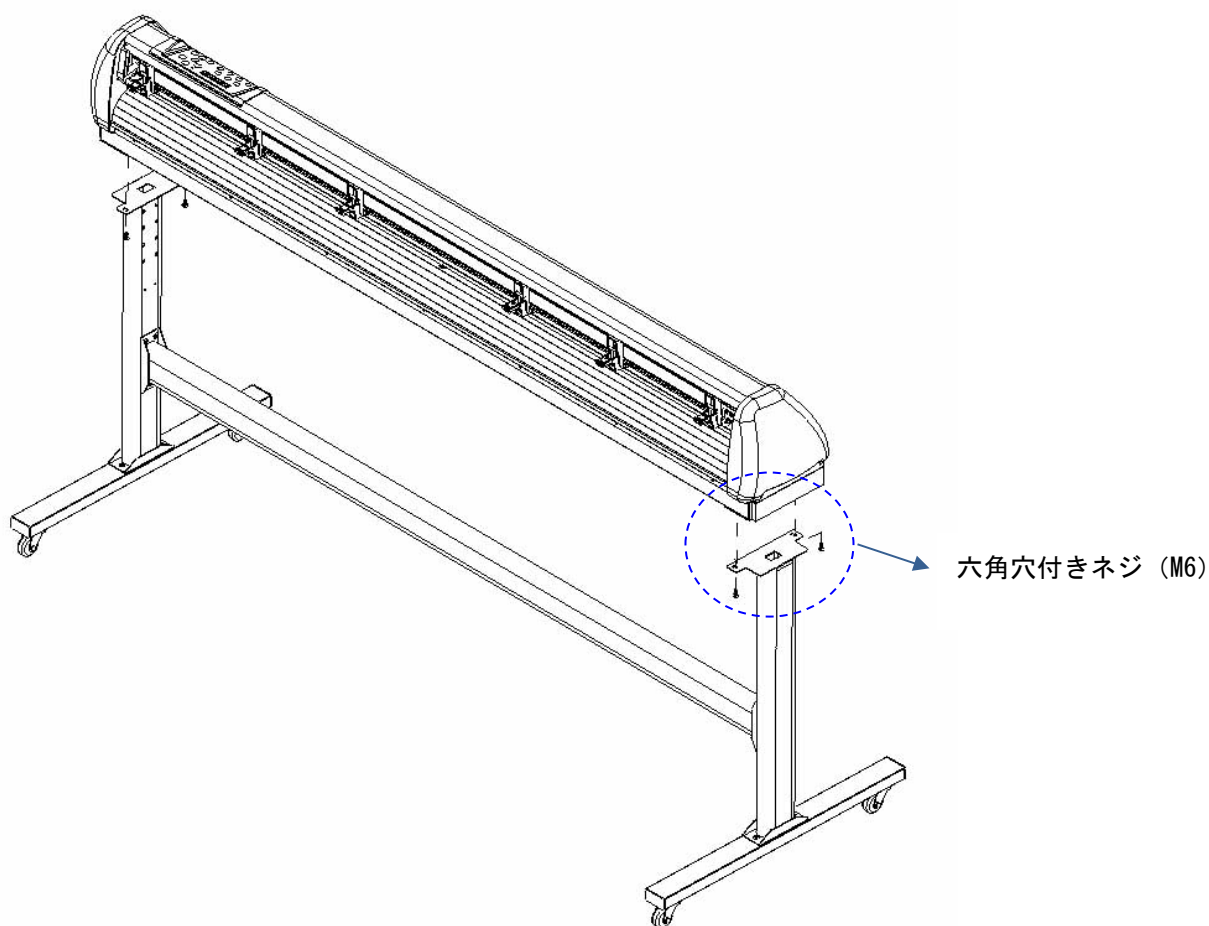
図 2-5

Step 4

スタンドビームを立てた状態の①にセットし、六角穴付きボルト (M6) を、図 2-3 のように締めます。スタンド完成図は図 2-6 のようになります。

Step 5

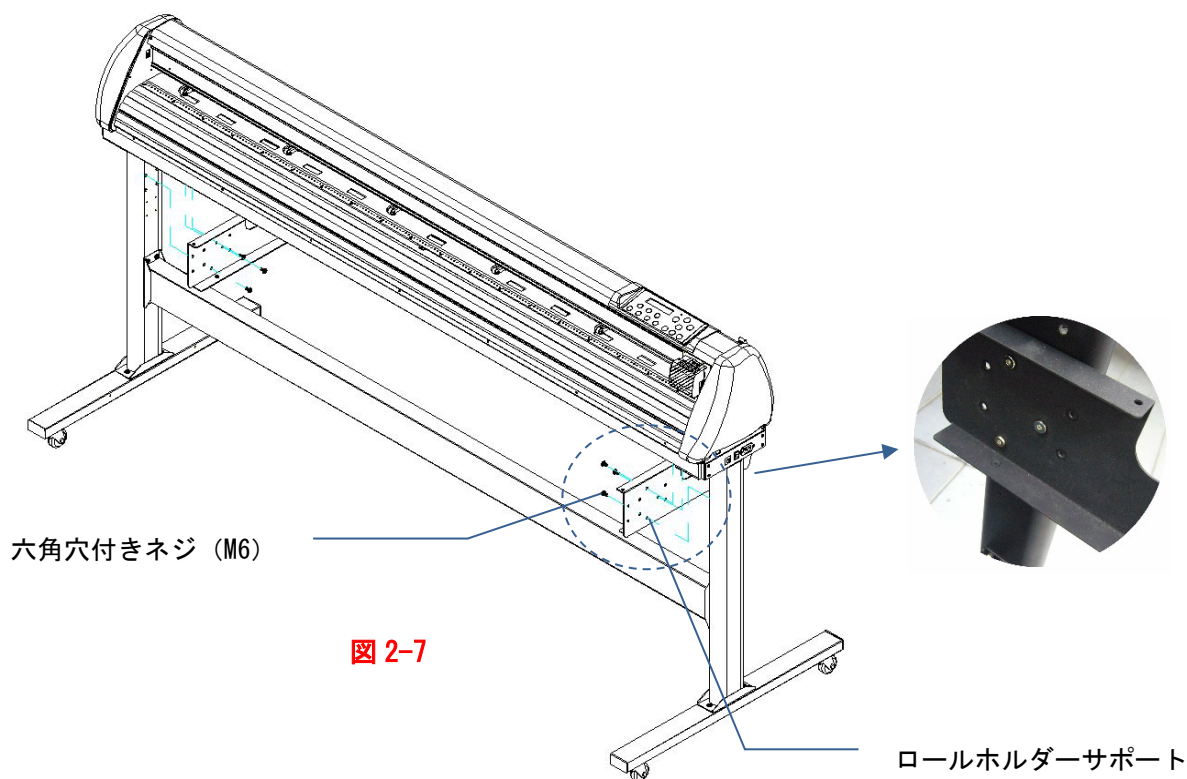
カッティングプロッタを箱から出します。カッティングプロッタをスタンドの上に置きます。プロッタ底面の両側には、位置決めピンに対応する場所に穴が 1 つずつあり、その穴に位置決めピンを差し込むことができます。その後、図 2-6 に示すようにネジをスタンドの穴に差し込んでプロッタを固定し、ネジを締め付けます。

**図 2-6**

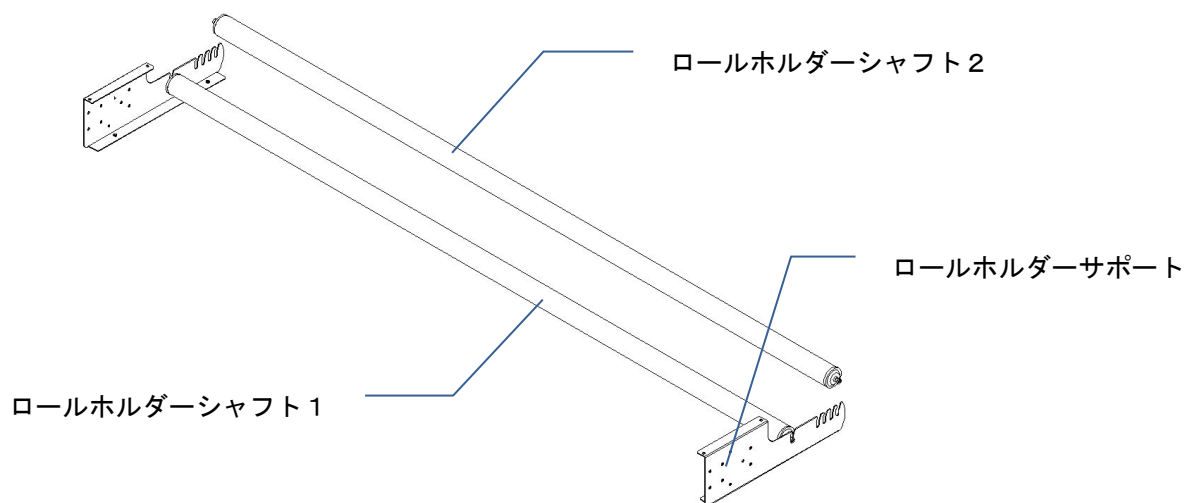
注意: カッティングプロッタ本体の取り付けは、少なくとも 2 人で行ってください。

Step 6

ロールホルダーサポートは、六角穴付きボルト（M6）で、図 2-7 のように締めます。ロールホルダーサポートの位置は、ネジを入れる穴の位置で高さを変更できます。

**Step 7**

2本のロールホルダーをロールホルダーサポートの溝にセットします。(図 2-8)

**図 2-8**

Step 8

ロールホルダーシャフト2を梱包箱より取り出した後、先端のネジを反時計方向に約3回転ほど回して緩めてください。(図 2-9)



図 2-9

Step 9

ロールホルダーシャフト2のダンパーが付いている側を右側（パネル側）に向けて、ロールホルダーサポートにセットしてください。ダンパー部の白い突起が、ロールホルダーサポートの溝に上向きに入っていることを確認してください。(図 2-10)



図 2-10

Step 10

ロールホルダーシャフト2先端のネジをしっかりと締めてください。(図 2-9)

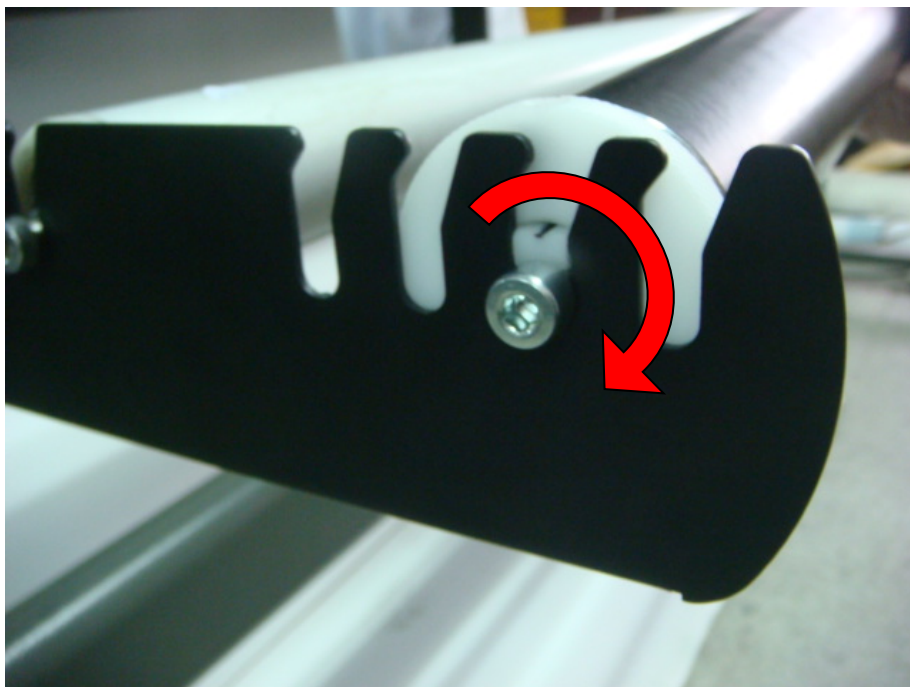


図 2-11

Step 11

最後に、下の完成図のようになります。(図 2-12)

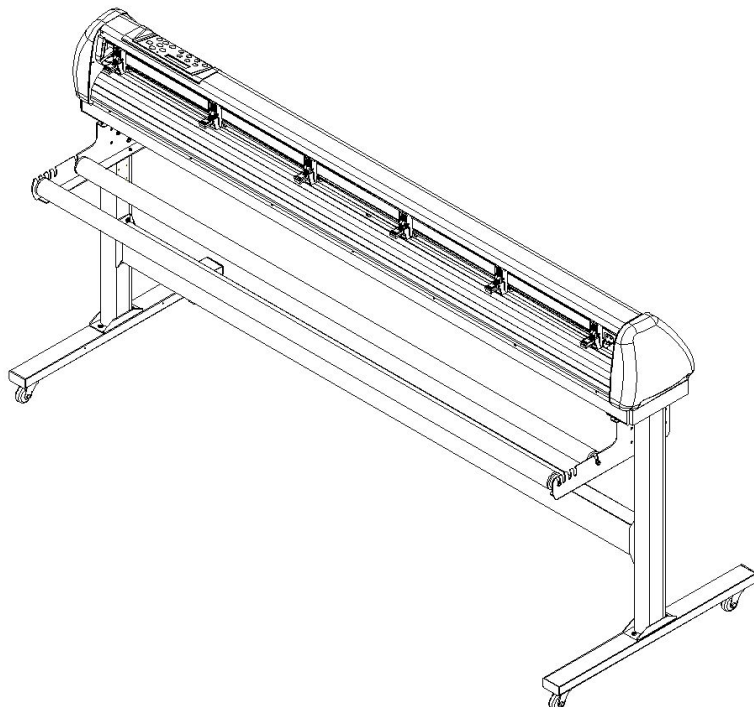


図 2-12

Step 12

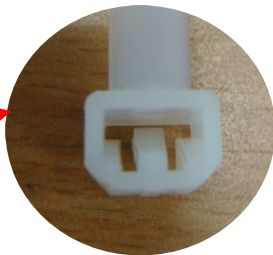
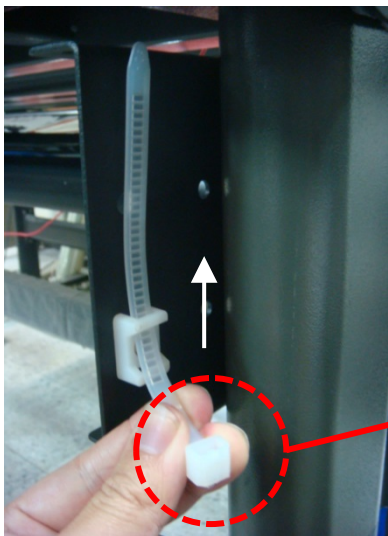
ロールメディアのセット方法については、ユーザーマニュアルの 4.1 を参照してください。

2.3 USB ケーブルの結束バンドとサドル

USB ケーブルの結束バンドおよびサドルアセンブリは、メディアサポートを持つスタンド専用のものです。

Step 1

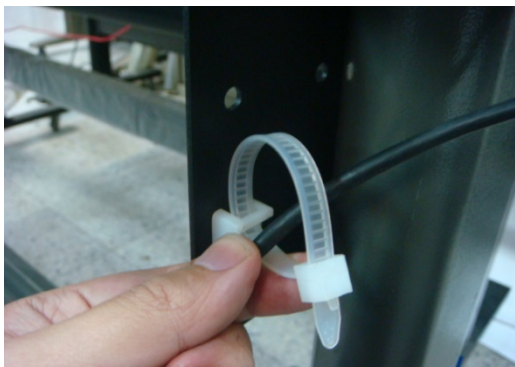
結束バンドをケーブルサドルの上側の穴に、下から上へと通します。



この面を上側にする

Step 2

USB ケーブルを結束バンドに通し、結束バンドを締め付けます。

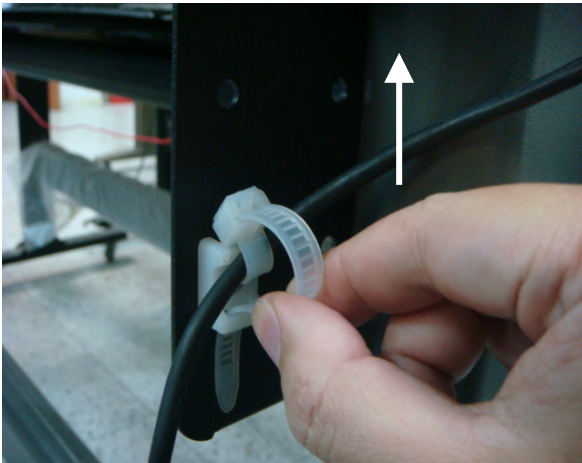


Step 2

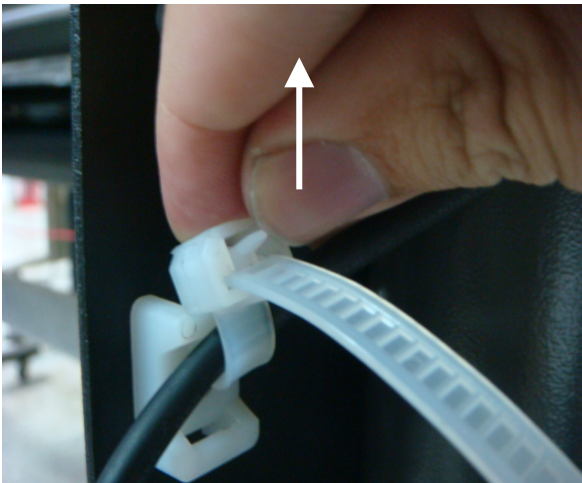
結束バンドの端をケーブルサドルの下側の穴に通して作業を終わめます。



外し方：結束バンドを引き出す→ピンを上げる→結束バンドを外す



結束バンドを引き出す



ピンを上げる



結束バンドを外す

2.4 デスクトップメディアサポート（VC2-600のみ）

Step 1

スタンド付属品の箱の中に下記アイテムが入っているか確認してください。

- ロールメディアフランジ 2 個
- ロールホルダーシャフト 2 本
- ロールホルダーガイドブッシュ 4 個
- ロールホルダーサポート 2 個
- デスクトップサポートブラケット 2 個
- ゴム足 4 個
- ネジ（M4） 4 個
- 六角穴付きボルト（M6） 12 個
- 六角レンチ（3 mm） 1 個
- 六角レンチ（4 mm） 1 個
- 六角レンチ（5 mm） 1 個（ロールホルダーの位置調節用）
- ローラーホルダー取り付け説明書 1 部

Step 2

4つのゴム足をローラーホルダーサポートの下に置き、ネジ（M4）でゴム足を固定します。六角レンチ（3 mm）で締めます。（図 2-13）

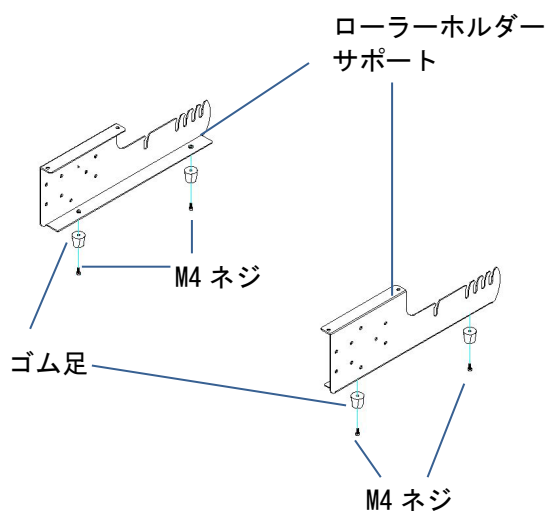


図 2-13

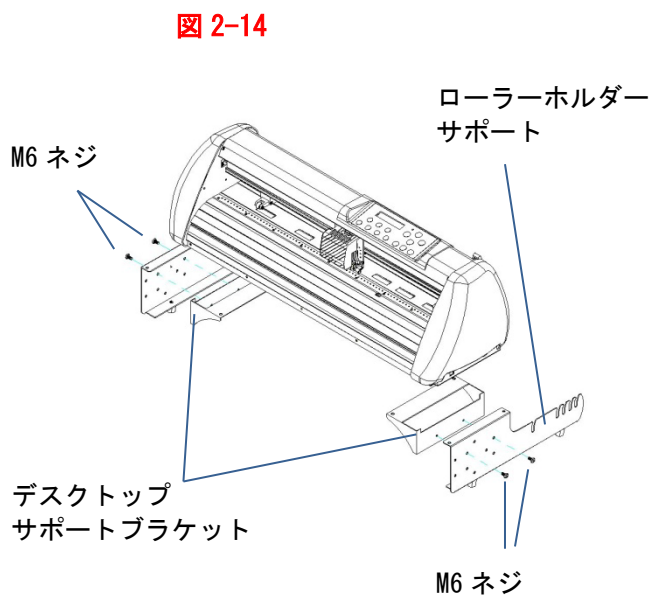


図 2-14

Step 3

デスクトップサポートブラケットをロールホルダーサポートの間に置き、六角穴付きボルト (M6) をロールホルダーサポートに入れて、六角レンチ (5 mm) で固定します。(図 2-14 参照)

Step 4

機器を横向けにして、ロールホルダーアセンブリを機器底部に当てます。六角穴付きボルト (M6) を六角レンチ (5 mm) で固定します。(図 2-15 参照)

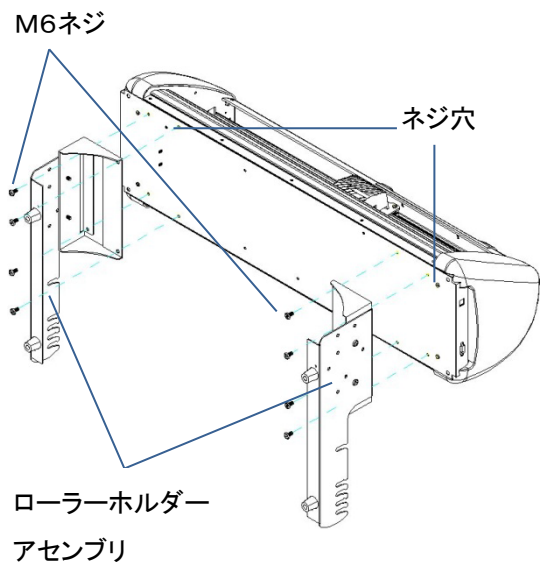


図 2-15

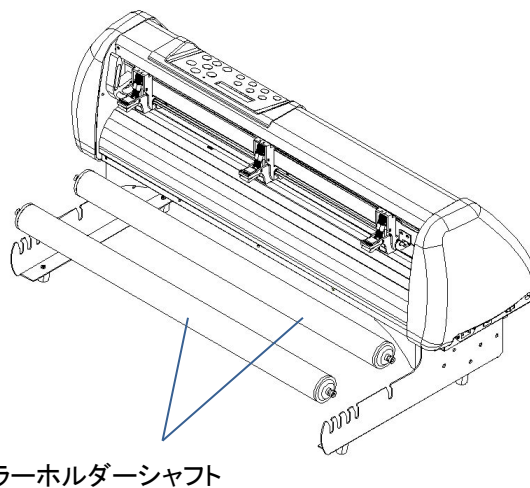


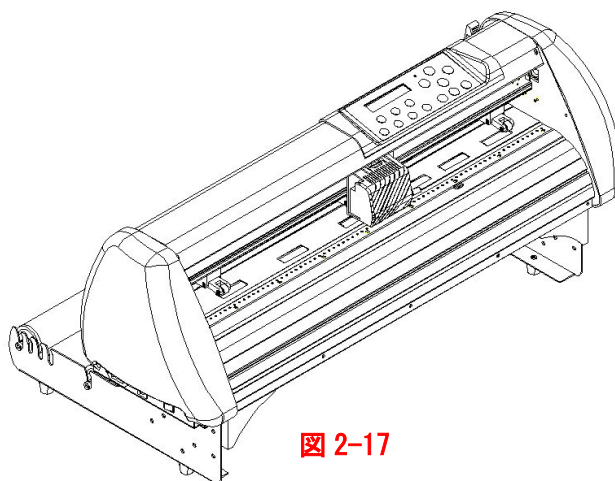
図 2-16

Step 5

2本のローラーホルダーシャフトをロールホルダーサポートの溝にセットします。(図 2-16)

Step 6

卓上型メディアサポートシステムの完成図は、図 2-17 のようになります。



2.5 ロールホルダーシャフトのダンパー設定

Step 1

ダンパー（テンション）の強さを調整するには以下の図に従って白いホイールを回します。数値が大きい程テンションが強くなります。（図 2-18、図 2-19）

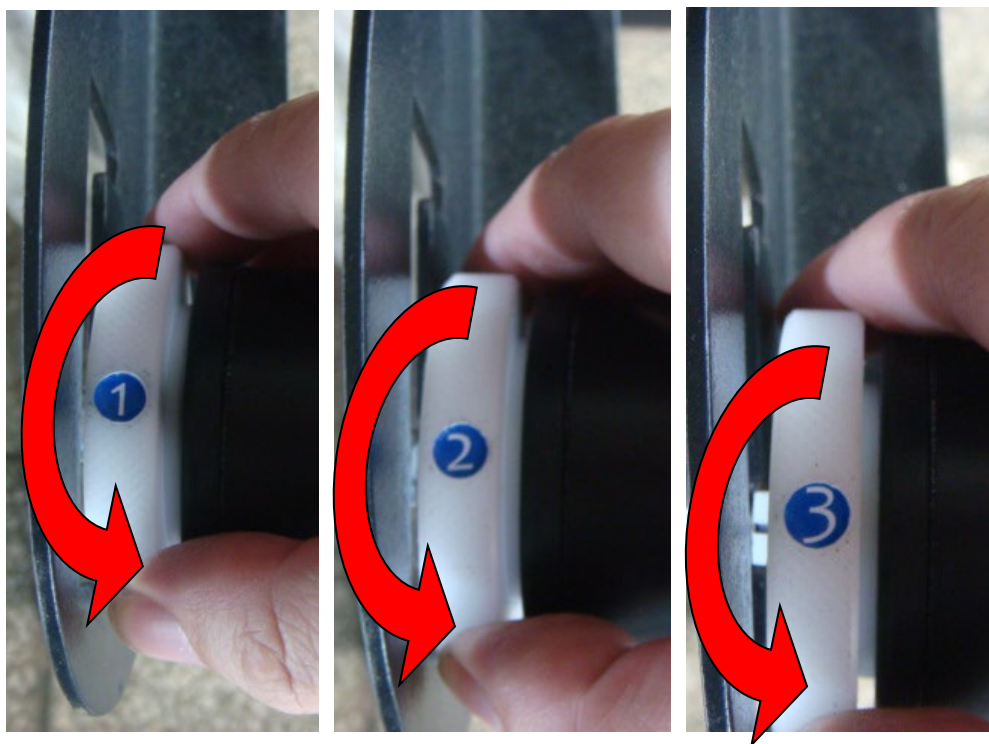


図 2-18



図 2-19

2.6 メディアバスケット (VC2-1300/1800)

Step 1

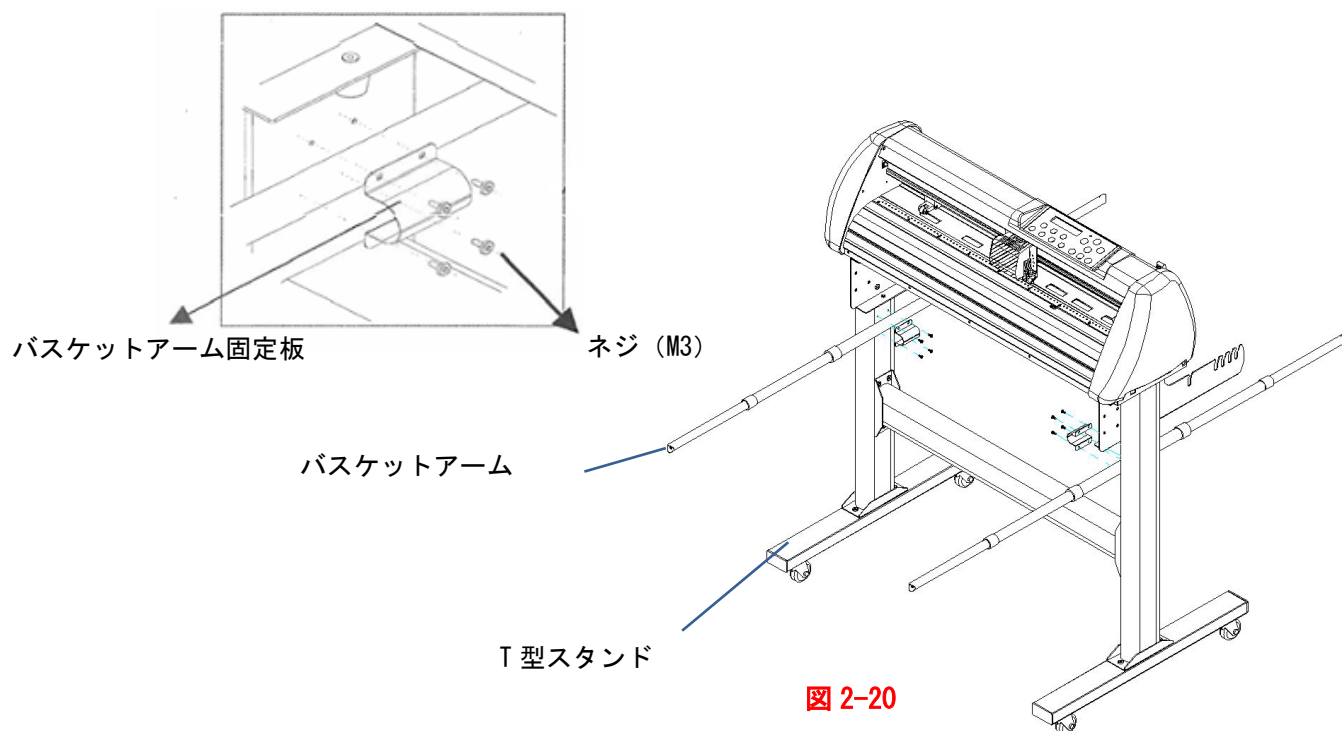
メディアバスケットの部品を確認してください。

- バスケットアーム 2 本
- バスケットロッド 2 本
- バスケット 1 枚
- つまみネジ 4 個
- バスケットアーム固定板 2 個
- ネジ (M3) 8 本
- 六角レンチ (2 mm) 1 本

Step 2

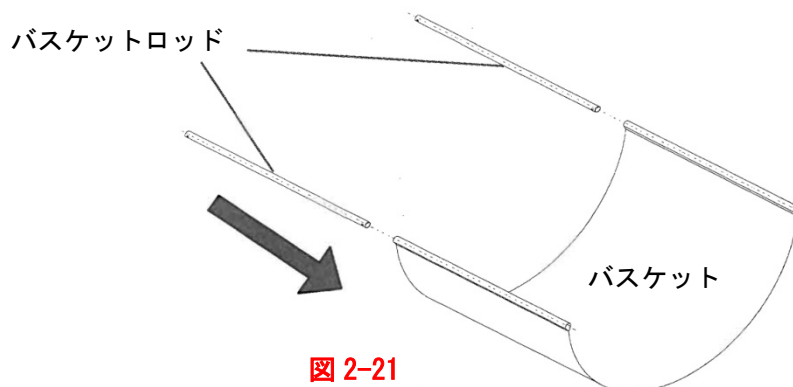
T型スタンドとバスケットアーム固定板の間にバスケットアームを入れ、ネジ (M3) で固定します。

(図 2-20)

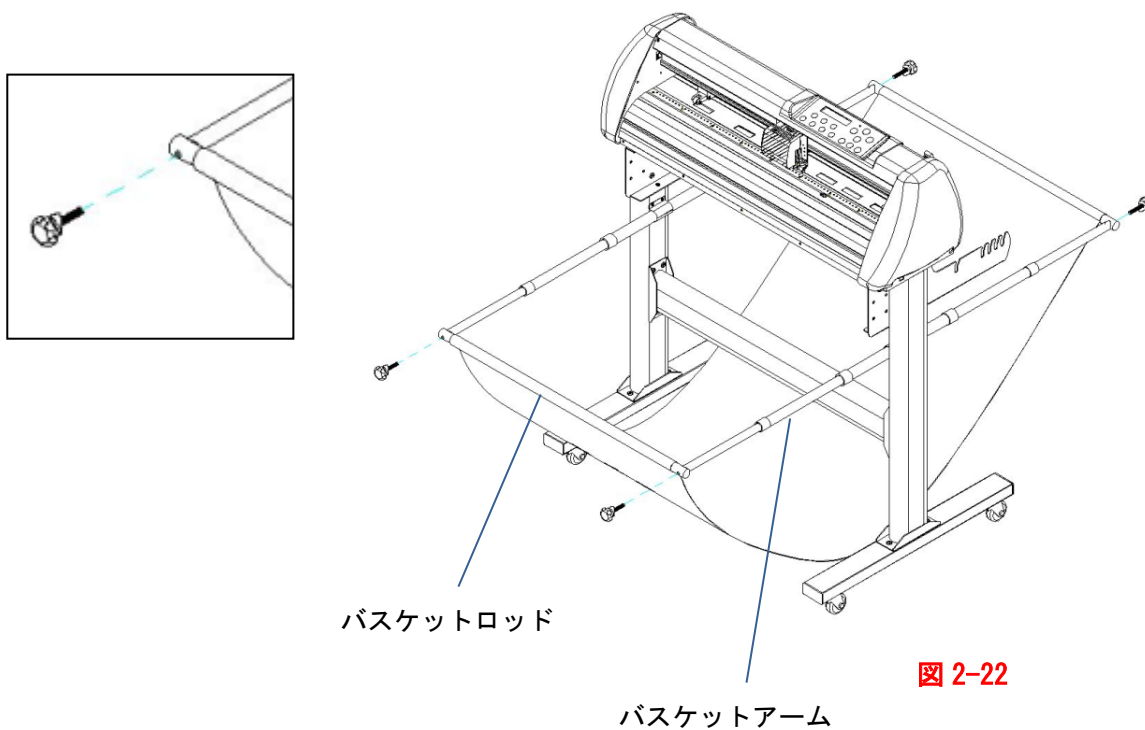


Step 3

バスケットの両端にバスケットロッドを挿入します。

**Step 4**

バスケットアームの先端にバスケットロッドを取り付け、つまみネジで仮止めします。前後4か所のつまみネジの取付けが完了したらつまみネジを締めて固定します。



Step 5

メディアバスケットの取付け完了です。

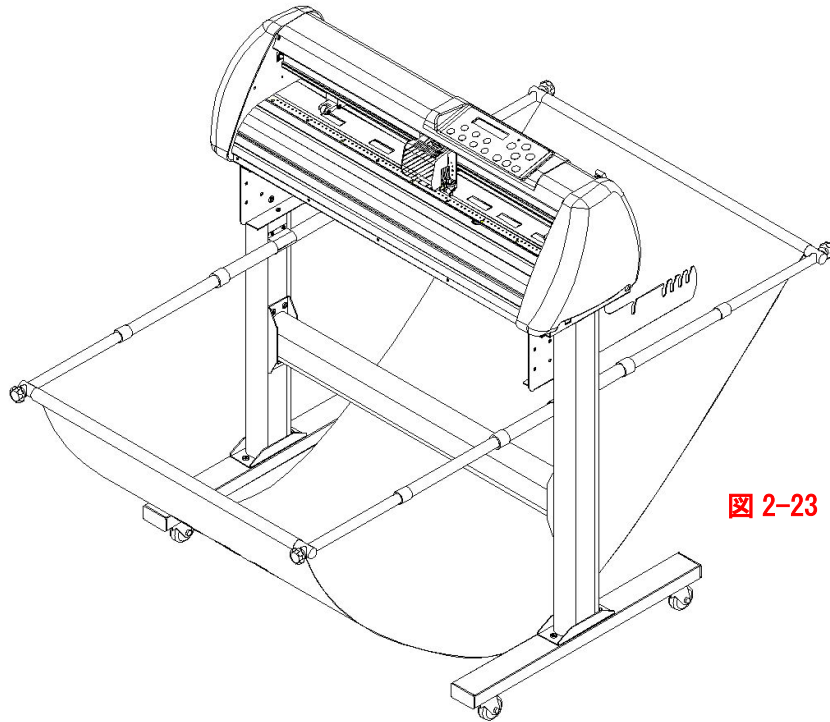


図 2-23

2.7 カッターマットの交換

アクセサリボックスの中にカッティングマットが1本同梱されています。本体に貼られているカッティングマットが擦り減ったり、傷がついてしまった場合は以下の手順に従って交換してください。

Step 1

傷んだカッティングマットをプラテンからゆっくりと剥がしてください（図 2-24）。



図 2-24

Step 2

粘着材がプラテンに残った場合はきれいに剥ぎ取ってください（図 2-25）。

粘着材が残った時は、アルコール等を使って綺麗に取り除いてください。



残った粘着材

図 2-25

Step 3

粘着材をきれいに落としたら、新しいカッターマットを溝に合わせて貼り付けてください。貼付後は浮きが無いように上からしっかりと押しつけてください (図 2-26、図 2-27)。



図 2-26



図 2-27

2.8 カッター刃の取り付け方

図 2-28 はカッターホルダーの写真です。カッターホルダーの中にあるカッター刃は、上からピンを押してカッター刃を取り外します。指をカッターホルダー先端から離しておくように気をつけてください。

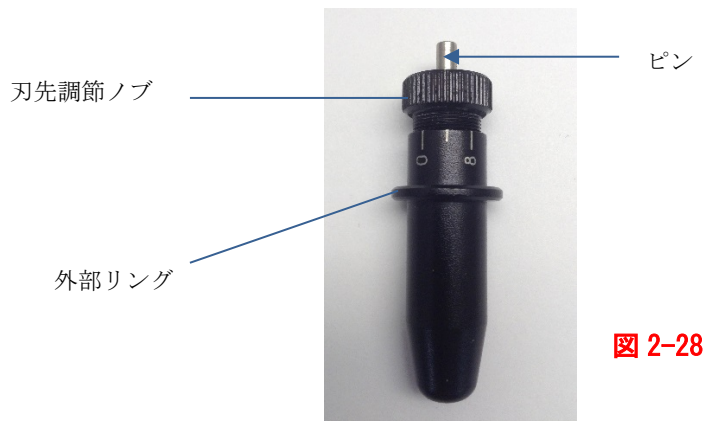


図 2-28

Step 1

カッター刃はホルダーの先端から挿入します。(図 2-29)

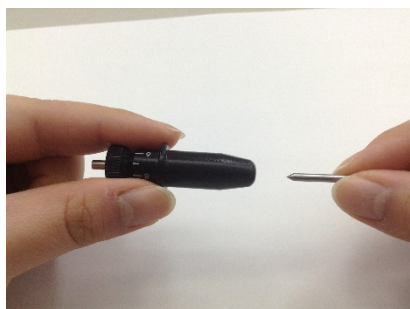


図 2-29

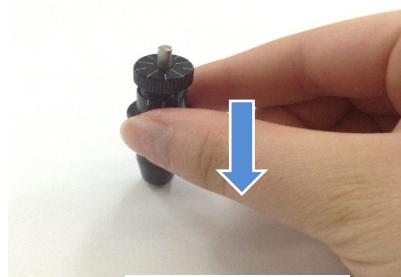


図 2-30

Step 2

カッター刃をカッターホルダーの奥まで差し込みます。(図 2-30)

Step 3

刃先調整ノブを回してカッター刃先端の突出し量を最適な長さに調節します。

“刃先調整ノブ”を時計回しまたは逆回しに回します。(図 2-31)

最適な長さ：

“最適な長さ”とは、刃の長さをフィルムの厚さより 0.1 mm 多く調節します。つまり、フィルムの厚さが 0.5 mm の場合、刃の長さをちょうど 0.6 mm に調節すると、フィルム層をしっかりとカットでき、台紙を貫通しないようにできます。



図 2-31

Step 4

カッターホルダーを本体のキャリッジに装着します。ホルダーの外部リングがキャリッジの溝にしっかり入るようにしてください (図 2-32)。ホルダー押えで固定します (図 2-33)。

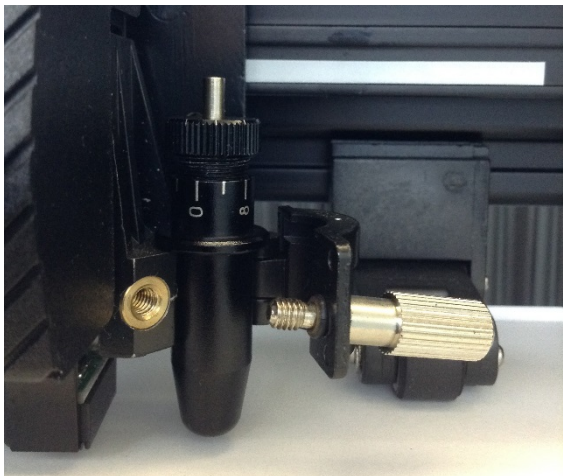


図 2-32

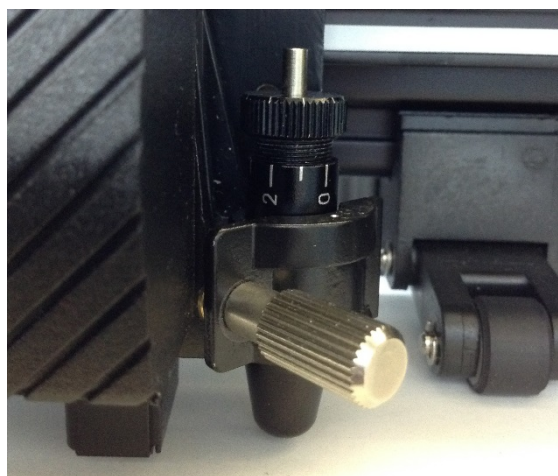


図 2-33

Step 5

カッターホルダーを取り外すときは反対の手順で外してください。

Step 6

カッター刃を取り外します。カッター刃を取り替える時は、カッターホルダーのピンを押してください。

注意:カッター刃はしばらく使っていると切れが悪くなっていき、カッティングの品質に影響がでます。カット圧を強める必要がありますが、カッター刃が磨り減ると信頼できるカッティングができなくなりますので、新しいカッター刃に取り替えてください。カッター刃消耗品です。カッティングの品質を保つため、必要に応じてカッター刃を交換しなければなりません。カッター刃の質はカッティングの質に大きく影響します。きれいにカットするためには、切れ味の良いカッター刃を使って

2.9 カッター刃先長さ自動検出

図 2-32 は、目盛付きカッターホルダーです。

このカッターホルダーのカッター刃の突出し量を自動的に検知し、刃先調整ノブをどのくらい回せばいいか操作パネルに表示します。

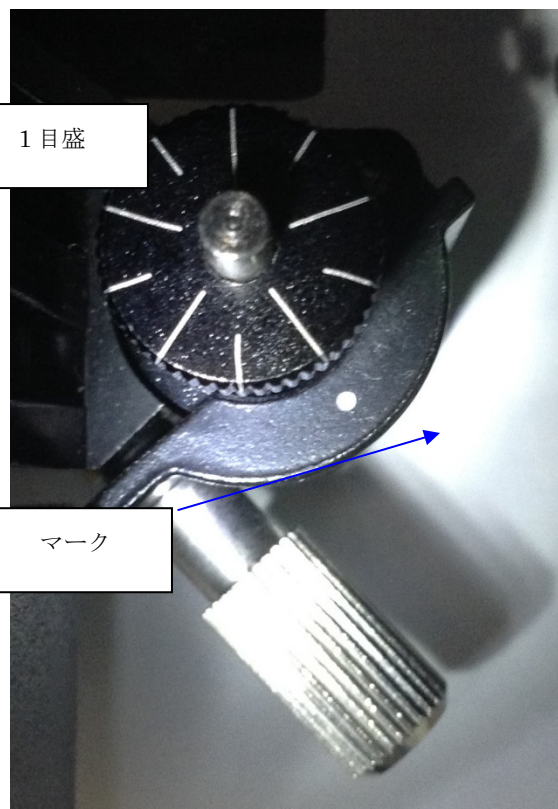


図 2-34 図 2-35

刃先調整ノブには 10 目盛ついています。1 目盛は 0.05 mm で、刃先の突き出し量を 0.00 mm - 5.00 mm に調節できます。(図 2-34、図 2-35)

カッター刃の長さ調節は下の通りに行ってください。

1. 調整を始める前に調整ノブを反時計まわりに回してカッター刃の先端がカッターホルダーの中に完全に収まるようにしてください。
2. カッターホルダーの刃先調整ノブの目盛をキャリッジのマークに合わせてください。

3. 操作パネルで“CUT TEST”キーを押し、“ハサキダシリョウセイ”を選び、希望する刃先の長さを“ハサキダシリョウ”に入力します。まず、カッターホルダーの高さを測定し、それから“ENTER”キーを押して、刃先の長さを測定します。

注意:「カッター刃先長さ自動検知」機能動作中、あるいは刃先調整ノブの調整は、途中で位置を変更せず、常に同じ位置で調整してください。

4. カッターホルダーと刃先の長さテストが終わると、液晶パネルに刃先調整ノブの目盛と方向[CW（時計回り）またはCCW（反時計回り）]が示されます。
例えば、「ハウコウ CW 5 メモリ」と表示される場合は、ノブを時計方向に5目盛り回すようにという表示です。（図 2-36、図 2-37）
5. 「0メモリ」と表示される時は、刃先の突出し量は設定値通りで調整の必要はありません。液晶パネルに“調節完了”と表示されれば、“ENTER”キーを押して調整機能を終了します。

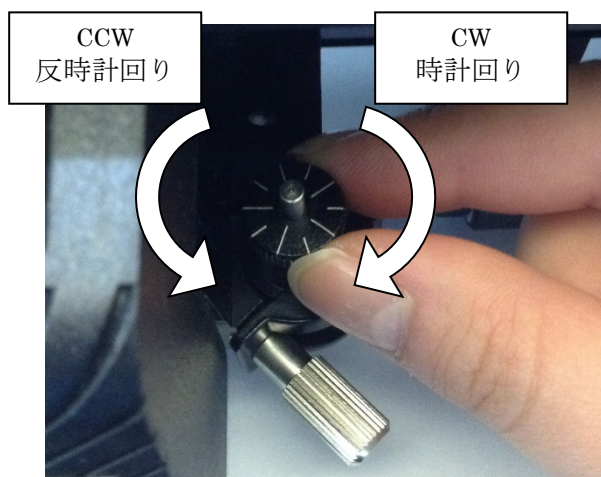


図 2-36



図 2-37

2.10 インタフェースケーブルの接続

カッティングプロッタは、**USB** (ユニバーサルシリアルバス)、シリアルポート (**RS-232C**)、またはイーサネットを通してコンピュータと交信します。この章では、どうやってホストコンピュータにカッティングプロッタを接続し、コンピュータ/カッティングプロッタ通信設定の方法を説明します。

注意:USB ポート使用時は、シリアルポートは自動的に機能しなくなります。

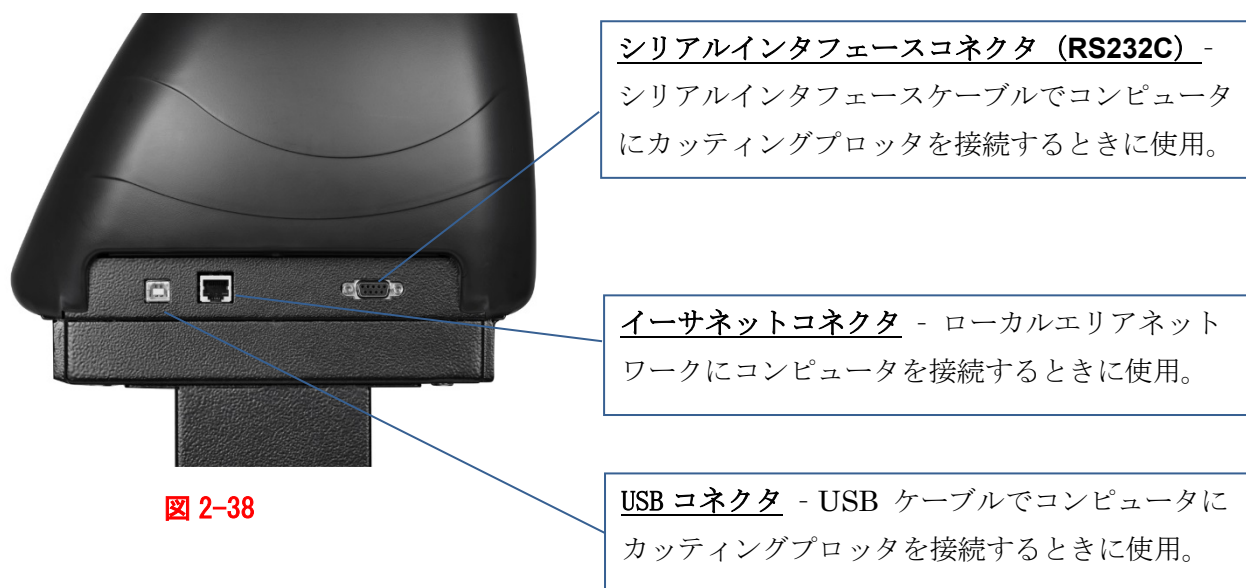
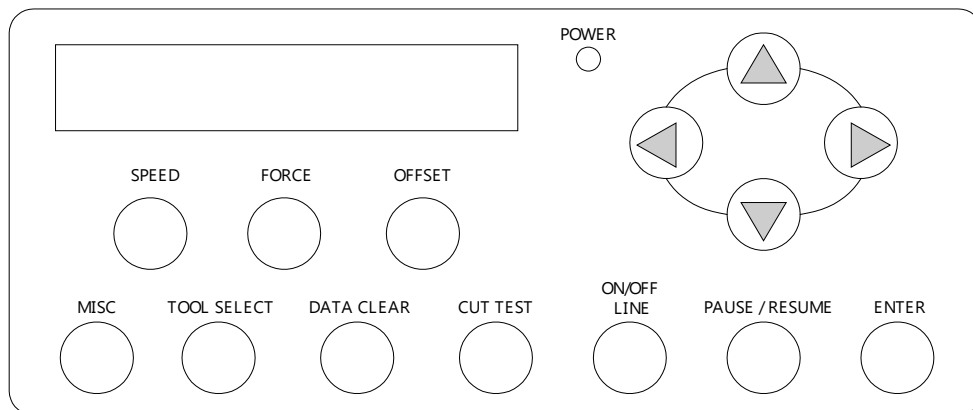


図 2-38

3 操作パネル

この章では、操作パネルのメニューボタン操作についてフローチャートで説明します。カッティングプロッタのセットアップが完了した時点では、すべての機能は初期設定値になっています。

3.1 操作パネル



<ValueCut シリーズの操作パネル>

キー	機能
液晶表示部	製品の動作状態やエラーメッセージを表示します。
電源ランプ	電源の状態を表示します。 (ライトがついている：電源オン、ライトが消えている：電源オフ)
JOG キー	キャリッジ及びメディアの移動、機能選択、または変更を行います。
ENTER	項目の設定、あるいは入力値を登録します。
PAUSE/RESUME	カッティング作業の一時停止または再開します。
ON/OFF LINE	モード切り替え、カッティング、または設定変更の中止を行います。
OFFSET	カッター刃のオフセット調整を行います。
FORCE	カット圧の調整を行います。
SPEED	カッティング速度、カット品質の設定変更を行います。
CUT TEST	カッティングテスト、繰り返しカットを行います。
DATA CLEAR	バッファ内のデータをクリアします。
TOOL SELECT	ツール条件選択、カッティングの拡張設定を行います。
MISC	機能の設定を行います。

詳しくは“3.4 メニューアイテム”を参照

3.2 オンラインモードのメニュー

電源オン

MUTOH
LCM Version 2.01

Firmware 1.01
UC2-1300

ご使用の機種名が表示されます。

メディアヲセットシテ
レイアウトヲサテクダサイ

画面 画面+センター カット
▲ Key ▼ Key ▶ Key

▲▼▶キーで選択

メディア ケンシュツチュウ

メディア 画面 ケンシュツチュウ
レイアウト: チュウタン

メディア ナカサ ケンシュツチュウ
レイアウト: チュウタン

トップメニュー

S 72 F 80 0 0.250
L: 15000 W: 1100 TIM

速度、カット圧、オフセット
ページ長さ、メディア幅、ツールセット、単位

データ送信
[PAUSE]

イチジ テイシ チュウ
セットアップ RESUME: サイカイ

[FORCE]

カット アツ: 80 gf ▲
Ok: ENTER▼

[SPEED]

スピード: 72 cm/s▲
センタク: ◀▶ Ok: ENTER▼

[OFFSET]

オフセット: 0.250 mm ▲
Ok: ENTER▼

[DATA CLEAR]

メモリーノデータヲクリアシマス
N: ONLINE Ok: ENTER

[TOOL SELECT]

15 72 F 80 00.250M
Select: ◀▶ Ok: ENTER▼

スレーピング
センタク: ◀▶ Ok: ENTER

オーバーカット: 0.00 mm ▲
センタク: ◀▶ Ok: ENTER▼

バック 4キ セイキョ
センタク: ◀▶ Ok: ENTER

半径 調整
センタク: ◀▶ Ok: ENTER▼

AAS スピード
センタク: ◀▶ Ok: ENTER

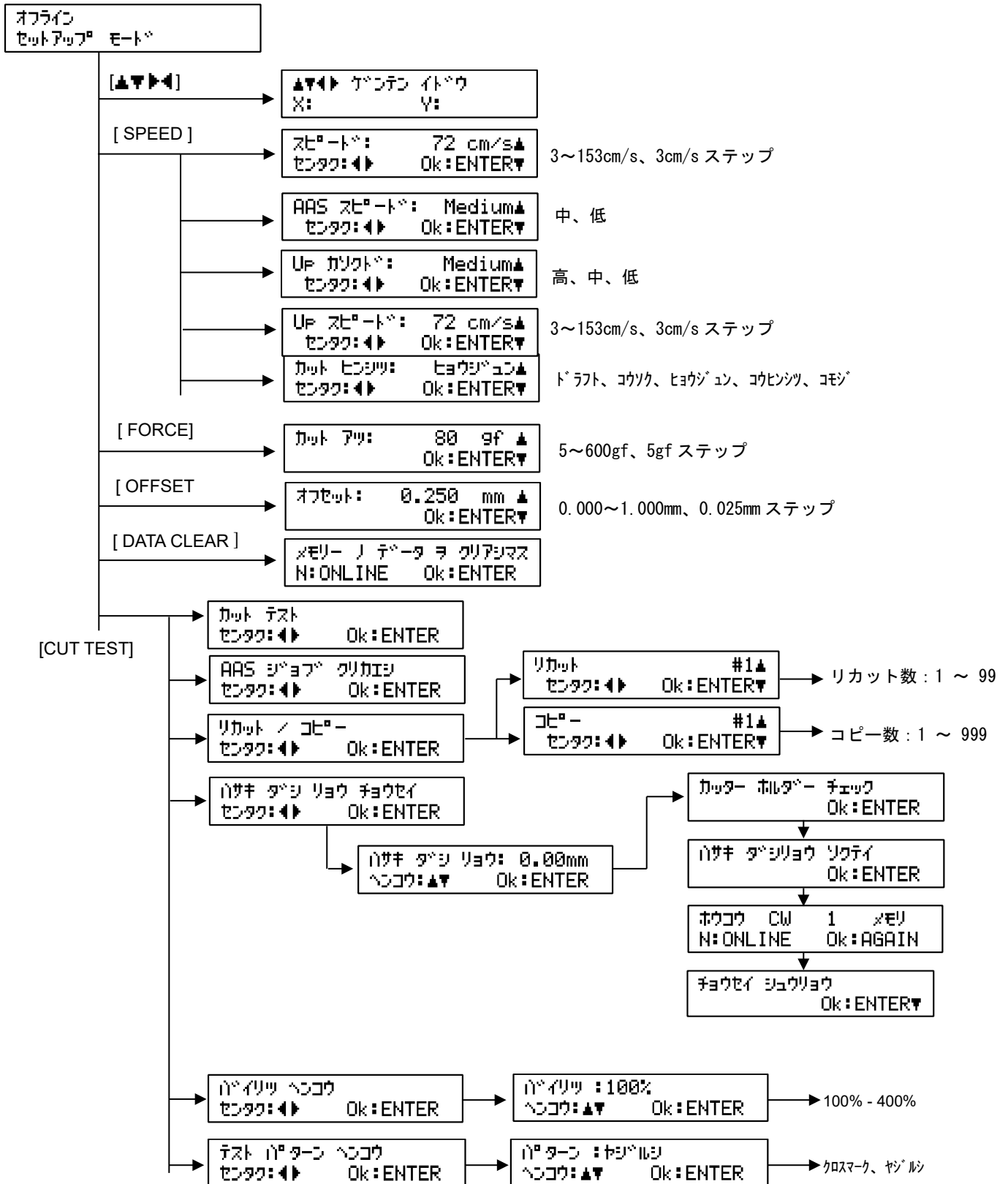
Up カリコ
センタク: ◀▶ Ok: ENTER

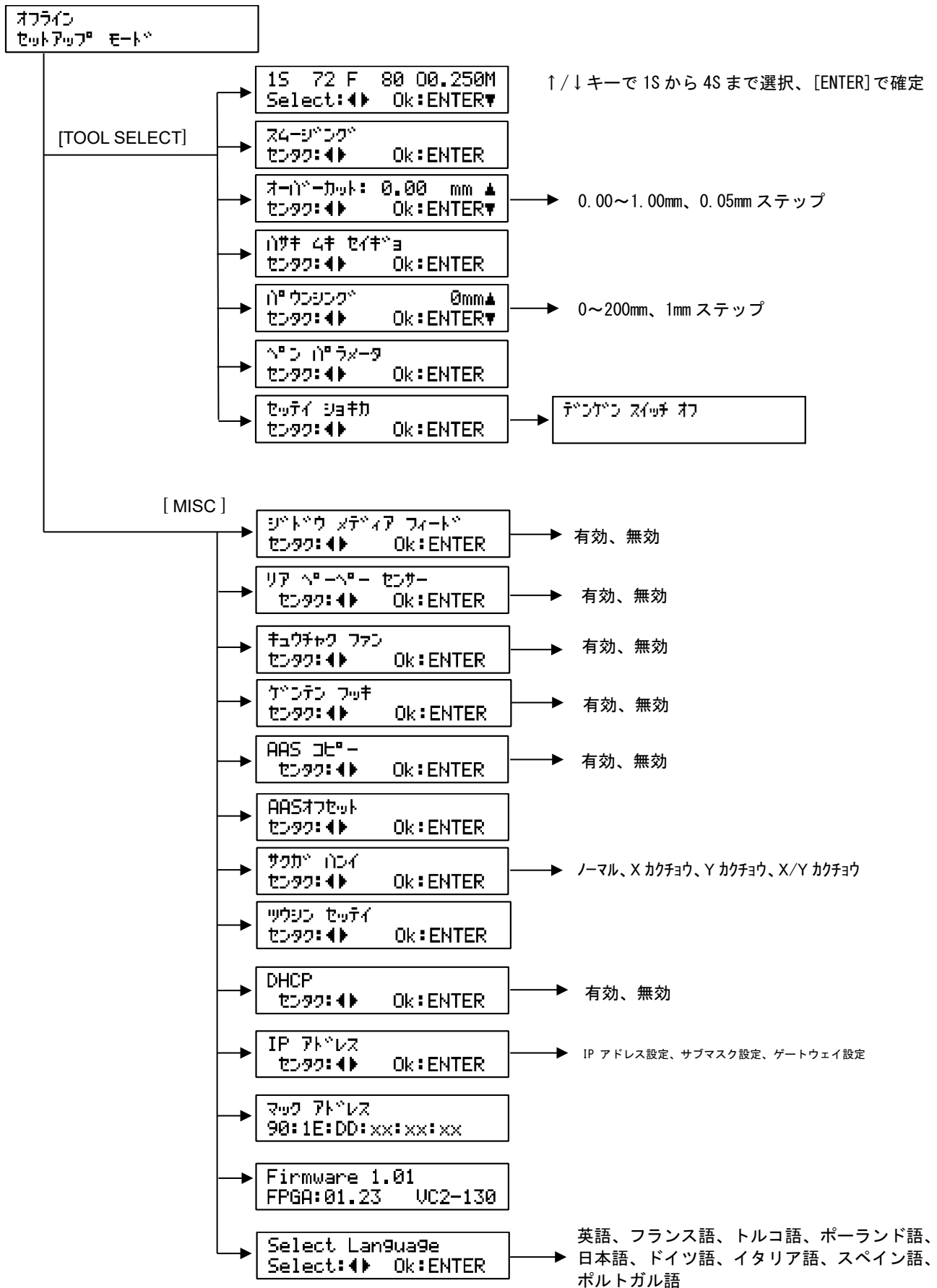
Up スピード
センタク: ◀▶ Ok: ENTER

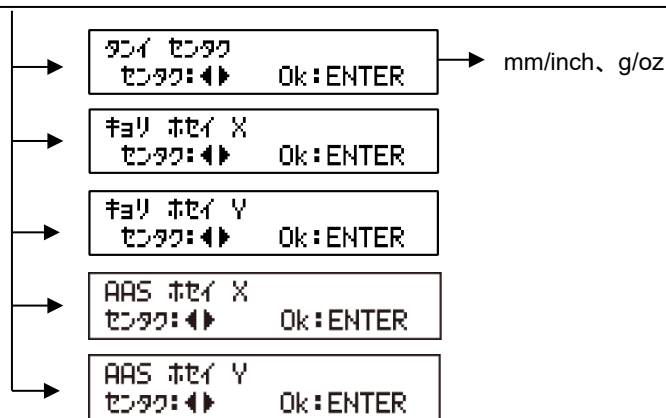
カット ヒンジツ: ヒョウジヤン▲
センタク: ◀▶ Ok: ENTER▼

3.3 オフラインモードのメニュー

[ON/OFF LINE]キーを押してオフラインモードに切り替えます。







3.4 メニュー項目

下はメニュー項目の機能を説明したものです。

メニューまたはキー	機能	設定値	初期値
--- メディアの検出 ---			
メディアをセットしてレバーを下げてください	レバーを下ろしメディアをセットするよう指示しています。メディアをセットしたら、レバーを下ろしてください。レバーを下ろすと、3つの測定モードに入ります（幅、幅+先端、カット紙）。		
ハバ	メディア幅のみ検出します。	最大送り 150 m	
ハバ+センチ	メディア幅と先端を検出します。	最大送り 150 m	
カットシ	メディア幅、先端、後端を検出します。	最大送り 10 m	
--- 電源---			
	電源の状態を表示します。		
[JOG キー]			
	1. X または Y 軸のツールキャリッジの位置を移動させます。 2. 機能を選択、または設定値を変えます。		
[ENTER]			
	1.表示されているパラメータを保存します。 2.現在のツールキャリッジの位置を原点に設定します。 “オフライン”モード時、[JOG] キーでツールキャリッジを希望する位置に動かし、[ENTER]キーを押して、新しい原点をセットします。XY 軸のパラメータ移動時、[MISC] キーを一度押すと、微調整移動が有効になります。 [MISC]キーをもう一度押すと、微調整移動が無効になります。		
[PAUSE / RESUME]			
	カッティングを一時的に停止します。 [PAUSE / RESUME]キーをもう一度押すとカッティングを再開します。		

[ON / OFF LINE]			
	1.オンラインモードとオフラインモードを切り替えます。 2.カッティング作業を停止、または設定変更を中止します。 このキーを押すと、カッティング作業は直ちに終了となり、残りのデータは無視されます。		
[OFFSET]			
	カッター刃先端のオフセット量を設定します。 詳しくは 4.3 あるいは A-2 の説明をご覧ください。	0.000~1.000 mm	0.250 mm
[FORCE]			
	カット圧を設定します。 カット圧が 450 g を越える場合、最大カッティング速度は 15 cm / sec、カット品質は小文字モード（加速度 0.2G）になります。また、カッティング力が 300 g - 449 g の場合、最大カット速度は 30 cm / sec、カット品質はファインモード（加速度 0.5G）となります。	5~600 g ; 5 g / ステップ毎	80 g
[SPEED]			
スピード	ツールダウン速度を設定します。	3~153 cm / sec; 3 cm / sec ステップ毎	72 cm / sec
AAS スピード	AAS 検知スピードを設定します。	中、低	中
UP 加速度	ツールが水平移動終点から次の始点へ移動するときのツールの加速度を設定します。	高、中、低	中
アップスピード	ツールが水平移動終点から次の始点へ移動するときのツールの速度を設定します。	3~153 cm / sec; 3 cm / sec ステップ毎	72 cm / sec
カット品質	カッティング品質（加速度）を設定します。 小さい文字をカッティングする時は“小文字”に設定します。 速くカッティングしたい時は“ドラフト”、通常の操作は“標準”に設定します。	ドラフト(4.2G)、 コウツク(2.8G)、 ヒョウジユン(1.4G)、 コウヒンシツ(0.7G)、 コモジ (0.2G)	ヒョウジユン
[CUT TEST]			
カットテスト	現在のホルダーの位置でカッティングテストを行います。 詳しくは“4.3 カッティング力及びオフセットの調節”を参考に、カット圧およびオフセットを調節してください。		
AAS ジョブ繰り返し	AAS 作業をコンピュータ側から再送信することなく繰り返します。 この機能は主にシングルペーパーモードに適用されますので、注意してください。始める前に、この機能を使用したい新しいメディアをセットし、最初の登録マークに原点を設定してください。AAS 作業が終了しメインメニューに戻る場合は “ON / OFF LINE” キーを押してください。 このオプションは、すべてのトンボマークの読み取りが終了した後に表示されます。		

リカット／コピー	リカット： データを再送信せずに最後の作業を繰り返しカットします。	1~99; ステップ毎に 1	
	コピー： データを再送信せずに最後の作業をコピーします。 * ギャップを 1 mm 空けると自動的に 2 コピーになります。 * メディアの長さが十分でない場合、液晶パネルに下のよう なメッセージが表示されます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">サカカ 100イ カイ; # コピ - ジュウリョウ</div> * 両方の機能が同時に有効の場合、最後に設定したもののみ が有効になります。	1~999; ステップ毎に 1	
刃先出し量設定	詳しくは、“2.9 カッター刃先長さ自動検出”を参照。 カッター刃長さの調整方法 注意： 1. カッター刃長さを 0 にしてから調整を開始します。 2. まず、カッターホルダーの高さを測定し、それから“ENTER”キーを押して、刃先の長さを測定します。 3. 「カッター刃先長さ自動検知」機能動作中、あるいは刃先調整ノブの調整は、途中で位置を変更せず、常に同じ位置で調整してください。 4. カッターホルダーと刃先の長さテストが終わると、液晶パネルに刃先調整ノブの目盛と方向[CW（時計回り）または CCW（反時計回り）]が示されます。例えば、「ホウコウ CW 5 メモリ」と表示される場合は、ノブを時計方向に 5 目盛回すようにという表示です。 刃先の突出し量が設定値通りで調整の必要がないときは、「0 メモリ」と表示されます。ここからカッティングを開始できます。	0.00 mm - 5.00 mm	0.00 mm
倍率変更	テストパターンのサイズを調節します。 * オンラインデータには機能しません。	100%, 200%, 300%, 400%	100%
テストパターン変更	テストパターンには 2 種類のデータがあります。 注意：厚みのある素材で作業する場合は、“クロスマーク”を選ぶことをお勧めします。	矢印、クロスマーク	矢印
[DATA CLEAR]			
	バッファメモリを消去します。		
[TOOL SELECT]			
スムーズジグ	スムーズカット機能を有効にします。 この機能は緩曲線をスムーズにカットするためのものです。 小さい画像または文字をカットする時は無効にすることをお勧めします。	有効、無効	有効
オーバーカット	始終点をオーバーカットして、角をきれいにカットします。 この機能は主に厚い素材に適用され、角を鋭くし、正確にカットするためのものです。	0.00 mm - 3.00 mm 0.05 mm / ステップ毎	0.00 mm

刃先向き制御	厚めのメディアや小型文字のカットのため、コーナーで一度ペンアップして刃先の向きを変更する動作をエミュレートした機能です。 注意：オフセット値が 0.000 mm に設定されている時、本機能は自動的に無効になります。	有効、無効	無効
パウンシング	連続した穴あけを行います。 * この機能を使うためには、パウンシングツールが必要です。 * パウンシングを始める前に、パウンシングパッドをカッティングパッドの上に置き、カッティングパッドを保護します。 * 設定値を 0 mm にすると本機能は無効になります。 * パウンシングツールとパウンシングパッドはオプションです。	0 ~ 200 mm	0 mm
ペンパラメータ	コマンド優先： カット圧、速度、カッティング品質、オフセットのコマンドを優先します。 パネル優先： 操作パネルで設定されたカット圧、速度、カッティング品質、オフセットの設定を優先します。	コマンド、パネル	コマンド
セッテイションキカ	メニューアイテムのパラメータをすべて工場出荷時の初期値に戻します。（Enter すると直ちに初期化されます。）		
[MISC]			
自動メディアフィード	紙詰まりやモーターへの過負荷を防ぐため、カッティング前に自動的にメディアを 50 cm 及びそれ以上引き出します。 * 本機能はロール紙使用時のみ有効となり、カット紙使用時は無効となります。 * ロールメディアの長さが 2 メートル以下または重量が軽い場合、このモードは無効にすることをお勧めします。 * 50 cm 以上のデータを受信した場合、都度新たにメディアを引き出します。	有効、無効	有効
リヤペーパーセンサー	リヤペーパーホルダーが覆われているかどうかを検知して次のプロセスを決定します。有効のとき、カッターは、ロールおよびエッジモードで素材がリヤペーパーセンサーを覆っているかどうかを検知します。無効のときは、リヤペーパーセンサーが機能しません。	有効、無効	有効
吸着ファン	メディアを安定して搬送するために、吸着 FAN を動作させてメディアをプラテン上に吸着させます。	有効、無効	有効
原点復帰	カット終了後、ON/OFF LINE キーを押した時にキャリッジを前の原点に戻します。 “有効”を選ぶと、キャリッジは前の原点に戻ります。 “無効”を選ぶとキャリッジは戻りません。	有効、無効	有効
AAS コピー	AAS コピーを有効にします。「有効」が選択されたとき、AAS モジュールはトンボマークの読み取りを続け、輪郭カットを行います。この機能では、画像間の距離と AAS コピーの回数を設定できます。距離範囲は 0~500 mm で、回数範囲は 0~1000 です。	有効、無効	無効
AAS オフセット	AAS モジュールのセンサー位置と、カッターホルダーの位置のオフセットを調整します。 詳しくは“5.3 プリンタテスト”をご覧ください。		

作画範囲	4種類の作画範囲から選択します。 1. X拡張モード 2. Y拡張モード 3. X/Y拡張モード 4. ノーマルモード		X 拡張
通信設定	コンピュータとカッター間のシリアルポートの通信条件を設定します。通信速度、パリティ、データビット、ストップビットの順に表示されています。 9600, n, 7, 1, p 9600pbs, 7 Bits with NO Parity 9600, o, 7, 1, p 9600pbs, 7 Bits with ODD Parity 9600, e, 7, 1, p 9600pbs, 7 Bits with EVEN Parity 9600, n, 8, 1, p 9600pbs, 8 Bits with NO Parity 9600, o, 8, 1, p 9600pbs, 8 Bits with ODD Parity 9600, e, 8, 1, p 9600pbs, 8 Bits with EVEN Parity 19200, n, 7, 1, p 19200pbs, 7 Bits with NO Parity 19200, o, 7, 1, p 19200pbs, 7 Bits with ODD Parity 19200, e, 7, 1, p 19200pbs, 7 Bits with EVEN Parity 19200, n, 8, 1, p 19200pbs, 8 Bits with NO Parity 19200, o, 8, 1, p 19200pbs, 8 Bits with ODD Parity 19200, e, 8, 1, p 19200pbs, 8 Bits with EVEN Parity		9600,n,8,1, p
DHCP	TCP/IP 構成の IP アドレスを表示します。		
IP アドレス	カッティングプロッタの IP アドレスを表示します。		
MAC アドレス	カッティングプロッタの MAC アドレスを表示します。		
ファームウェアバージョン	ファームウェアのバージョン番号及び FPGA コードを表示します。		
言語選択	パネルに表示する言語を選択します。 英語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語、日本語、ポルトガル語、ポーランド語、トルコ語、フランス語から選択します。		英語
単位選択	パネルに表示する長さの単位を選択します。	mm/inch, g/oz	Metric
距離補正 X	メディアの厚さによってメディアの搬送距離が異なりますので、使用するメディアに合わせて搬送距離を調整することができます。 分母に実測値、分子に理論値を入力します。 例えば、500.0 mm の長さの線をカットする場合、次のような手順になります。	250 mm / 250 mm 500 mm / 500 mm 750 mm / 750 mm	250 mm / 250 mm
距離補正 Y	1. [左矢印]キーを押して分子を選び、500.0 mm を選びます。 2. 画像ファイルを送って、500 mm の線をカットします。 3. 長さを測定し、[右矢印]キーで分母を選びます。 4. [上矢印/下矢印]で実際の長さの値を変更します。 設定できる範囲は±1%です。		
AAS ホセイ X	固定補正、メンテナンス専用	80% ~ 120%	100%
AAS ホセイ Y			

4 操作

4.1 メディアのセット

4.1.1 カット紙のセット

メディアを正しくセットするために以下の手順に従って操作してください。

Step 1

カッティングプロッタ右上のレバーを使ってピンチローラーを上げます。カチッと音がするまでレバーを前に引くと、ピンチローラーが持ち上がります。(図 4-1)

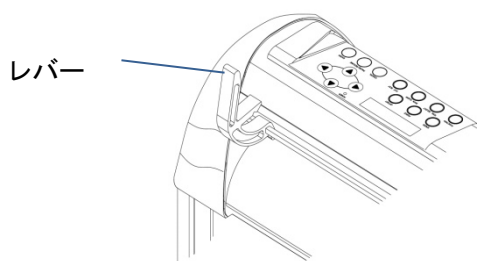


図 4-1

Step 2

メディアをプラテン上にセットし、ピンチローラーの下を通して、正面か背面からスライドして入れます。プラテン上の目盛を参考にメディアを真っ直ぐセットしてください。

注意: メディアセット時は、必ずメディアがプラテン上のペーパーセンサーを覆うようにしてください。(ペーパーセンサーの位置は機種により異なります。図 4-2) ペーパーセンサーは前後に付いているので、少なくとも二つのペーパーセンサーのうちの一つが覆われていなければなりません。メディアがセンサーを覆うと、カッティングプロッタはメディアの幅及び長さが可能となります。

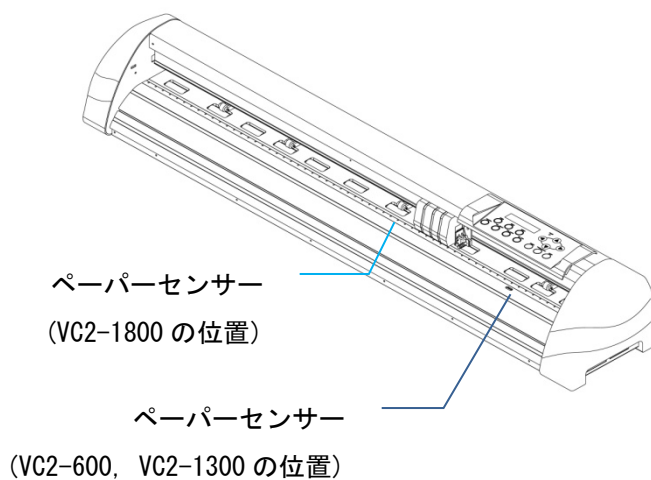


図 4-2

Step 3

ピンチローラーを手動で正しい位置に動かします。ピンチローラーがグリッドローラーの上に位置しているか必ず確認してください。Yレールの**白マーク**がグリッドローラーの位置を表しています。(図 4-3)

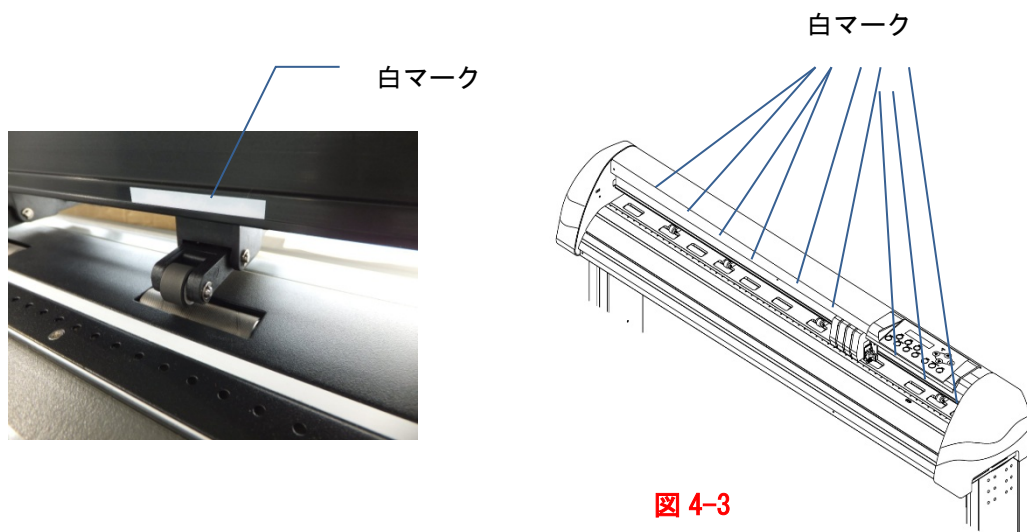


図 4-3

注意:

1. ピンチローラーの移動は必ずピンチローラーを上げてから位置を調節してください。
2. ピンチローラーサポートの背面側から操作してピンチローラーを動かしてください。
3. 正面のラバーローラーを握って動かさないでください。(図 4-4)

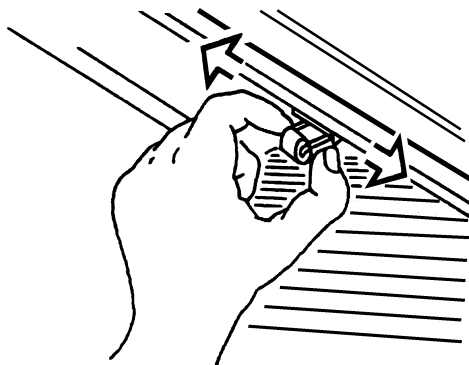
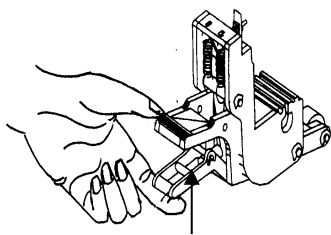
**(X) 禁止**

図 4-4

注意: メディア幅を正確に検知できるように、レバーを後ろに押す前に、ピンチローラー全体を底から (図 4-5) を持ち上げてください。



底を持ち上げてグリップをはずします

有効

図 4-5

Step 4

レバーを後ろに倒してピンチローラーを下げます。

Step 5

操作パネルにメディア検出の方法（幅、幅+先端、カット紙）が表示されますので、[▶]キーを押してカット紙を選択してください。

4.1.2 ロール紙のセット

Step 1

2本のロールホルダーシャフトにロールメディアガイドブッシュをつけます。（図 4-6）

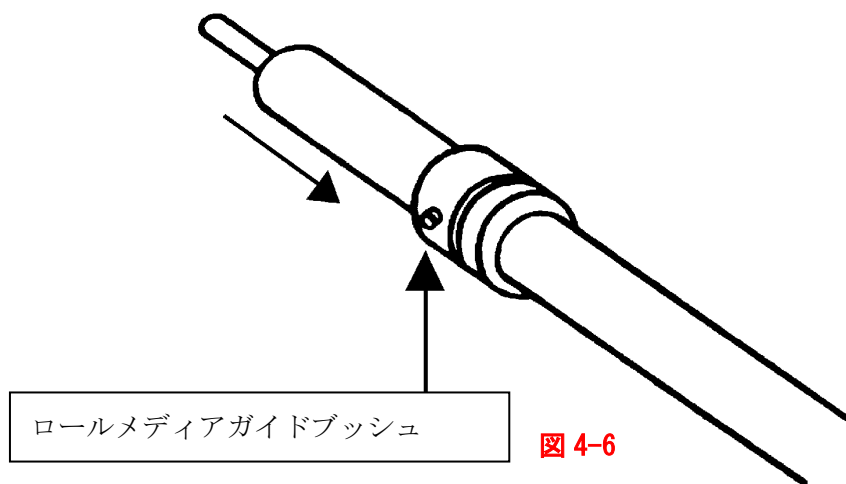


図 4-6

Step 2

-- 装着方法 A (メディアフランジ使用) (推奨)

ロールメディアフランジをロール紙の両端に挿入し、ロールメディアがしっかり止まるまでつまみネジを締めます。(図 4-7)。

ロールメディアをロールホルダーの上に置きます。メディアフランジがメディアガイドブッシュの溝できちんと動くように、ロールメディアブッシュの位置を調節してください。(図 4-8)

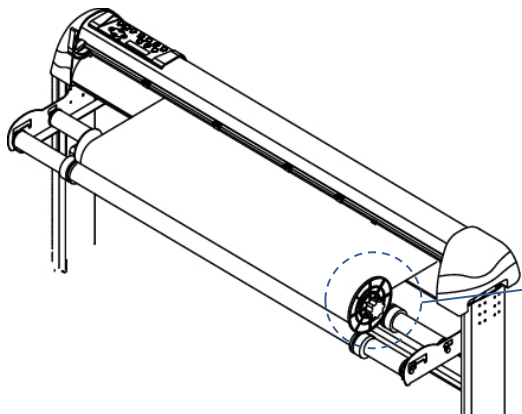


図 4-7

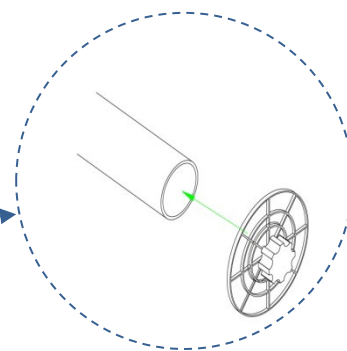


図 4-8

-- 装着方法 B

2本のロールホルダーシャフトをロールメディアサポートセットに入れ、ロールメディアを直接2本のロールホルダーシャフトの上に置きます。(図 4-9 参照)

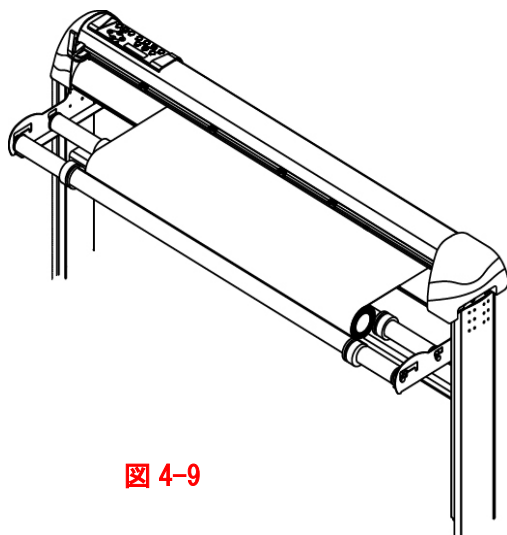


図 4-9

Step 3

プラテン上にメディアをセットします。“4.1.1 カット紙のセット”を参考にしてください。ロールメディア装填後、プラテン上のメディアを平らにし、ロールメディアの先端を 1 m ほど引き出します。(図 4-10)

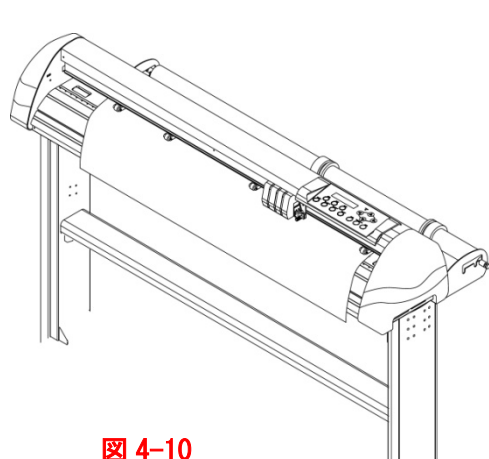


図 4-10

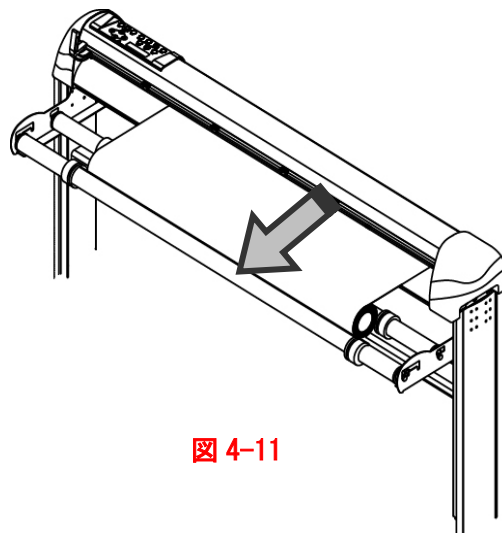


図 4-11

Step 4

ロール紙を巻き戻し、左右のたるみを取り除きます。(図 4-11)

Step 5

最適な位置にピンチローラーを動かします。この時、ピンチローラーがグリッドドラムの上に位置するように気をつけてください。

注意： メディアの左右にたるみが出ないようにロール紙を巻き戻してください。たるみがあると斜行の原因となります。

Step 6

レバーを後ろに倒し、ピンチローラーを下げます。

Step 7

ロールメディアガイドブッシュをロールホルダーシャフト上に固定し、ロールメディアが左右に動かないようにします。

Step 8

操作パネルにメディア検出の方法（幅、幅+先端、カット紙）が表示されますので、▲キーまたは▼キーを押してロール紙を選択して下さい。

Step 9

メディアを取り外す時は、逆の順番で行って下さい。

4.2 メディア搬送

長いプロットをうまくメディア搬送させるために、メディアセット方法のコツをいくつか紹介します。手順は次のとおりです。

メディアの長さが 4 m 以下の場合、メディアの左右端に 0.5 mm – 25 mm の余白を設けてください。
(図 4-12)

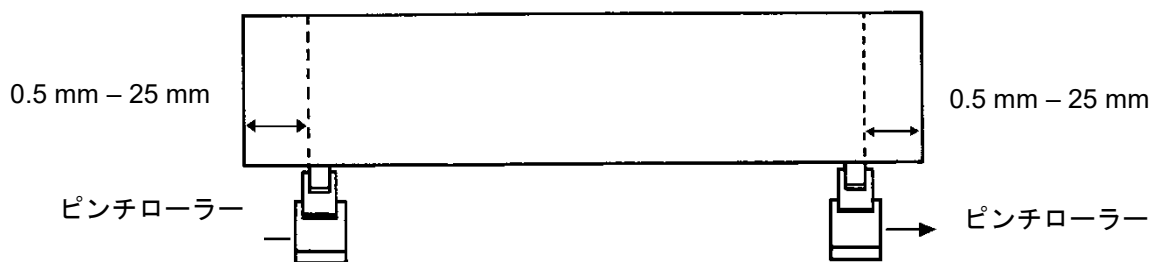


図 4-12

メディアの長さが 4 m 以上の場合、メディアの左右端に 25 mm 以上の余白を設けてください。(図 4-13)

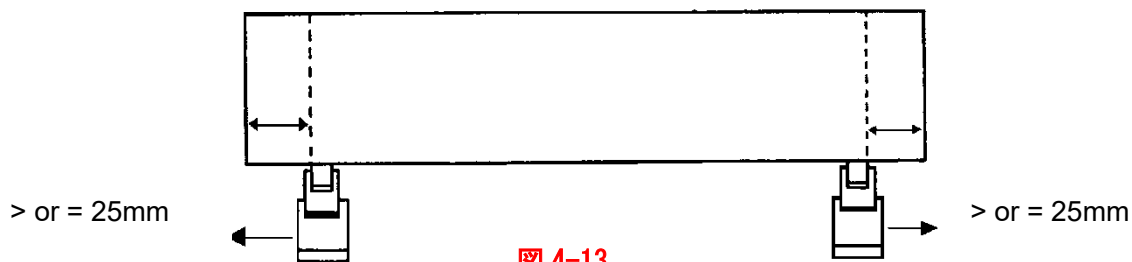


図 4-13

カット条件については、“4.5 長尺のカット”の段落を参考にしてください。

4.3 カット圧及びカッターオフセット調節

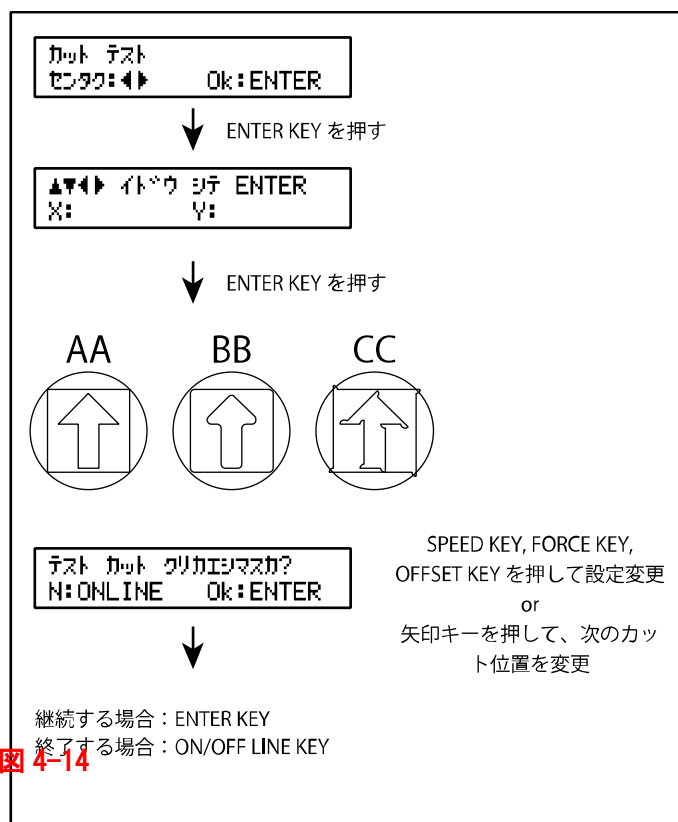
良好なカッティング結果を得るためには、データを本製品に送信する前に“カットテスト”を実施してください。“カットテスト”は、良好なカッティング結果が得られるまで続けてください。

メディア検出終了後、[ON/ OFF LINE]キーを押してオフラインモードに切り替えた後、[CUT TEST]キーを押して、“カットテスト”を選択し、[ENTER]キーで確定するとテストカットを実行します。

デフォルトのカット圧とオフセット値は、それぞれ 80 gf 及び 0.275 mm です。[JOG]キーを押し、ツールキャリッジを希望する位置に移動させます。それから、[ENTER]キーを押してカットテストを行います。

注意： [ENTER]キーを押すと同時に、新しい原点がカッティングテストの位置にセットされます。

カッティングテストが完了したら、テストパターンがカットされています。パターンを剥がし、台紙から簡単にシートが剥がれるか確認します。きちんとはがれれば、ツール圧の設定は適当です。切れていない場合、または台紙まで切れている場合は、[FORCE]キーを押し、最適なカット圧に変更してください。(図 4-14)



カットパターンが BB または CC の結果なら、[OFFSET]キーを押して、AA の結果になるまでオフセット値を調節します。

BB の結果ならオフセット値を増やし、CC の結果ならオフセット値を減らして調整してください。

4.4 小文字のカット

質のよい小文字の出力結果を得るためには、幅の狭いメディアを使用することをお勧めしますが、幅の広いメディアを使用する時は、次のようにしてください。

1. 2つのピンチローラーをカッティングエリアできるだけ近づけます。
2. セットしたメディアがプラテン上で均等な張力で平らになっているか確認してください。
3. 推奨カット条件設定：

カット圧：55 gf. (素材によって調節してください)

カッティング速度：45 - 50 cm / sec

ツールアップ速度：45 - 60 cm / sec

スムージング：無効

カット品質：小文字

4.5 長尺のカット

重量の重い幅広の塩ビシートや紙等で長尺データのプロットを行う時、“自動メディアフィード”機能を有効に設定してください。以下に紹介する設定条件は、最高の状態でカッティングできるようにするものです。シートの材料により、実際の出力品質はそれぞれ異なりますので、状況に応じて更に設定変更してください。

1. カットデータの長さが3 m～5 mの間の時、カッティング速度は72 cm / secより遅く、カッティング品質は”標準”に設定します。
2. 長さが5 mより長く、あるいは切りにくい材料の場合、カッティング速度は更に遅くしたほうが良いでしょう。
3. ロールメディアをセットした後、ピンチローラーの全てをメディア上に移動し、プラテン上のメディアを平らにし、ロールメディアの先端を1 mほど引き出します。(図 4-15)

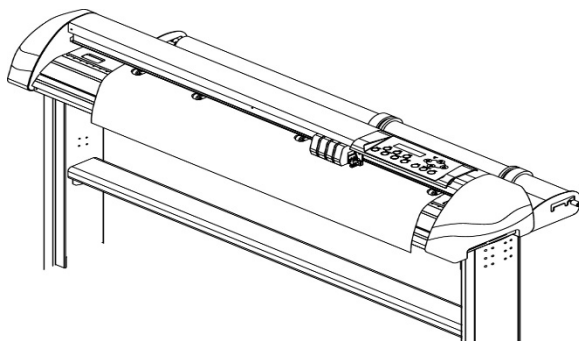
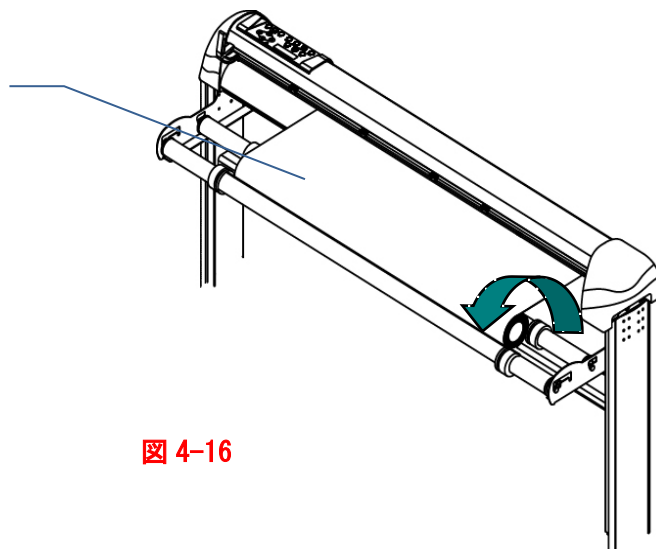


図 4-15

4. ロール紙を巻き戻し、左右のたるみを取り除きます。(図 4-16 参照)

注意：

メディアの左右にたるみが出ないようにロール紙を巻き戻してください。たるみがあると斜行の原因となります。

**図 4-16**

5. レバーを後ろに倒し、ピンチローラーを下げます。
6. ロールメディアガイドブッシュをロールホルダーシャフトに固定し、ロールメディアが左右に動かないようにします。
7. 刃先の突出部の長さはビニルの厚さより長くなければなりません。(付録の“9.3 ツールについて”を参照してください)

4.6 カッティング作業が終わったら

カッティングが終わったら、シート装填レバーを持ち上げ、素材を取り除きます。ナイフガイドに沿って(図 4-17) 横切りカッター (標準付属品) で切り落とすことができます。

**図 4-17**

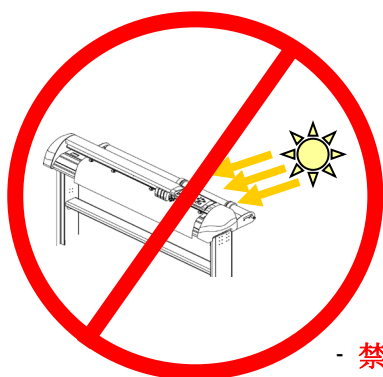
5 AAS II システム

5.1 始めに

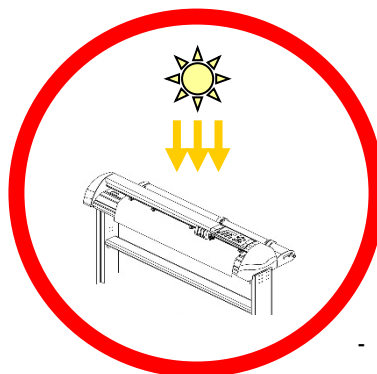
本製品は、標準で Automatic-Aligning System II (AAS II) を搭載しており、ValueJet プリンタ等で印刷した画像の周りに印刷されたトンボマークを検出し、正確な輪郭カッティング品質を実現します。

注意

- AAS モジュールに水平方向から光が当たらないようにしてください。



- 禁止



- 許容

- 作動中は、キャリッジカバーを外さないでください。



- 禁止

5.2 AAS 輪郭カッティングシステム

AAS を操作するために、まず、メディアの装着方法から知っておかなければなりません。(4.1 メディアの装填を参照)

5.2.1 メディア補正

幅広い材質に対応していますが、メディアによっては正常に作動しないことがあります。

トンボが検出できない場合は、トンボマークの線幅を変更したり、メディア種を変更したりしてください。トンボ検出の感度調整はできません。

5.2.2 トンボの条件

原点側の一つ目のトンボマークは、AAS 自動検知で原点を識別するために、他のものとは異なるデザインになっています。トンボマークが自動的に読み取られるように、次の注意事項に気をつけてください。

- メディアのタイプ
- トンボマークの形状
- トンボマークを検知するために必要な読み込み範囲
- トンボマーク及びメディアの位置

トンボマークは以下の条件を満足しなければなりません。

- ValueCut 専用のカッティングソフトウェアで作製されたもの
- 黒色 (トンボマークの印字品質は重要です。不鮮明なマークでは正確なカッティングができない場合があります。)
- トンボマークの線の長さ
 - 範囲 : 10 mm ~ 50 mm
 - 最適化設定 : 25 mm
- トンボマークの線の太さ
 - 範囲 : 1 mm ~ 2 mm
 - 最適化設定 : 1 mm
- トンボマークと画像との距離
 - 範囲 : 1 mm ~ 50 mm
 - 最適化設定 : 5 mm

次のような場合、カッターはトンボマークを検知できません。

- カッターキャリッジがトンボマークの近くにない。(自動検知エリアの最初のマークについては 5-7 ページの図を参照)
- メディアの厚さが 0.8 mm 以上。
- 透明なメディア。
- 白黒ではない画像。色のついたメディアに印刷されたマークは読み取られません。
- メディアの表面が汚れている、あるいはシワがある。

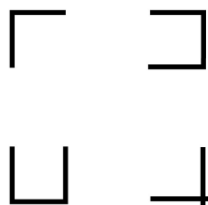
5.2.3 トンボの種類

AAS II システムのトンボマークのパターンは、4点補正、セグメント補正、セグメントカットの3つのタイプがあります。インクジェットプリンタで印刷する前に、カッティングソフトウェアで画像デザインにトンボマークをつけなければなりません。手作りのトンボマークでは本製品で認識されません。

1. 4点補正

これは基本のトンボマークです。AAS II は、このマークの中の4つのトンボマークと輪郭カット画像を自動検知します。

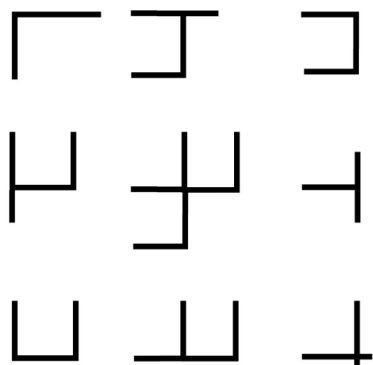
- コマンド : Esc.D1;(XDist);(YDist):
- レイアウト : デザインの周りの4つの角に4つのL型マーク



4点補正の応用として、マルチコピーという機能があります。

本機能は、同じ画像を複数コピーして繰り返しカットするために使います。AAS II センサーが自動的にそれぞれの画像のトンボマークをスキャンし、精度の高い輪郭カットを行います。

- コマンド : Esc.D3;(XCopies);(YCopies);(Space):
- レイアウト :



2. セグメント補正

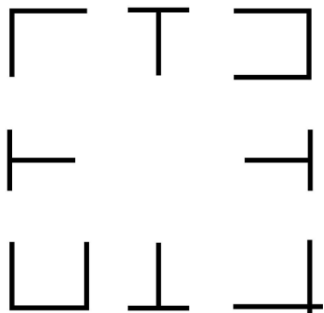
4つのポイントに加え、X軸とY軸の両方の中間部にもトンボマークが加えられます。特に大型画像をカットする時、正確に輪郭を切るのを助けます。

セグメント補正では、印刷された全てのトンボを読み込み、ブロック（セグメント）ごとのトンボ間の距離により、カットデータの距離補正を行ってからカットを行います。

- コマンド : Esc.D2;(XDist);(YDist);(XStep);(YStep):
- レイアウト :

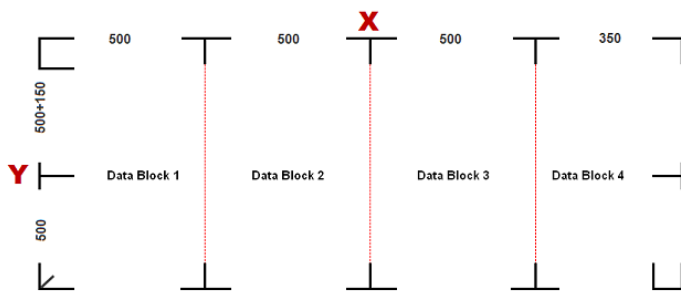
Xの中割り距離 : 200 ~ 600 mm, デフォルト 500 mm

Yの中割り距離 : 200 ~ 600 mm, デフォルト 500 mm



3. セグメントカット

セグメント補正の応用として、セグメントカットという機能があります。印刷されるトンボは、セグメント補正と同様に、X軸（用紙送り方向）に中間トンボを印刷し、下図に示すように、データブロックごとに四隅の4点のトンボを読み込んで、セグメント補正同様、各ブロック内の距離補正を行いながら、そのブロックのエリアにあるデータのみをカットします。そのブロックのデータをカットし終わると、次のブロックの4つのトンボを読み込み、そのブロックのデータをカットします。このように、ブロックごとのデータを順番にカットしていくため、メディアのスリップやメディアの巻き込みなどの問題が発生しにくくなるため、長尺データのカットに向いています。



- セグメント位置決めパラメータにより、セクション毎にデータ出力します。
- カuttingシーケンス：データブロック 1-> データブロック 2-> データブロック 3->データブロック 4

4. メディアのセット方向の自動判別

本製品は輪郭カッティングを行うとき、自動的にセットされたメディアの方向を検知します。図 5-1 は、メディアが標準方法で (1->2->3->4) セットされる時のトンボマーク検知シーケンスです。図 5-2 はメディアが逆の順 (3->4->1->2) にセットされるシーケンスです。この検出結果の違いにより本製品は用紙の向きを判断します。本機能によりオペレーターが向きを間違えてメディアをセットしても、本製品がトンボマークの向きを検出して正しく輪郭カットできるようになっています。

方向区別の手順：(図 5-2 参照)

- “3”のトンボマークの位置を検知。
- “4”のトンボマークの向きによりメディアが逆向きにセットされたことを認識します。
(“4”のトンボマークの向きにより方向区別手順が行われます)
- 情報がドライバに反映され、出力前に計算しなおします。
- トンボマーク検出及び目的物出力プロセスが実行されます。
(トンボマーク検出シーケンス：3->4->1->2)

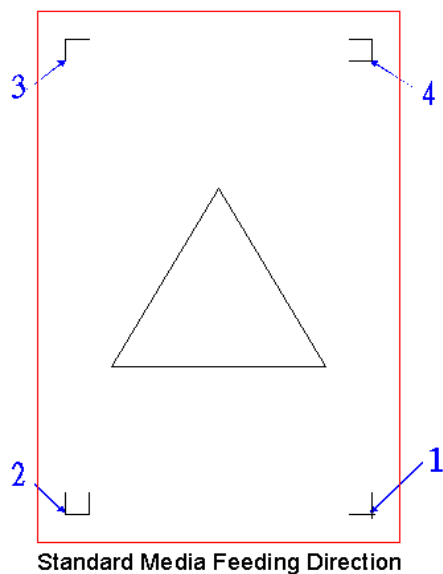


図 5-1

標準メディア装填方向

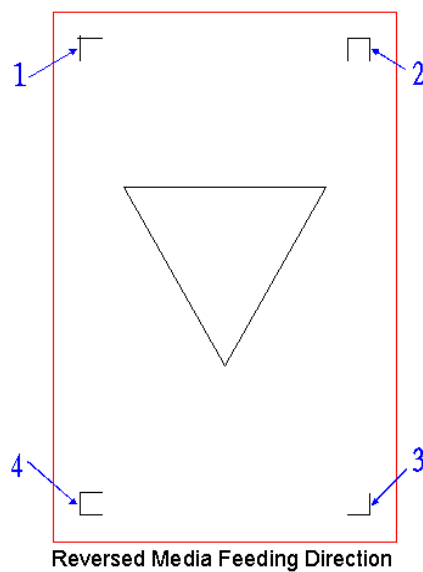


図 5-2

逆方向のメディア装填

5.3 プロッタのテストとオフセット調整

輪郭カットを始める前に、本製品の AAS II カutting 精度を確かめるため、同封のインストール CD に収録されているテストファイルで調整することをお勧めします。

2 つの AASII 用テストファイルがあります。

AAS offset Calibration.pdf (プリントデータ)

AAS offset Calibration.plt (Cutting データ)

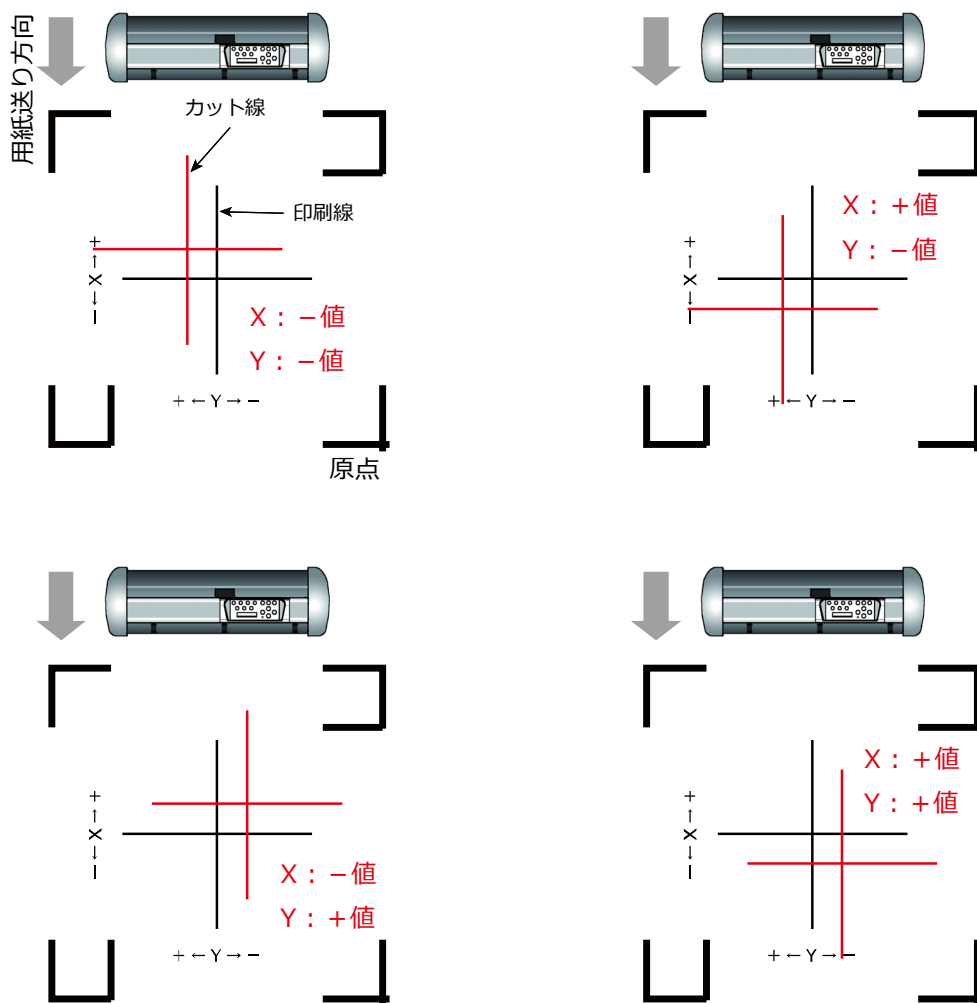
1. プリントデータを 100% で印刷してください。(高精度のプリンタを使用してください)
2. 本製品に印字結果をセットし、Cutting データを出力します。
Cutting データは FlexiSTARTER の Production Manager より出力できます。
3. テストイメージとカットラインがずれている場合、次の手順で補正してください。

- 印刷された線と実際にカットされた線のズレ量を測定します。
- MISC メニューで AAS オフセットに測定した値を入力します。
- もう一度 Cutting をテストします。
- AAS II オフセット X 及び Y 値は次のように定義されています。

横線は X、縦は Y と定義されます。(Cutting プロッタに対して)

実際のカットラインが印刷された線に対してオリジンマークから離れる方向の場合マイナスの符号を付加して入力してください。オリジンマークに近づく場合はプラスの符号を付加して入力してください。(以下のイラストを参考にしてください)

この方法は X と Y 軸の両方に適用できます。

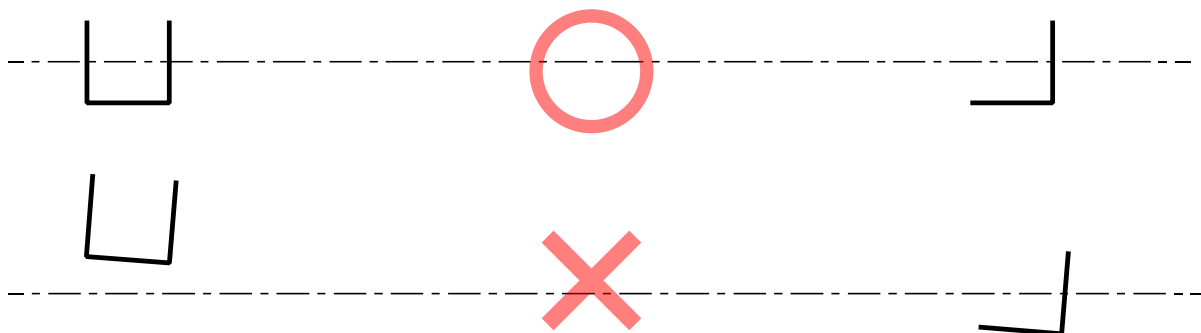


注意：

- AAS II オフセットを調節する前に、距離補正X/Yを実施してください。
- カッターオフセットはご使用のカッター刃に合わせて設定してください。
- 不明点については、弊社または最寄りの販売店にお問い合わせください。

5.4 トンボマークの読み取り範囲

トンボマークがうまく検出できるように用紙はできるだけ真っ直ぐにセットしてください。
右下の原点マークに対して水平方向に2つ目のトンボがある場合のみ検出できます。



5.5 輪郭カット

AAS 機能で輪郭カットを行う場合は次の手順で行ってください。

Step 1

ValueCut に標準添付されている FlexiSTARTER を使うか、ValueCut に対応した専用のカッティングソフトを使って、5.2.3 で説明したトンボマークを付けた輪郭カットデータを作成します。

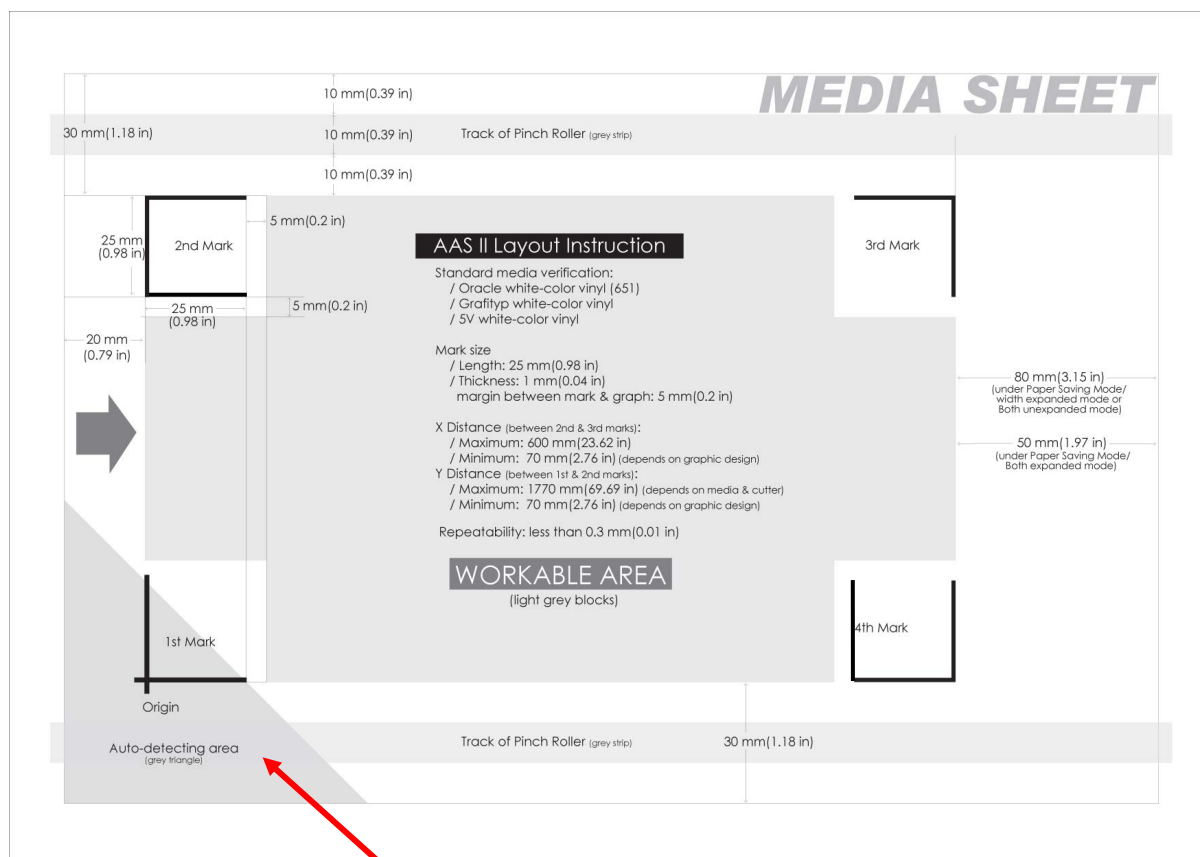


注意：

FlexiSTARTER を使った場合のデータ作成方法は、本書第 8 章「FlexiSTARTER のクイックガイド」を参照してください。それ以外のソフトを使って輪郭カットを行う場合は、そのソフトのマニュアルをお読みください。

トンボマークは専用のソフトにより割り付けられますが、メディアに対して以下のような位置関係で割り付けられます

AAS レイアウトの説明：



*灰色部分が原点のトンボを自動で検出できる領域です。

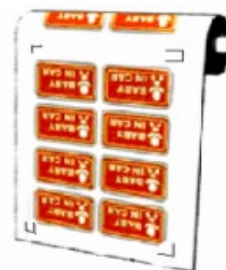
- メディアシートの左右両側にトンボから 30 mm の余白をとることをお勧めします。
- シートを落としたり、メディアのサイズを測る時エラーが起きたりしないように、メディアシート下部（手前）に 20～30 mm、上部（奥）に少なくとも 50 mm の余白をつけることをお勧めします。

Step 2

画像を印刷します。

- トンボマーク付きの画像をプリンタで印刷します。

注意：
印刷機の機能を使って拡大縮小はしないでください。

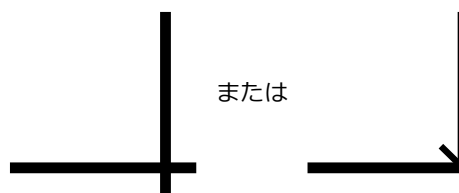


- ロールメディアに印刷する時は、方向に気をつけてください。

Step 3

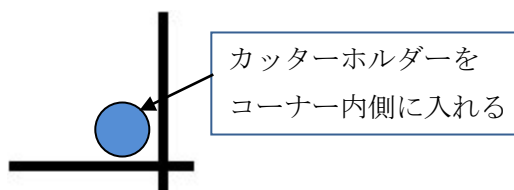
本製品にプリントしたものをセットします。

- 原点マークは他のトンボマークとは違います。メディアが正しい方向にセットされているか確認してください。



または

- ジョグキーを使って、カーソルを移動させ、カッターホルダーを原点マークのコーナー内側にセットします。



カッターホルダーを
コーナー内側に入れる

- オペレーションパネルからオンラインモードにします、

Step 4

輪郭を切る

- ソフトウェアからカットデータを送信し、輪郭カットを行います。

5.6 輪郭カットのコツ

輪郭カッティングをきれいにするためには、いくつかのコツがあります。ご参照ください。

- AAS モジュールを水平方向から光が当たらないようにしてください。
- カッティング速度を 30 ~ 60 cm / sec の間に調節します。
- トンボマークがピンチローラーのトラックにかからないようにする。
- トンボマーク検知時に、メディアの端が上に曲がっていないことを確認します。
- カッターホルダーをトンボマークのコーナー内側にセットすると、トンボマークをすぐに検出できるので、スムーズにトンボの読み取りが進みます。
- 光沢のラミネート処理されている場合、トンボの検出がうまく行かない場合があります。
- トンボの検出に失敗するようであれば、メディアを 180 度反転して（前後入れ替えて）ValueCut にセットしなおして、再度カットデータを送信して読み込みなおしてください。

6 お手入れ

この章では、カッティングプロッタに必要な基本的なお手入れ（カッティングプロッタの清掃）について説明します。下記の手順以外のメンテナンスはお客様自身で行わず、ご購入先の販売店にご相談ください。

6.1 本体のお手入れ

本製品のパフォーマンスを最適に保つため、きちんと定期的なきれいにするようにしてください。

お手入れ時の事前注意



- 感電を防ぐため、お手入れの前にカッティングプロッタの電源を抜いてください。
- 清掃には溶剤、研磨洗浄剤、強力洗浄剤を使用しないでください。カッティングプロッタの表面及び稼動部品を傷める原因になります。

おすすめの方法：

- カッティングプロッタの表面を糸くずの出ない布でやさしく拭いてください。必要があれば、水かアルコールで湿らせた布を使った後、軟らかい、糸くずの出ない布で、水気をふき取って乾かしてください。
- ツールキャリッジの溝から、ホコリや汚れをしっかりとふき取ってください。
- ピンチローラーの枠の下にたまった汚れやメディアの残留物は、掃除機を使って吸い取ってください。
- プラテン、ペーパーセンサー、ピンチローラーは、水かアルコールで湿らせた布できれいにし、軟らかい糸くずの出ない布で水気をふき取って乾かします。
- スタンドのホコリと汚れをふき取ります。

6.2 グリッドローラーのお手入れ

1. カuttingプロッタの電源を切り、掃除したい場所のツールキャリッジは移動します。
2. ピンチローラーを持ち上げ、グリッドドラムから離して清掃します。
3. 毛ブラシ（歯ブラシでもよい）を使って、グリッドローラー表面のホコリを取り除きます。ドラムを手動で回して清掃します。（図 6-1 参照）

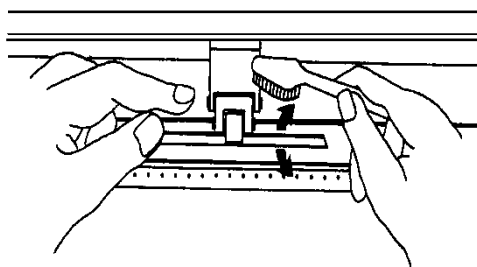


図 6-1

6.3 ピンチローラーのお手入れ

1. ピンチローラーをきれいにする場合は、糸くずの出ない布あるいは綿棒を使って、ピンチローラーのゴム部分にたまったホコリをふき取ってください。お手入れ中、ピンチローラーが回転しないように、指でピンチローラーが回転しないように押さえてください。
2. 深く潜りこんだホコリやしつこい汚れを取り除くには、糸くずの出ない布あるいは綿棒にアルコールをつけて拭き取ってください。

注意： Cuttingプロッタを日ごろからお手入れしておくことは、たいへん重要です。Cuttingをより正確に、出力品質を維持するためには、グリッドローラーとピンチローラーは定期的きれいにするように心掛けてください。

7 トラブルシューティング

この章では、よくある問題を解決するのに役立つ情報を集めています。この章の詳細に入る前に、まず、ご使用のアプリケーション環境がカッティングプロッタに適しているか確認してください。

注意： カッティングプロッタの修理を依頼する前に、カッティングプロッタが故障しているのかどうか確認してください。インターフェイスの問題あるいはコンピュータまたはソフトウェアの故障ではないか、確認が必要です。



どうしてカッティングプロッタが機能しないのか?

考えられる原因：

7.1 操作以外の問題

下記の事項を確認してください。

- AC 電源ケーブルのプラグはしっかり入っていますか？
- AC 電源ケーブルが電源コネクタにしっかりつながっていますか？
- 電源 LED がしっかり点灯しますか？

解決方法：

操作パネルにメッセージを表示できる場合、カッティングプロッタは正常な状態です。一度、カッティングプロッタの電源を切ってから電源を入れなおし、まだ問題があるかどうか確認してください。

操作パネルにメッセージを表示できない場合、お近くの販売元へご連絡ください。

7.2 操作上の問題

液晶パネルにエラーが表示される場合、次の指示に従っても問題が解決しない場合は、修理に出してください。

7.2.1 エラーメッセージ

液晶パネルに表示されるエラーメッセージは、最初に問題点、次に解決方法を表示しています。

Error; Check Media
Or Drum Or X Motor

X 軸 (メディア装填方向) に問題があることを表示しています。グリッドローラーがきちんと作動しているか、メディアがしっかりセットされているか確認して下さい。問題を修正し、電源を入れなおして、システムを再起動してください。

Error; Check Media
Or Y Motor

Y 軸(キャリッジの作動方向)に問題があり、キャリッジに障害あることを表示しています。問題を修正し、電源を入れなおして、システムを再起動してください。

Error; Check Carriage
Sensor Or VC Motor

ホルダーの上/下動作に問題があり、ホルダーの上/下動作の故障を表示しています。電源を入れなおして、システムを再起動してください。問題が解決しない場合は、修理に出してください。

Graph Was Clipped
Data In Buffer

作画範囲を越えてカットしていることを表示しています。大きいメディアに変更するか、プロットデータを小さいサイズに変更してください。液晶の表示にしたがってキーを押し、作業を続けます。

AAS ADC Value
Error

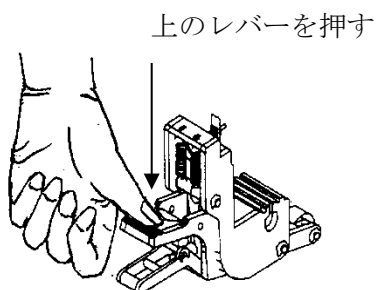
輪郭カットでトンボ検出ができなかったことを表示しています。トンボマークがきれいにプリントされているか、プロッタ側の距離補正が適切か確認してください。

7.2.2 その他操作上の問題

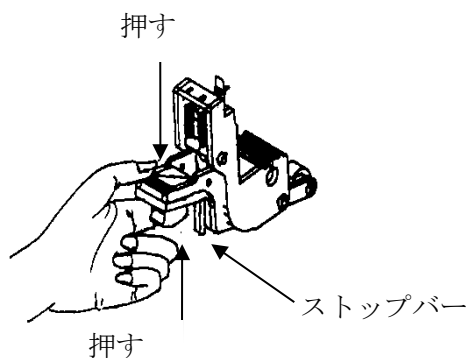
1. ピンチローラー

注意：下の絵のように解除グリップを押しながら（解除グリップはカチッと音がするまでしっかり押します）下の解除グリップを引かないでください。ピンチローラーを無効にできず、ストッパーが正しい位置に届かず機能しなくなります。

無効にする

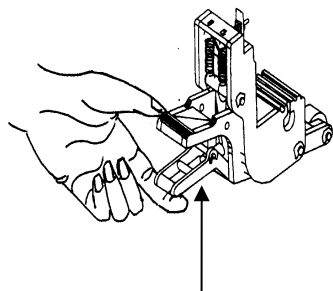


○(正しい使い方)



×(禁止)

有効にする



下のレバーを持ち上げる

2. カutting中、メディアが巻き込まれた

- Step 1 Cuttingプロッタの電源を切ってください。
- Step 2 レバーを上げてください。
- Step 3 ピンチローラーを横に移動させてください。
- Step 4 メディアの巻き込まれた部分を切り落としてください。
- Step 5 メディアをセットし直します。

3. メディアが斜めに動く

- Step 1 操作を止めてください。
- Step 2 レバーを上げてください。
- Step 3 ピンチローラーを横に移動させてください。
- Step 4 メディアをセットし直し、真っ直ぐ搬送されていることを確認します。(調節定規を参照)

4. メディアが持ち上がる

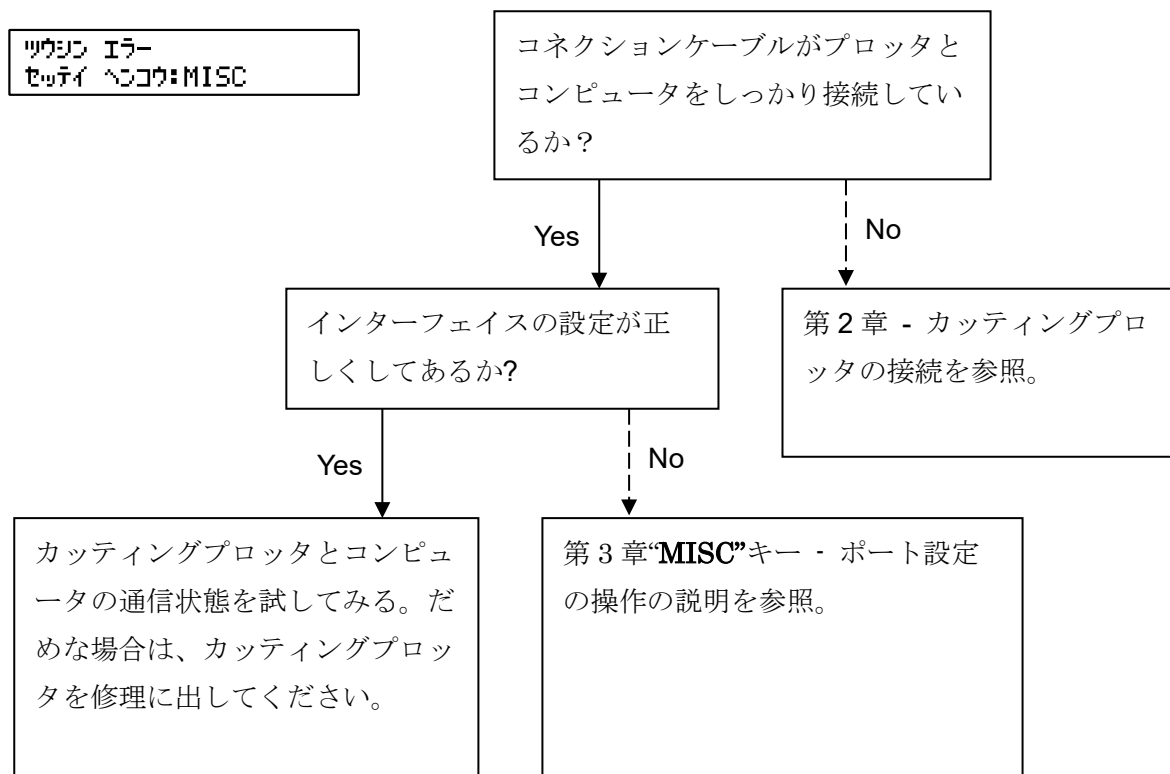
- Step 1 操作を止めてください。
- Step 2 レバーを上げてください。
- Step 3 ピンチローラーを横に移動させてください。
- Step 4 メディアをセットし直し、2本のピンチローラーがシートの両側にあるか確認してください。
- Step 5 吸着ファンが有効か確認し (コントロールパネルを確認)、ピンチローラーの数を増やします。

5. カットデータの始点と終点がずれている

- Step 1 レバーを上げてください。
- Step 2 ピンチローラーを横に移動させてください。
- Step 3 メディアをセットし直し、ピンチローラーの数を増やします。
- Step 4 上記のとおりにして動かない場合は、コントロールパネルの“ツール選択”で“オーバーカット”を設定します。

7.3 カuttingプロッタ/コンピュータの通信上の問題

下のメッセージが表示されたら、カuttingプロッタ/コンピュータの通信に問題があります。



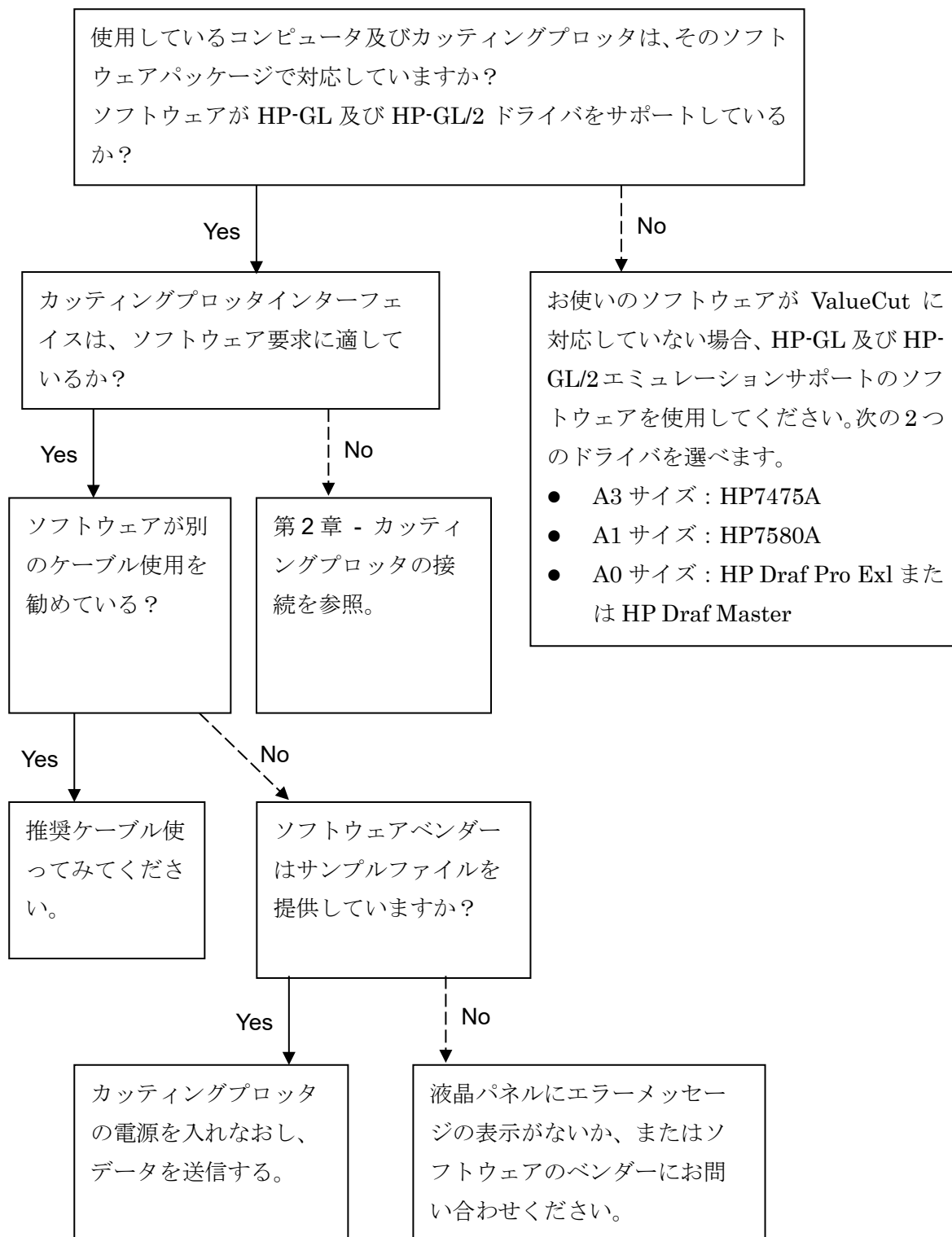
注意： コンピュータも、カuttingプロッタ設定と互換性のある通信パラメータに設定する必要があります。

HPGL/2 コマンド エラー

カuttingプロッタが HP-GL/2 または HP-GL コマンドを認識しない場合、カuttingプロッタに適用した HP-GL/2 または HP-GL コマンドが正しく使用されているか確認してください。

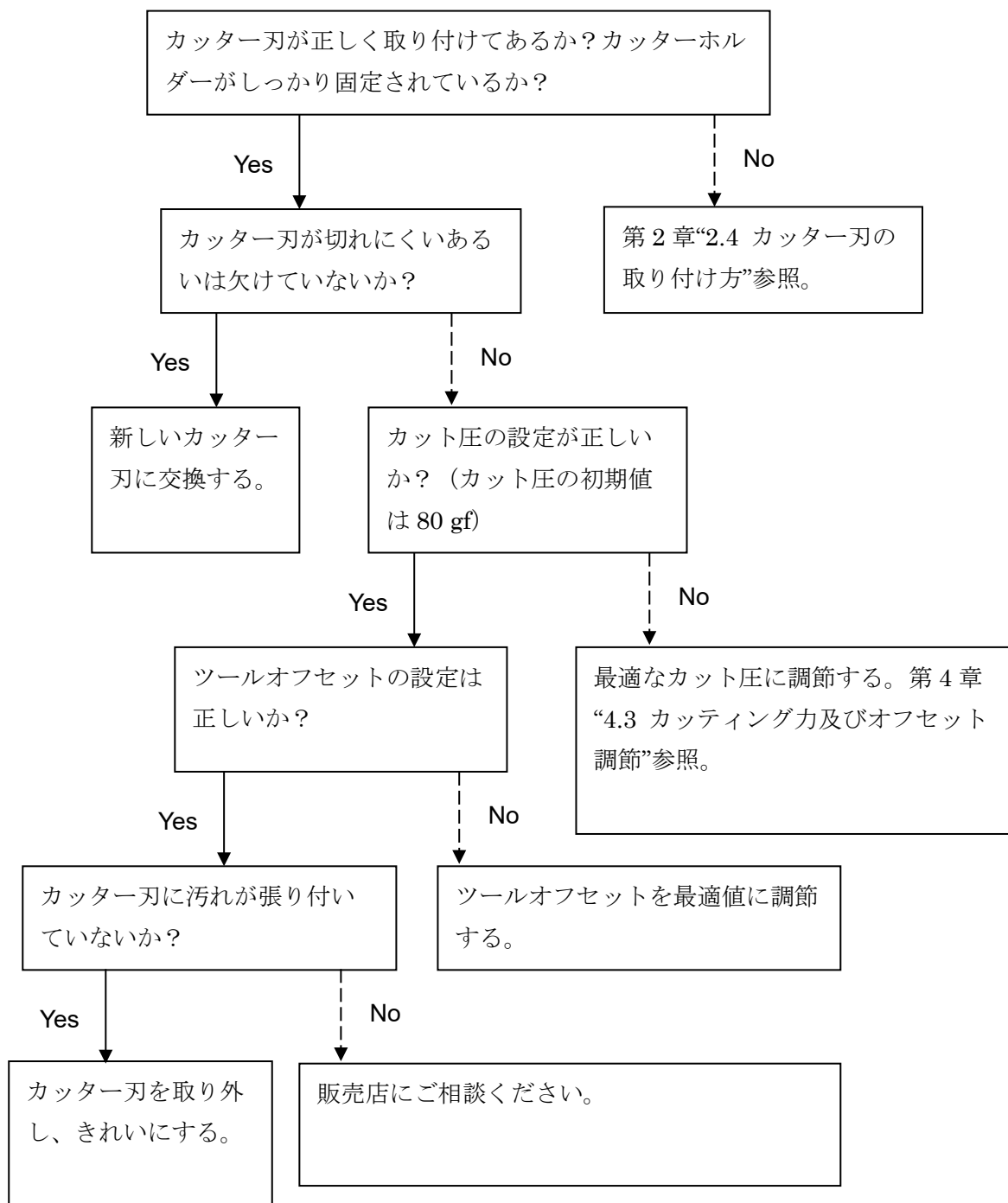
7.4 ソフトウェアの問題

FlexiSTARTER ValueCut Edition をお使いの場合は、「8.12 トラブルシューティング」を参照してください。それ以外のソフトをお使いの場合は、次の点を確認してください。



7.5 カッティング品質の問題

注意：カッティングプロッタは日ごろのお手入れが重要です。正確にカッティングし出力の質をよくするため、グリッドローラーとピンチローラーは定期的なきれいにしてください。



8 FlexiSTARTER クイックスタートガイド

8.1 はじめに

FlexiSTARTER ValueCut Edition Cloud は AI・EPS・PDF 形式等のデータを、簡単な操作で ValueCut プロッタへデータ出力するための専用ソフトウェアです。

8.2 FlexiSTARTER のインストール

8.2.1 FlexiSTARTER ValueCut Edition のインストール要件

FlexiSTARTER ValueCut Edition をインストールするには以下の要件を満たしている必要があります。

PC の推奨スペック:

CPU : インテル®Core i7 以上を推奨

メモリ : 8 GB 以上を推奨

ストレージ : 10GB 以上 (インストールに 1GB 必要)

サポート OS :

- ・ Windows 10 Pro 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 10 Home 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 8/8.1 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 8/8.1 Pro 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 8/8.1 Enterprise または 64-bit
- ・ Windows 7 Home Premium 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 7 Professional 32-bit または 64-bit
- ・ Windows 7 Ultimate 32-bit または 64-bit

本ソフトウェアは 32 ビットアプリケーションソフトのため、64 ビット版 Windows では WOW64 (Windows32-bit On Windows 64-bit) にて動作いたします。

BootCamp、Parallels などを使用して、Macintosh 上で動作する WindowsOS 上へのインストールは、動作保証はしていません。

追加必要条件:

ビデオ ; 解像度 1280 x 1024

24 ビットカラー推奨

解像度は最低限 1152 x 864 以上必要です。

注意 : NOTE PC などでは縦方向の解像度が 768dpi のものが多く出荷されていますが、768dpi ではウィンドウの一部が表示されず、OK ボタンなどの操作ができません。

ハードウェア

- ・DVD-ROM ドライブ

インターネット接続環境

ソフトウェアのユーザー登録と、アクティベーションを行うため、ソフトウェアのインストール時に、インターネット接続環境が必要です。

ソフトウェアのアクティベーションが完了すればインターネット接続は不要ですが、Cloud 機能を使用する場合は、インターネット接続が必要です。

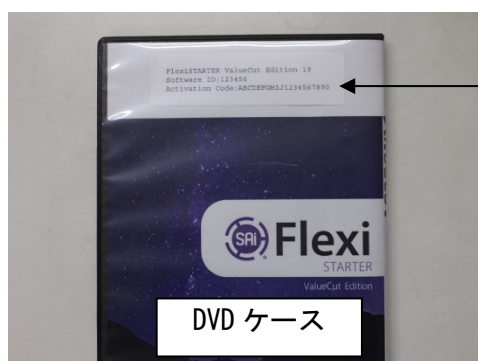
8.2.2 FlexiSTARTER ValueCut Edition をインストールする

ValueCut のインストール DVD を PC に挿入します。開いた画面で **1** 日本語をクリックします。



開いた画面で、**2** 「FlexiSTARTER ValueCut Edition のインストール」をクリックします。FlexiSTARTER ValueCut Edition のインストーラが起動します。ウィザードに従ってインストールしてください。

注意: FlexiSTARTER をインストール、アクティブ化するにはインターネットへの接続が必要です。インストールを開始する前に、PC をインターネットへ接続してください。

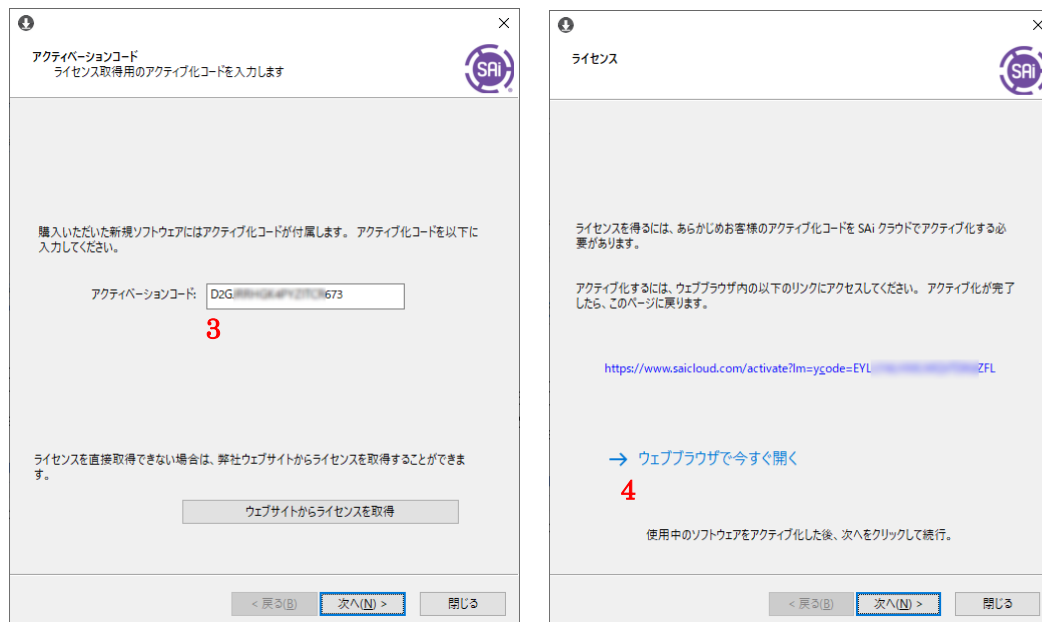


アクティベーションコード

DVD ケース

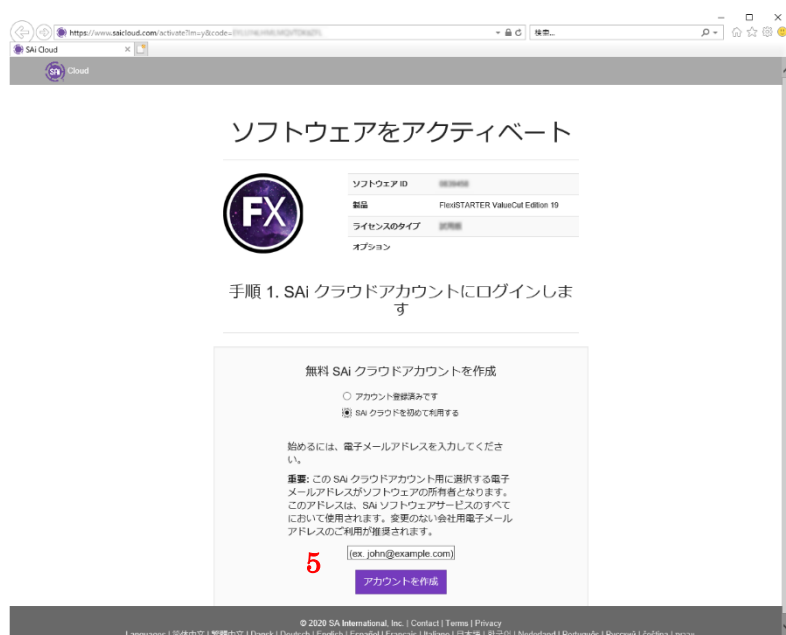
「アクティベーションコード」の画面が表示されたら、**3**のアクティベーションコード欄に、DVD ケースの裏面に記載されている 20 桁の英数字を入力し、**次へ(N) >** をクリックします。

初めて使用する場合は、インターネット上でソフトウェアをアクティブ化する必要があります。**4**の「ウェブブラウザで今すぐ開く」をクリックしてください。

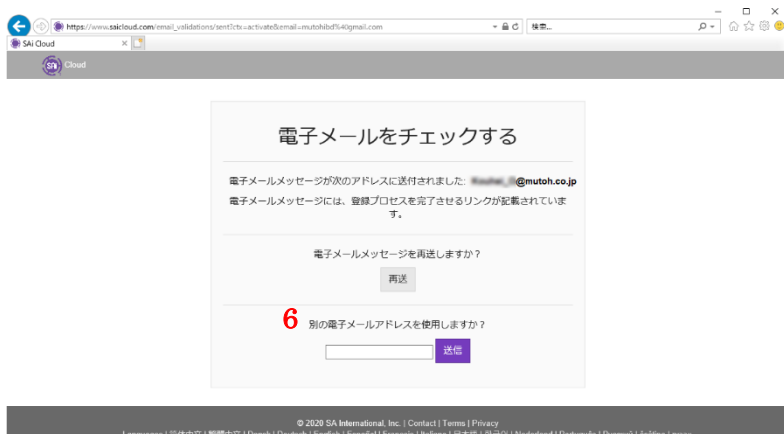


インターネット接続すると以下の画面が表示されます。

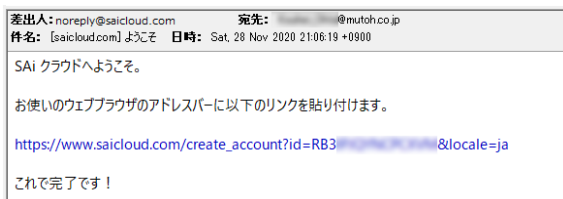
お客様のアカウントを作成しますので、**5**にお客様のEメールアドレスを入力して「アカウントを作成」ボタンをクリックしてください。お客様のEメールアドレス宛にアカウント作成用のURLが送信されます。



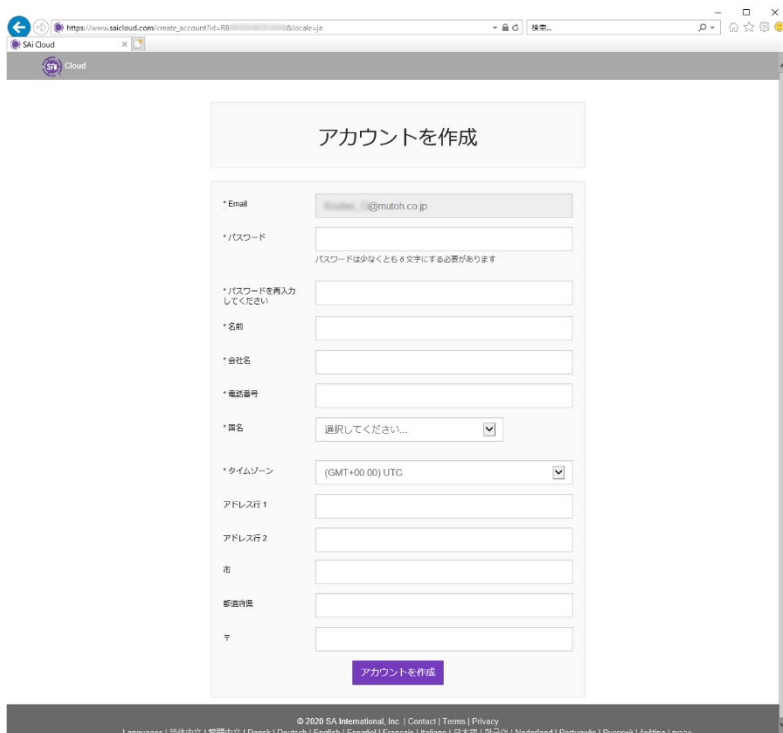
メッセージが送信されると以下の画面が表示されますので、Eメールをチェックしてください。メールが届かない、あるいはアドレスを間違えた場合は、6に改めてアドレスを入力して送信ボタンを押してください。



届いたEメールにはアカウント登録用のリンクが記載されています。リンクのアドレスをクリックしてアクセスしてください。



以下の画面に必要な事項を入力し、「アカウント作成」ボタンをクリックしてください。英語で表示される場合は、ページ下部の「日本語」をクリックして日本語に切り替えてください。

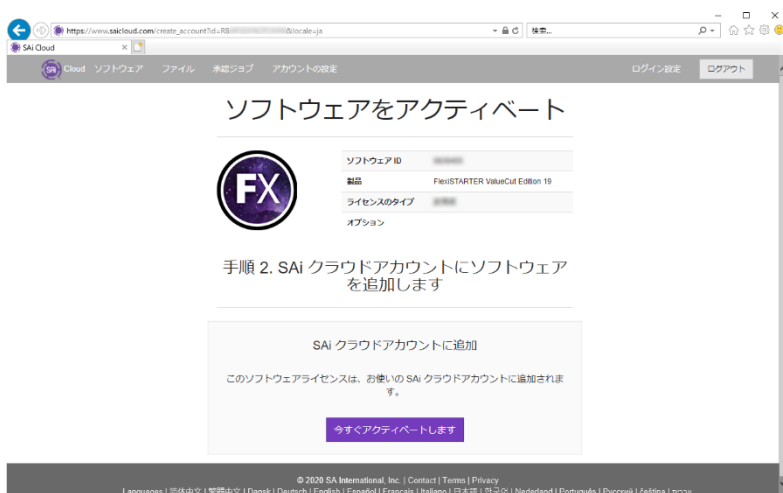


The screenshot shows the 'アカウントを作成' (Create Account) page on the SAI Cloud website. The page contains a form with the following fields:

- * Email: [Input field with placeholder text]
- * パスワード: [Input field with a note: パスワードは少なくとも6文字にする必要があります]
- * パスワードを再入力してください: [Input field]
- * 名前: [Input field]
- * 会社名: [Input field]
- * 電話番号: [Input field]
- * 国名: [Dropdown menu with '選択してください...']
- * タイムゾーン: [Dropdown menu with '(GMT+00:00) UTC']
- アドレス行 1: [Input field]
- アドレス行 2: [Input field]
- 市: [Input field]
- 郵便局名: [Input field]
- 〒: [Input field]

At the bottom of the form is a purple button labeled 'アカウントを作成'. The footer of the page includes copyright information: © 2020 SA International, Inc. | Contact | Terms | Privacy | Languages | 简体中文 | 繁體中文 | Dansk | Deutsch | English | Español | Français | Italiano | 日本語 | 한국어 | Nederlands | Português | Русский | বাংলা | বাংলা.

アカウントの登録が完了したら、引き続きアクティベーションを行います。「今すぐアクティベートします」のボタンを押してください。

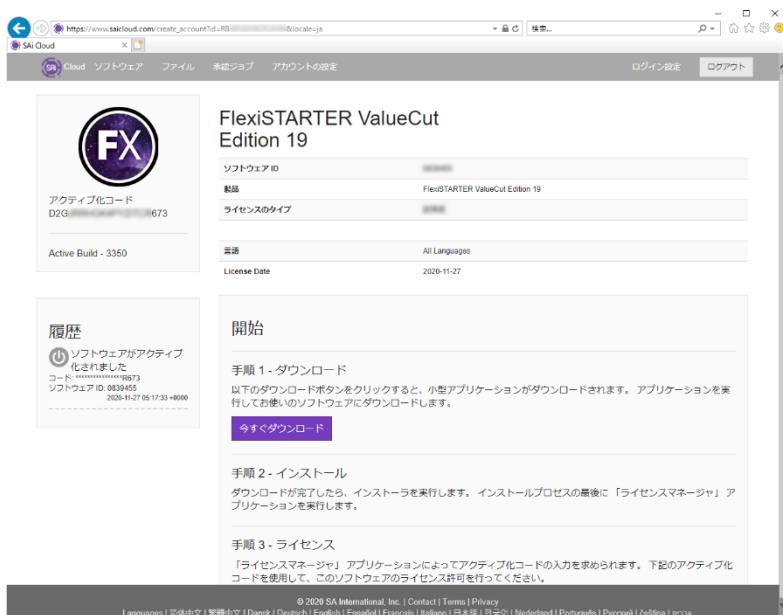


The screenshot shows the 'ソフトウェアをアクティベート' (Activate Software) page on the SAI Cloud website. The page features the FX logo and the following information:

- ソフトウェアID: [Input field]
- 製品: FlexiSTARTER ValueCut Edition 19
- ライセンスのタイプ: [Input field]
- オプション: [Input field]

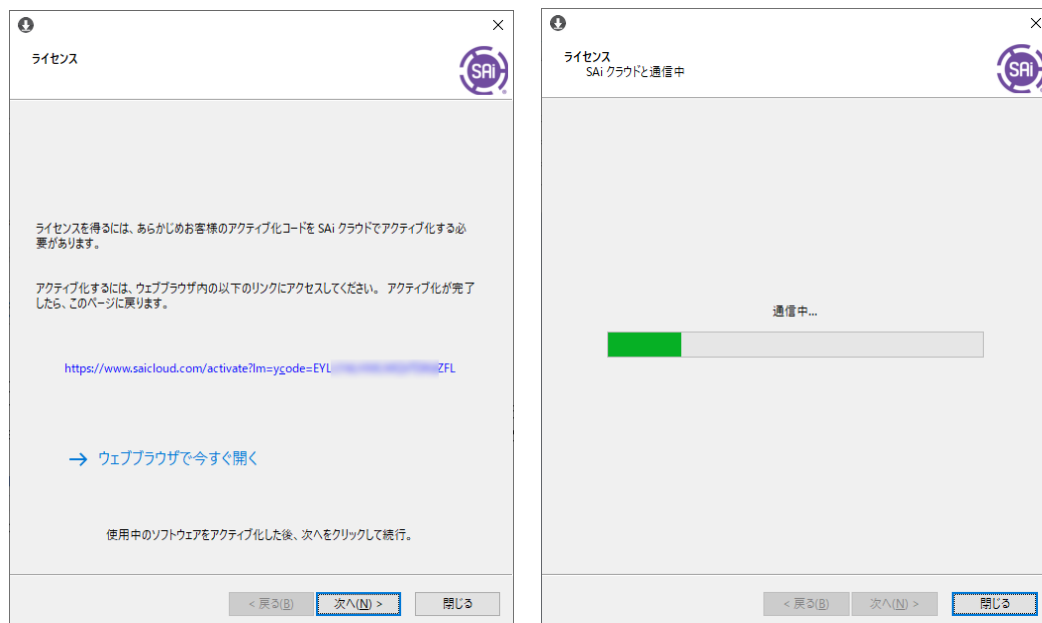
Below this information, the text reads: '手順 2. SAI クラウドアカウントにソフトウェアを追加します' (Step 2. Add software to SAI Cloud account). A large purple button labeled '今すぐアクティベートします' (Activate now) is prominently displayed. The footer of the page includes copyright information: © 2020 SA International, Inc. | Contact | Terms | Privacy | Languages | 简体中文 | 繁體中文 | Dansk | Deutsch | English | Español | Français | Italiano | 日本語 | 한국어 | Nederlands | Português | Русский | বাংলা | বাংলা.

以下の画面が表示されたら、アクティブ化完了です。



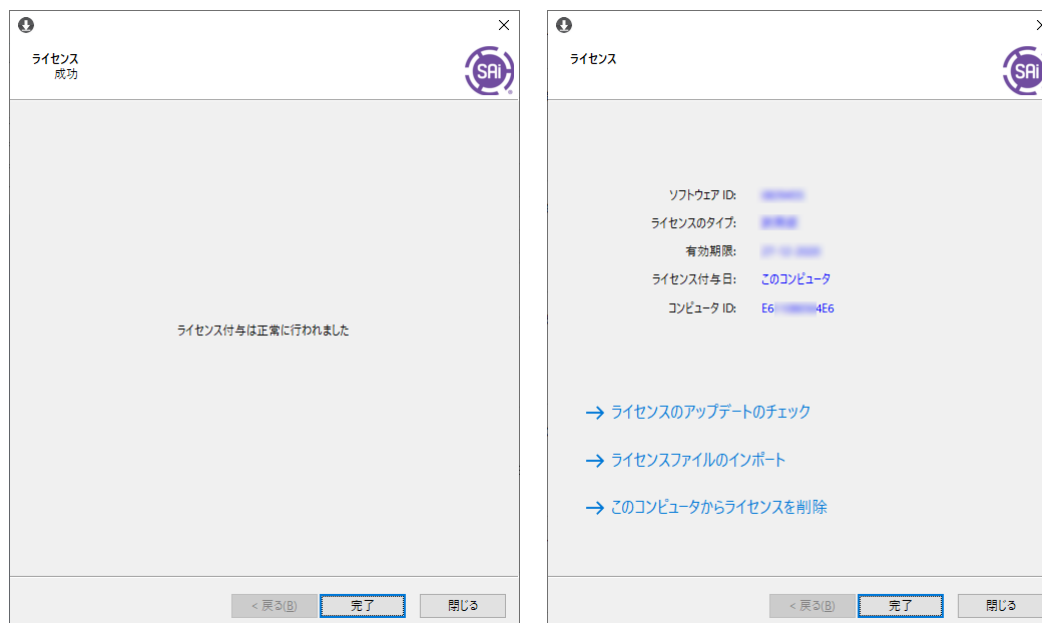
アクティベーションが完了したらインストーラの画面に戻ります。

インストーラの画面に戻り、**次へ(N) >** をクリックしてください。インターネットへ通信します。



「ライセンス付与は正常に行われました」が表示されれば、ライセンスが認証されました。

次へ(N) > を押すとライセンス情報が表示されます。**完了** をクリックしてインストール完了です。



8.3 FlexiSTARTER の起動

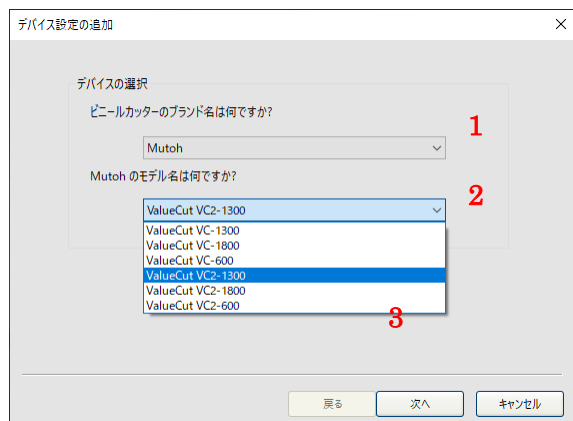
Flexi STARTER ValueCut Edition をインストールすると、カットデータの作成や編集を行う「FlexiSTARTER」と、FlexiSTARTER から実行したカットジョブの管理や、ValueCut のデバイスを管理する「Production Manger」の 2 つのソフトがインストールされ、デスクトップ上にはそれぞれのアイコンが作成されます。



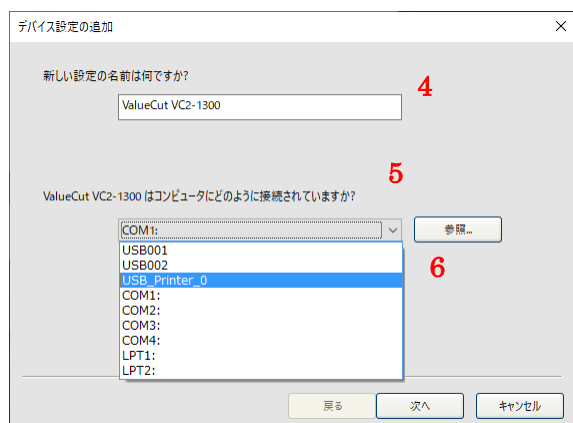
デスクトップ上の「FlexiSTARTER ValueCut Edition」のアイコンをダブルクリックして、「FlexiSTARTER」を起動します。続いて、「Production Manager」のアイコンをダブルクリックして、Production Manager を起動します。

8.4 デバイスの登録

プログラムをインストール後、初めて「Production Manager」を起動すると、下図のような、「デバイス設定の追加」ウィンドウが開きます。この画面で ValueCut のデバイス設定を行います。



- 1 「ビニールカッターのブランド名は何ですか？」の欄には「Mutoh」が選択されています。
- 2 「Mutoh のモデル名は何ですか？」の欄で、お求めいただいた ValueCut の機種を選択してください。
- 3 ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。



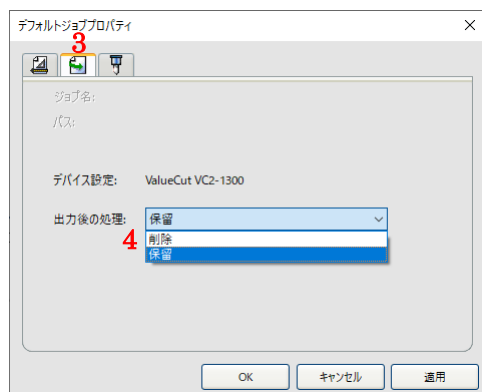
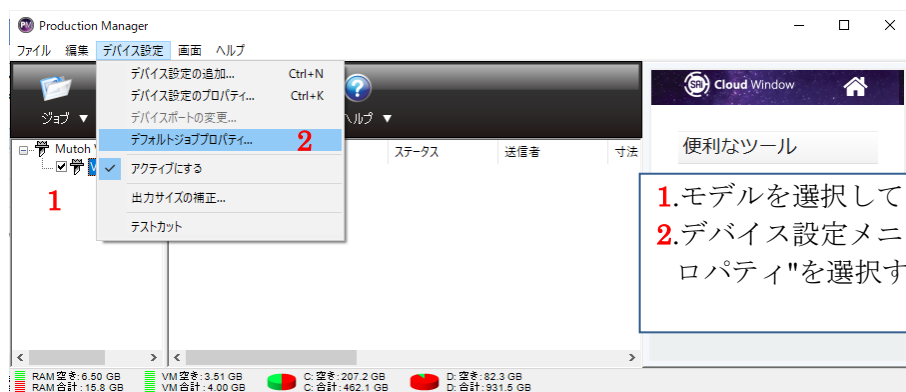
- 4 「新しい設定の名前をなんですか？」の欄では、意図がない限り、デフォルトのままにします。
- 5 「ValueCut VC-****はコンピュータにどのように接続されていますか？」の欄では、右側の マークをクリックして表示したプルダウンメニューより、「USB_Printer_0」を選択します。
- 6 ボタンをクリックします。「Production Manager」の画面に ValueCut が追加されます。

注意: "USB_Printer_0" はあらかじめコンピュータと ValueCut を USB ケーブルで接続していないと表示されません。

8.5 初期設定

8.5.1 カットジョブ後のジョブを残す設定に変更する

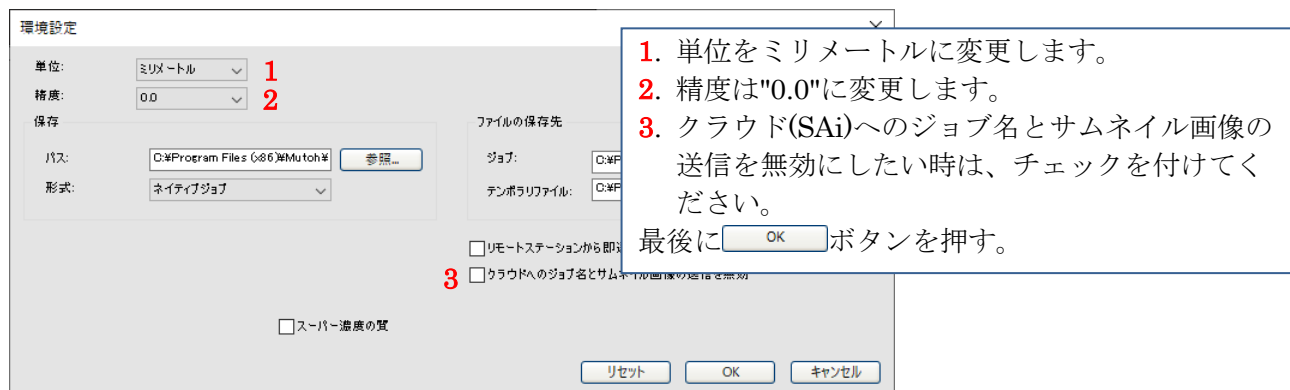
「Production Manager」のウィンドウで、下の図の手順で、ジョブを保留にします。これにより、「Production Manager」に送られたカットジョブを、カット後も画面上に残しておくことができます。



3. "デフォルトジョブプロパティ"のウィンドウを開き
4. 出力後の処理を"保留"に変更し、 ボタンを押す。

8.5.2 Production Manager で使用する単位を変更する

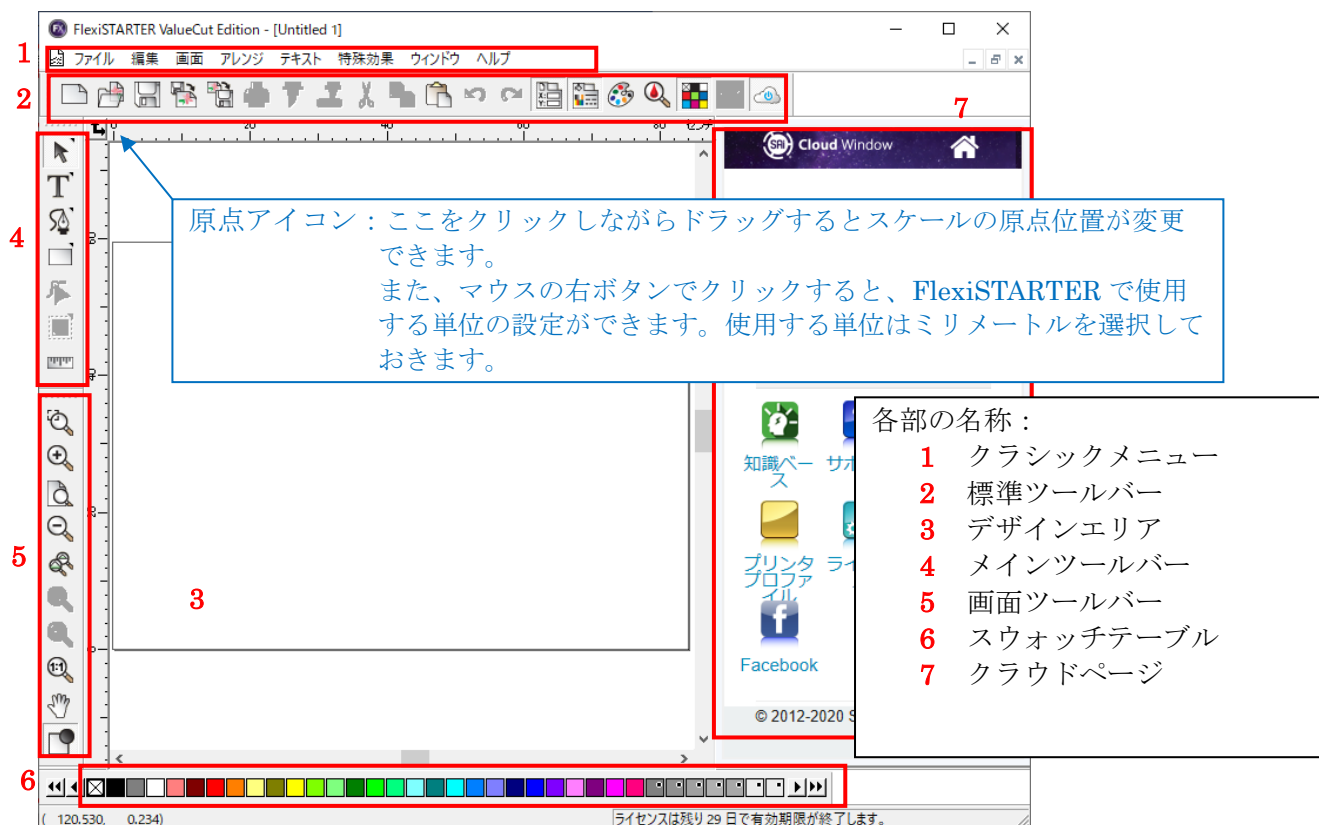
「Production Manager」の編集メニューから、「環境設定」を開き、下の図の手順で設定を変更します。



8.6 基本設定

8.6.1 FlexiSTARTER の画面周り

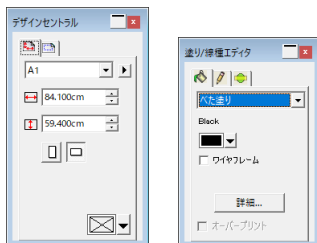
「FlexiSTARTER」を起動します。画面周りは以下のようにになっています。青字に書かれた手順で、単位の設定を変更にします。



さらに、「画面」メニューから、「デザインセントラル」と「塗り/線種エディタ」を選択し、画面を開きます。この画面は使用頻度が高いウィンドウです。

「デザインセントラル」は、選択されているツールにより、表示内容が変わります。右上の図例は用紙サイズを示しています。


「塗り/線種エディタ」は、塗と線種に関する設定画面です。




8.6.2 標準ツールバー


使用可能なアイコンだけがアクティブになります。

: 新規ウィンドウを開きます。

: ファイルを開きます。


: 作成したファイルを保存します。


: ファイルを読み込みます。実行したウィンドウに配置されます。


: FlexiSTARTER 以外のフォーマットでファイルを書き出します。


: コンピュータに登録されているプリンタに印刷を行います。


: 「カット・プロット」ウィンドウを開きます。


: 「輪郭のカット」ウィンドウを開きます。






: 選択したオブジェクトを切り取ります。


: 選択したオブジェクトをコピーします。

: コピーしたオブジェクトを貼付します。

: 前に行った操作を取り消します。




: 取り消した操作をやり直します。




    : [デザインセントラル], [塗り/線種エディタ], [カラーミキサー], [色の定義], [スウォッチテーブル]を開きます。




: クラウドページの表示を切り替えます。





8.6.3 メインツールバー


括弧内は拡張ツールの内容です。アイコンを長押しすると表示します。

 ( ): オブジェクト選択ツール：オブジェクトを選択します。


 ( ): テキストツール：テキストを入力します。

 ( ): ベジエパスツール：パスを作成します。


 (  ): 長方形ツール：長方形を作成します。

: ポイント選択ツール：パスのポイントを作成します。

: 輪郭カットツール：輪郭カット線を抽出します。


: 測定ツール：距離を測定します。


8.6.4 表示ツールバー


: クリック&ドラッグで、指定した範囲に表示を合わせます。


クリックすると表示が2倍に拡大されます。クリックする位置が表示の中心になります。


[CTRL]キーを押しながらクリックすると、現在の表示が半分に縮小されます。


: 現在の位置を中心に、表示を2倍に拡大します。


: 表示をページサイズ（デザインエリア）に合わせます。

: 現在の位置を中心に、表示を半分に縮小します。


: 1つ前の表示状態に戻します。

: 選択したオブジェクトに表示を合わせます。オブジェクトが存在しない場合は無効になります。

: 全てのオブジェクトに表示を合わせます。オブジェクトが存在しない場合は無効になります。

: 実印刷サイズで表示します。

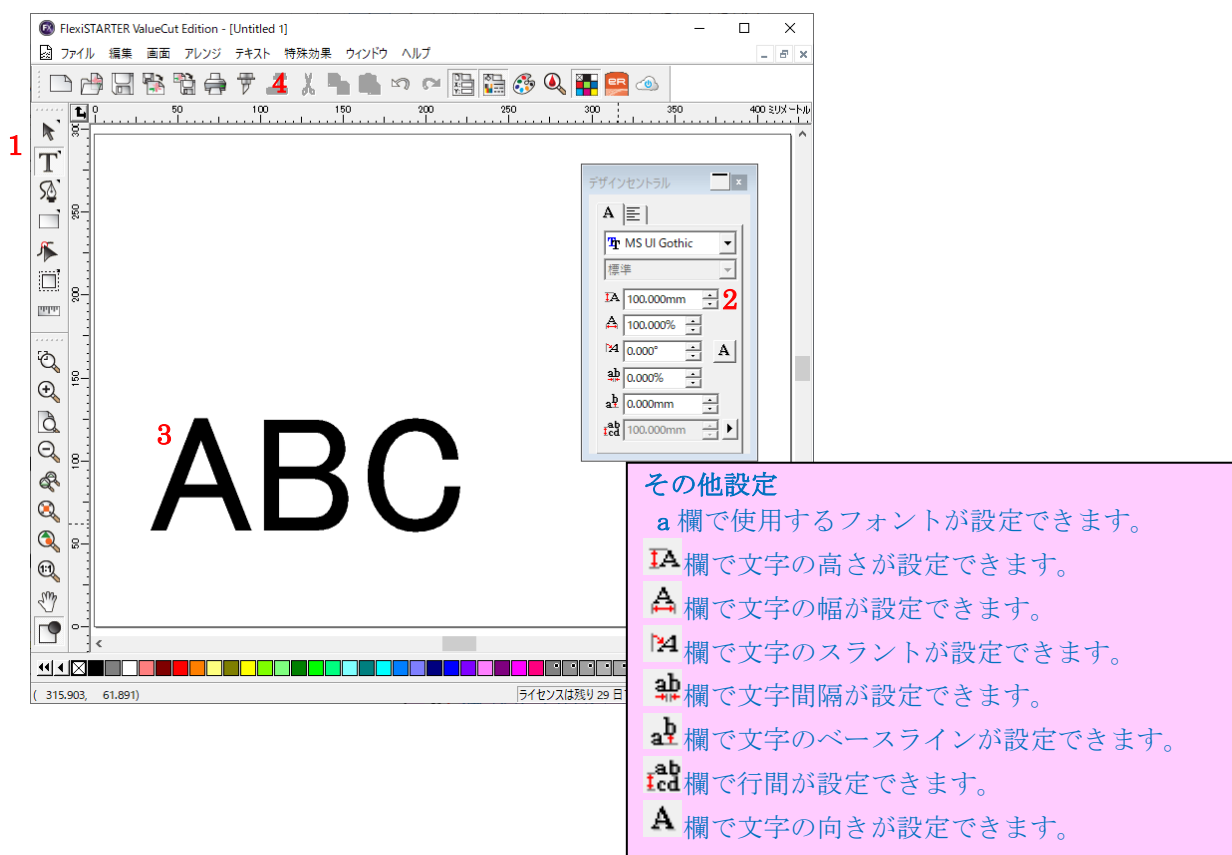
: デザインエリアをクリック&ドラッグして、表示位置を移動します。

: ダブルクリックすると「レイヤーカラーを表示」「塗りの色を表示」「パスの方向を表示」が選択できます。

8.7 文字の作成

ここでは、高さ 100mm の"ABC"の文字を作図します。

1. メインツールバーの **T** をクリックし、デザインエリアの任意の場所でマウスをクリックします。
2. デザインセントラルウィンドウで、文字高さを 100mm に指定します。
3. キーボードから ABC と入力します。
4. 標準ツールバーより、**✂** をクリックし、“カット・プロット” ウィンドウを開きます。
“カット・プロット” を開くと同時に“Production Manager” が起動します。

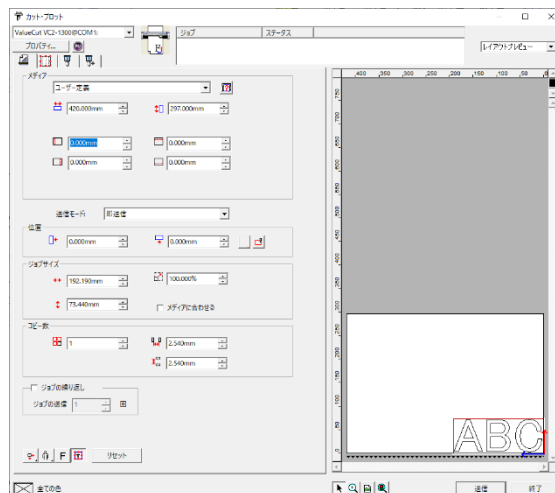


8.7.1 カット・プロットウィンドウ

“カット・プロット”ウィンドウは下図のように4つのタブウィンドウがあります。

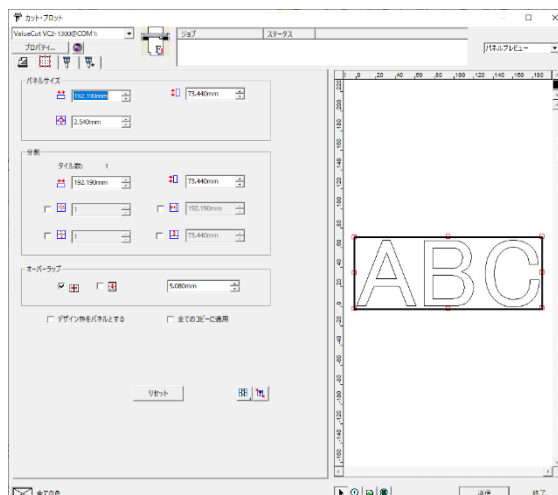
一般タブウィンドウ

- ・メディアサイズ設定
 - ・カットサイズ
 - ・コピー数
- を設定します



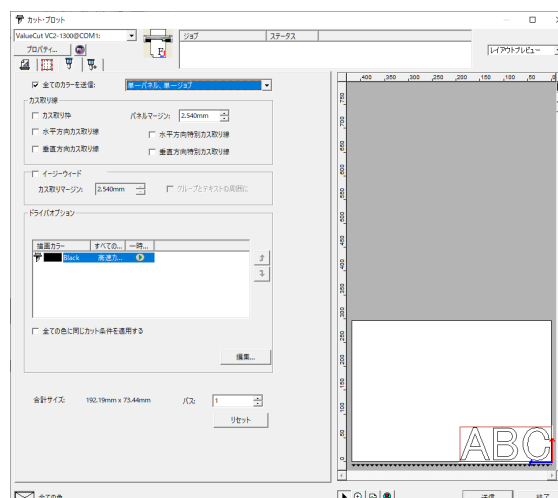
分割タブウィンドウ

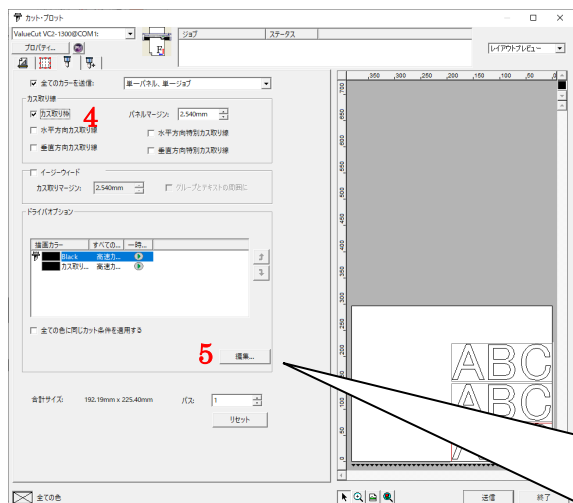
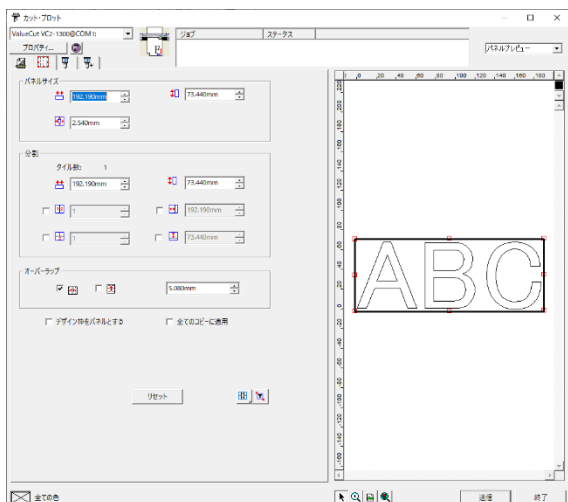
- ・パネルサイズ
 - ・分割数
 - ・重ね代
- など、メディアサイズより、大きなジョブをカットする際の各種設定を行います。



オプションタブウィンドウ

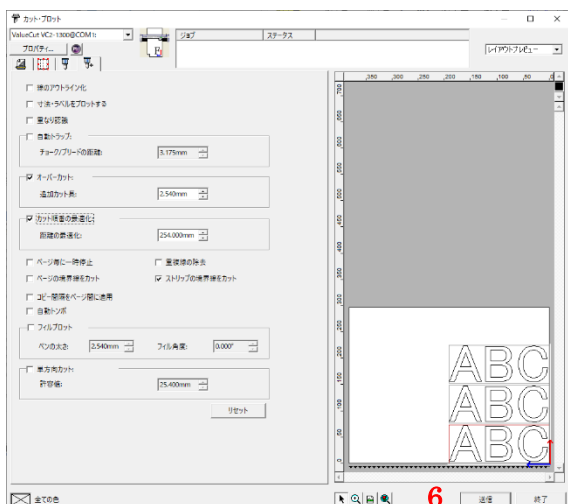
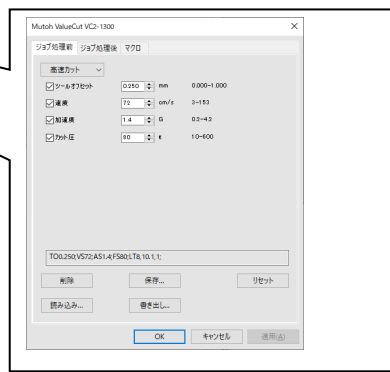
- ・カス取り線
 - ・カッターオプション
- など、カットジョブの基本的な設定と ValueCut の設定を行います。





4. “加工取り枠”にチェックします。

5. **編集...** ボタンをクリックして開いたウィンドウの▼で”高速カット”を選び、**OK** ボタンをクリックしウィンドウを閉じます。



6. **送信** をクリックすると、カットデータを ValueCut に送信し、カットが始まります。

8.9 輪郭カットデータの作成

8.9.1 輪郭カットの流れ

FlexiSTARTER ValueCut Edition では、Adobe Illustrator や CorelDRAW などで作成されたデータを読み込み、編集することができます。ここでは、予め FlexiSTARTER ValueCut Edition に用意されたサンプルデータを使って、輪郭カットの手順を説明します。

輪郭カットデータの作成手順は以下の通りです。

1. Illustrator などで作成したデザインを FlexiSTARTER ValueCut Edition で読み込みます。
2. 読み込んだデータから、輪郭カット線を抽出します。
3. ValueCut で読み込み可能な、輪郭カットマークを抽出した輪郭線の周囲に配置します。
4. コンピュータに接続されているプリンタに輪郭カットデータを印刷します。
5. 印刷した材料を ValueCut に装着し、FlexiSTARTER からカットを実行します。

8.9.2 Adobe Illustrator データの読み込み

FlexiSTARTER の”ファイル”メニューより”開く”を選び、サンプルデータの”Airborne.ai”を読み込みます。

“Airborne.ai”は以下のフォルダにあります。

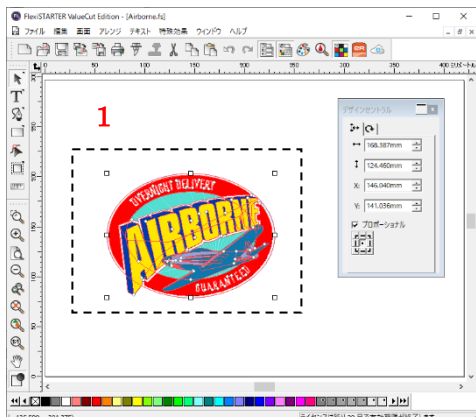
64 bit OS の場合

C:\Program Files (x86)\Mutoh\FlexiSTARTER ValueCut Edition\Samples\Illustrator

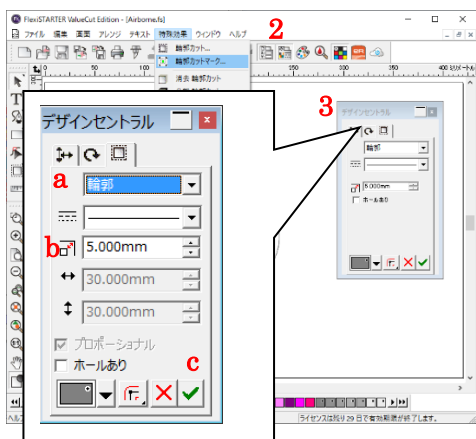
32 bit OS の場合

C:\Program Files\Mutoh\FlexiSTARTER ValueCut Edition\Samples\Illustrator

8.9.3 輪郭カットデータの作成

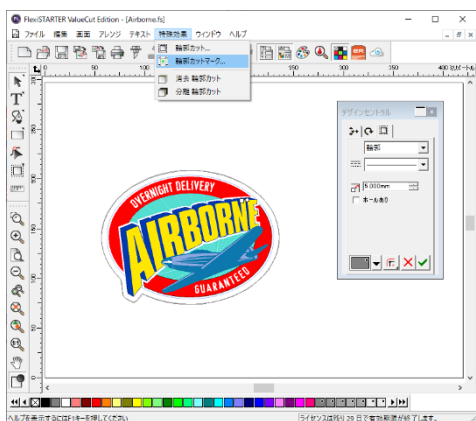


1. マウスでオブジェクト全体を指示します。



2. “特殊効果”メニューから”輪郭カット”を選択します。

3. “デザインセントラル”ウィンドウで次のように設定します。
 a ”輪郭”を選びます。
 b オブジェクトからの距離で”5mm”にします。
 c をクリックすると輪郭線が確定します。



輪郭線が確定されました。

8.9.4 輪郭カットマーク（トンボ）について

FlexiSTARTER ValueCut Edition では、ValueCut 専用の輪郭カットマークをカットデータに追加できます。ValueCut 専用のカットマークには次の 6 種類があります。

- ・ 4 ポイント
- ・ 横
- ・ 縦
- ・ Mutoh 4 点補正
- ・ Mutoh セグメント補正
- ・ Mutoh セグメントカット

それぞれの違いは次の通りです。



4 ポイント・横・縦

いずれも手動による補正を行います。反射シートなどトンボが自動検出できない場合に使います。
 ※手動補正の方法については [8.10.4 手動補正方法\(参考\)](#) を参照ください。

Mutoh 4 点補正

標準的なカットを行う場合に選択してください。ValueCut は自動で 4 点を読み込んで角度補正を行います。

Mutoh セグメント補正

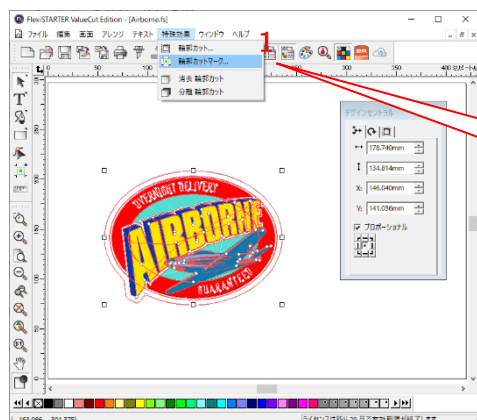
長尺のカットを行う際、セグメント補正を選択すると用紙送り方向に対して 50 cm 間隔のマークを印刷します。ValueCut でカットする際、全てのマークを読み込み、角度補正と距離補正を行います。カットはデータに従いカットします。カットデータの長さ分だけ用紙が前後に動きますので、用紙のスリップやジャムの発生が起こる場合があります。

Mutoh セグメントカット

セグメント補正を同じマークを作画し、マーク間の距離補正と角度補正を行います。カットを実行すると、用紙を 50 cm ずつ送出し、50 cm の範囲で順番にカットしていきます。これにより ValueCut で用紙のスリップを軽減することができます。長尺カットをする場合は、カットの時間はかかりますが、精度を要求する場合は、この設定を選択することをお勧めします。

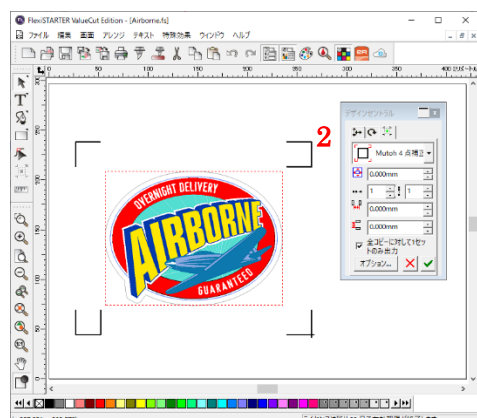
8.9.5 輪郭カットマーク（トンボ）の作成

3項の「輪郭カットデータを作成する」に続き、次の手順で輪郭カットマークを作成します。



1. “特殊効果”メニューから、“輪郭カットマーク”を選択します。

! “特殊効果”メニューで“輪郭カットマーク”がアクティブになっていない場合は、輪郭線を選択してください。

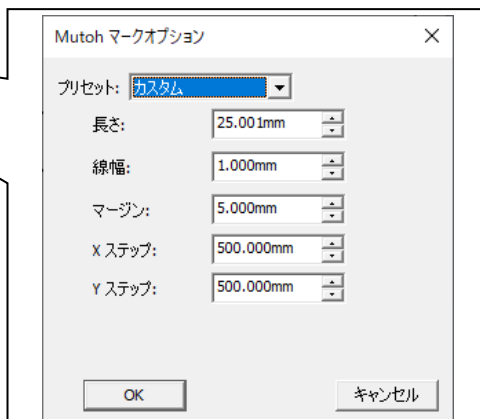


2. 輪郭カットマークが作成されます。デザインセントラルウィンドウでマークの種類を指定します。ここでは“Mutoh 4点補正”を選択します。



3. デザインセントラルウィンドウで次のように設定します。

- a “4点補正”を選びます。
- b オブジェクトからマークまでの距離を設定します。通常は“0”のままにします。
- c 縦方向にコピー数を設定します。ここでは“1”とします。
- d 横方向にコピー数を設定します。ここでは“1”とします。
- e コピー間隔を設定します。ここでは設定不要です。
- f トンボのサイズを変更できます。(10 mm ~ 25 mm)
- g をクリックすると、輪郭カットマークが確定します。



8.10 輪郭カット

8.10.1 プリントデータの印刷

FlexiSTARTER ValueCut Edition から、コンピュータに登録されている印刷装置に印刷します。”ファイル”メニューから”プリント”を選択して、輪郭カットデータを印刷します。印刷の手順はお使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

8.10.2 輪郭カットウィンドウ

“ファイル”メニューから”輪郭カット”を選びます。
“輪郭カット”ウィンドウが開きます。”輪郭のカット”のウィンドウには3つのタブウィンドウがあります。

一般タブウィンドウ

- ・メディアのサイズ設定
 - ・カットサイズ
 - ・コピー数
- を設定します。

オプションタブウィンドウ

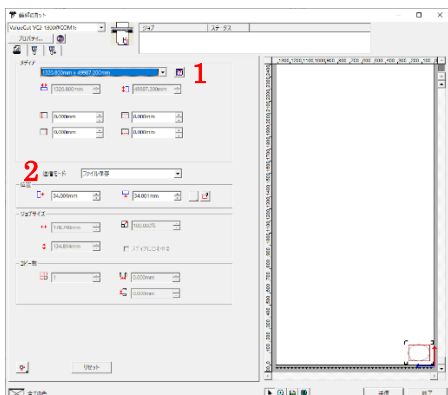
カッターオプションなど、ValueCut のカット設定を行います。


詳細タブウィンドウ

カットジョブの応用的な設定を行います。

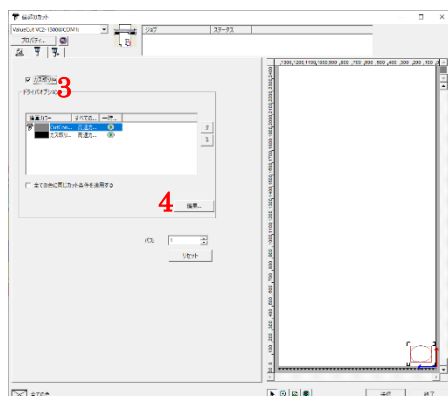
8.10.3 輪郭カット

基本的な設定は、”カット・プロット” ウィンドウの設定と同じです。
右の手順で輪郭カットを実行します。


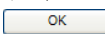


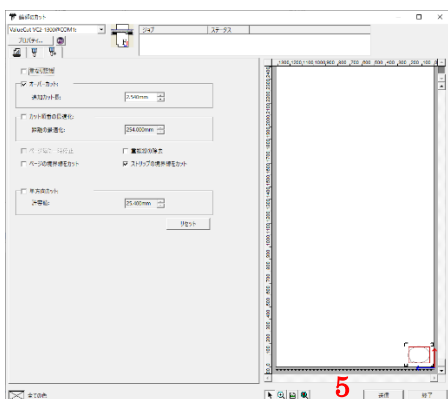
1.  をクリックすると、現在 ValueCut に装着されているメディアサイズを表示します。


2. 送信モードで”即送信”を選択します。



3. “カス取り枠”にチェックします。

4.  ボタンをクリックして、開いたウィンドウで”高速カット”を選び
 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。



5.  をクリックすると、カットデータを ValueCut に送信し、カットが始まります。

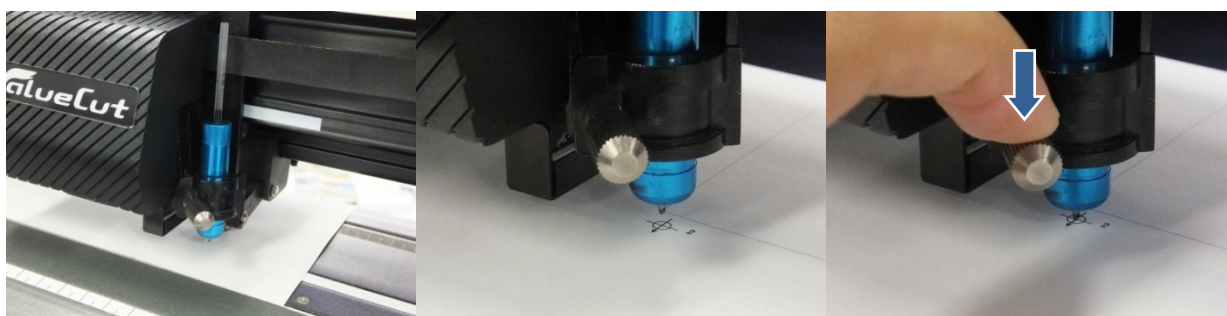
8.10.4 手動補正手順(参考)

手動補正とは AAS によるトンボ自動検出を使用せず、ペンヘッドを JOG で移動してマークに合わせる方法です。反射シートなど AAS センサーが使用できないときに有効です。

「4 ポイント」は 4 点による傾きと伸縮を補正します。「横・縦」は 2 点による傾きのみを補正します。

ValueCut にはスコープがありませんので、代わりにボールペンホルダーを流用します。データ出力前にボールペンをセットしてください。

トンボの中心にボールペンのペン先をマークに合わせます。位置が分かりにくい時は指でペンダウンして位置を確認してください。

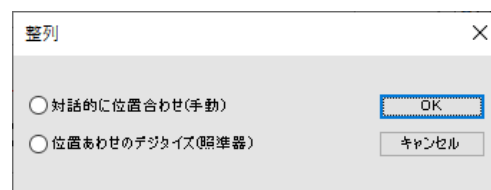


位置合わせ方法

位置合わせ方法には 2 種類のモードがあります。

「対話的に位置合わせ (手動)」

「位置合わせのデジタイズ (照準器)」

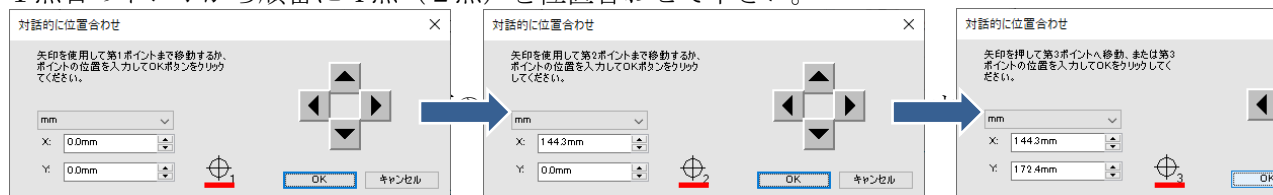


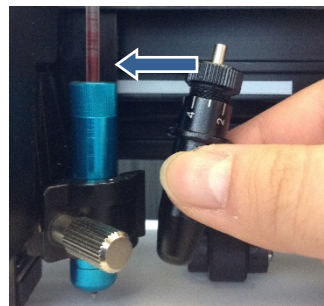
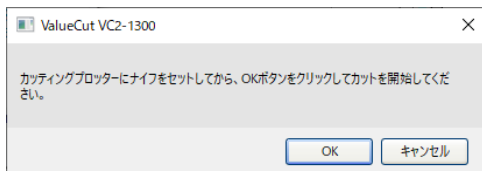
注意: 「位置合わせのデジタイズ (照準器)」モードは、プロッタ本体のファームウェアが Ver3.00 以上で使用できます。

「対話的に位置合わせ (手動)」の操作手順

このモードは PC 側のカーソルキー、または下記画面の矢印ボタンを押して位置合わせをします。

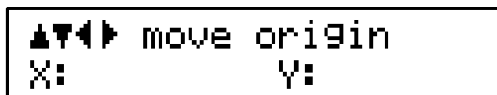
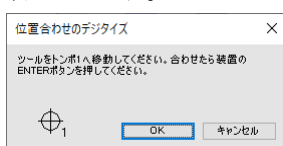
1 点目のトンボから順番に 4 点 (2 点) を位置合わせて下さい。





「位置あわせのデジタイズ (照準器)」の操作手順

このモードはプロッタ側の JOG (矢印) キーを用いて位置合わせをします。出力を開始すると PC 側に以下のメッセージが表示されます。同時にプロッタ側も以下の表示に切り替わります。

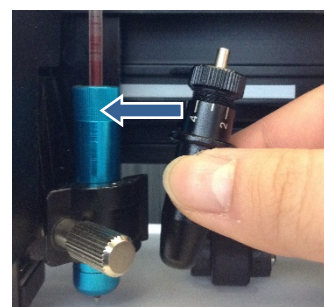
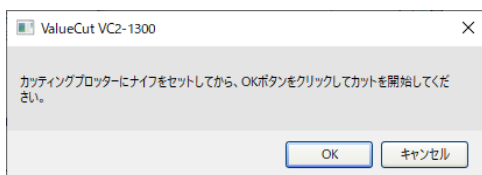


プロッタ側の JOG (矢印) キーにてペンヘッド (ペン先) をトンボ1へ移動します。トンボとペン先が一致したらプロッタの「ENTER」キーを押してください。プロッタのパネルが以下の表示に切り替わります。



続いて、PC 側の「OK」ボタンを押してください。2点目以降の残りも同じ手順を繰り返します。

4点 (2点) の補正が終わり、以下のメッセージが表示されたらカッターホルダーに取り替えて、「OK」ボタンを押してください。



注意: 「位置あわせのデジタイズ (照準器)」モードは、プロッタ本体のファームウェアが Ver3.00 以上で使用できます。

8.11 機能リスト

FlexiSTARTER はプロッタヘデータ出力することを主目的とされており、Flexi の機能が大幅に制限されています。以下の表は Flexi 各シリーズの機能リストになります。

FlexiSTARTER (★) の欄を参考にしてください。

	Flexi SIGN&PRINT	Flexi SIGN	Flexi STARTER★
はじめに			
ナビゲータ	○		
繰り返す	○	○	
ファイルの操作			
ジョブ情報	○	○	
ジョブの見積もり	○		
テンプレート	○		
デザインエディタの使用			
デザインエディタ	○	○	
オブジェクトのアレンジ			
同じ幅/同じ高さ	○		
自動連番	○		
分布	○		
実図形のネスト	○	Opt	
変形の取り消し	○		
色の操作			
スポイト	○	○	
カラーライブラリの変更	○		
色の測定	○		
ダブルトーンスウォッチの作成	○		
CMYK カラースウォッチの作成	○		
現在のパレットのスウォッチの作成	○	○	
塗り・線種エディタの使用			
パターン	○		
グラデーション	○	○	
オーバープリント	○		
図形の操作			
円	○	○	
扇形	○		
矢印	○		
パラメータ図形	○		
図形に変換	○		

	Flexi SIGN&PRINT	Flexi SIGN	Flexi STARTER★
テキストの操作			
テキストブロックのサイズ	○		
ブライユ	Opt	Opt	
バーコード	○		
記号の挿入	○		
文字の定義	○	x	
テキストスタイル	○	x	
URW フォントサポート	Opt	Opt	
ビットマップの操作			
スキャン	○	○	
ビットマップの新規作成	○		
ラスタライズ	○	○	
画像サイズの調整	○		
カラーモード	○	○	
フィルタ	○		
選択範囲	○	○	
投げ輪ツール	○		
自動選択ツール	○		
移動	○	○	
消しゴム	○	○	
ペイントブラシ	○		
鉛筆	○	白黒	
塗り	○	白黒	
クロップ	○		
スタンプ	○		
自動トレース	○	○	
カラートレース	○		
センターライントレース	○	○	
ピクチャカット	○	○	

	Flexi SIGN&PRINT	Flexi SIGN	Flexi STARTER★
特殊効果の操作			
フェーズ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
重複部分の分離	<input type="radio"/>		
ストライプ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
ブレンド	<input type="radio"/>		
レンズ	<input type="radio"/>		
アンダーベース	<input type="radio"/>		
仕上げ	<input type="radio"/>		
カラートラッピング	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
グラフィックスタイル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
輪郭	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
寸法・ラベルの操作			
寸法 / ラベル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
自動寸法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
ページ基準の寸法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
カラー印刷向けのシステムの設定			
カラー設定	<input type="radio"/>		
カラー校正	<input type="radio"/>		
デザインのカット			
カット・プロット	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
デザインの印刷			
RIP&プリント	<input type="radio"/>		
CASmate トレース機能			
ベジェトレース	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
曲線強調トレース	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
コーナー強調トレース	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
センターラインベクター処理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
カラーベクター処理	<input type="radio"/>		

FlexiSIGN&PRINT、ならびに FlexiSIGN に関するお問い合わせは、[9.5.1 製品に関するお問い合わせ窓口](#)までご相談ください。

8.12 トラブルシューティング

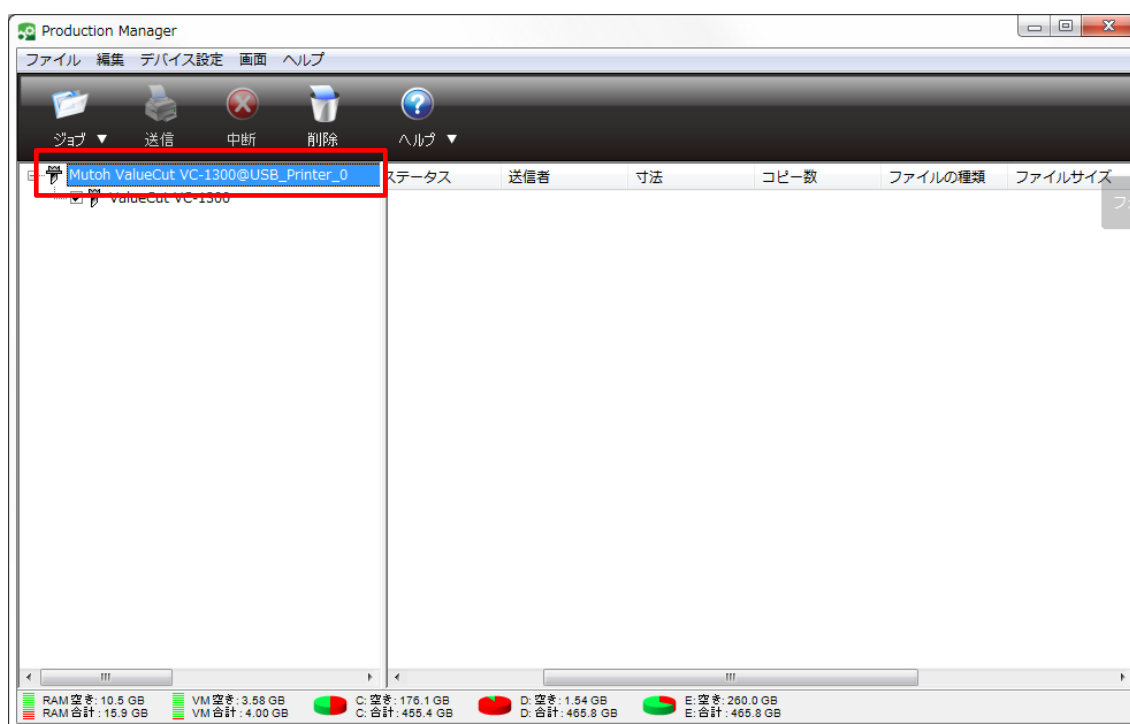
8.12.1 FlexiSTARTER よりデータを送信できない場合

USB ポート設定の確認

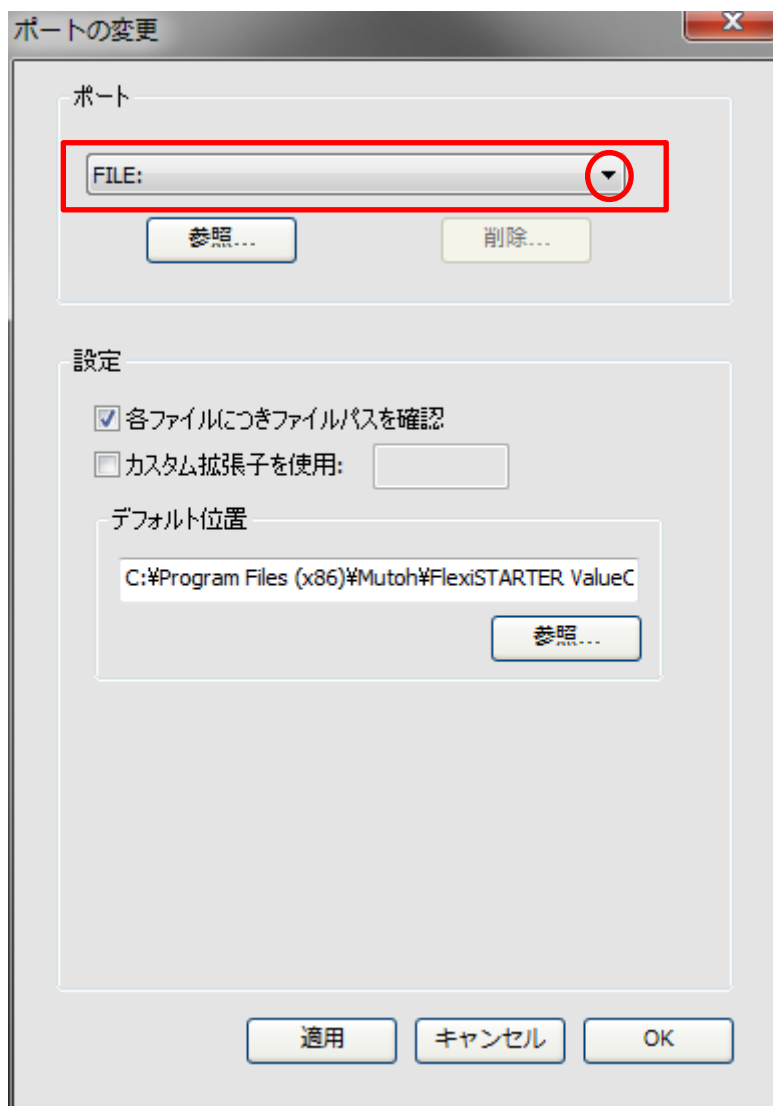
プロッタの電源投入よりも先に Flexi を起動したり、パソコン側の USB ポートを別のポートに差し替えると、データを送信できない場合があります。

以下の手順で、出力先のポートを”USB_Printer_0”に再設定してください。

Production Manager を開き、画面左側のウィンドウより、Mutoh ValueCut VC2-1300@xxxx（下図の例では Mutoh ValueCut VC2-1300@USB_Printer_0 と表示されています）をマウス右ボタンでクリックし、表示したメニューよりポートの変更を選択します。



ポートの変更画面が開きます。



赤丸で示した▼マークをクリックして、展開したリストの中から、「USB_Printer_0」を選択し、[適用]ボタンをクリックして、[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。

FlexiSTARTER のソフトのインストールの回数などによって、「USB_Printer_」の数字が 0 以外のリストがある場合があります。その場合は表示されているリストの中にある「USB_Printer_2」などのように一番大きい数字の選択肢を選んでください。リストの中には USB000 などの USB の文字列の後ろに 3 桁の数字の選択肢が表示されていますが、それは選択しないでください。

ValueCut の USB_Printer_0 などのポートは、FlexiSTARTER が ValueCut を認識すると、FlexiSTARTER が生成するポートのため、ValueCut が正しく認識されていないと USB_Printer_0 のポートが適用されず、出力先が File に置き換わってしまいます。

USB ケーブルの長さ

長い USB ケーブルを使用すると、データが正しく転送できません。
3m 以下の USB ケーブルをご使用ください。

RS-232C の通信条件

RS-232C 使用時は、Flexi とプロッタと通信条件を一致させる必要があります。
Flexi 側は [8.4 デバイスの登録](#)、プロッタ側は [3.4 メニュー項目](#)の「通信設定」で両者を同一条件に合わせてください。

8.12.2 ペンアップの速度が変更できない

ペンアップの速度はプロッタ側のパネルで変更する必要があります。
[3.3 オフラインモードのメニュー](#)を参照し、「ペンアップ」項目のスピードを変更してください。

9 付録

9.1 ValueCut 仕様書

モデル番号	VC2-600	VC2-1300	VC2-1800
方式	ペーパームービング方式		
最大カッティング幅	610 mm	1,320 mm	1,830 mm
最大カッティング長さ	50 m		
最大メディアセット幅	770 mm	1,594 mm	1,990 mm
最小メディアセット幅	50 mm		300 mm
ピンチローラー数	3	4	6
使用可能なメディアの厚さ	0.8 mm		
駆動方式	DC サーボ制御		
カッティング力	5~600 g		
最大カッティング速度	1530 mm / sec (斜め方向)		
加速度	4.2 G		
カッター刃オフセット	0~1.0 mm (0.025 mm 増加)		
メモリバッファ	32 MB / 16 MB (AAS 使用時)		
インターフェイス	USB 2.0 (フルスピード) 及びシリアル(RS-232C)、イーサネット		
コマンドのタイプ	HP-GL, HP-GL/2		
機械的分解能	0.006 mm		
ソフトウェア分解能	0.025 mm		
距離精度	移動時 ± 0.254 mm or $\pm 0.1\%$ 、どちらか大きい方		
再現性	± 0.1 mm		
コントロールパネル	LCD (20 桁 \times 2 ライン), 14 キー, 1 電源 LED		
刃直径	2.5 mm		
定格電源	AC 100-240V, 50~60 Hz (自動切替)		
消費電力	最大 110W		
外形寸法 (HxWxD) mm	412 * 950 * 486	1111 * 1774 * 651	1127 * 2170 * 756
正味重量	18 kg	50 kg	63 kg
スタンド	オプション	標準装備	
メディアバスケット	オプション		
操作環境	温度	15°C~30°C	
	湿度	25% ~ 75%	

- 仕様書及びデータシートは、使用する材質によって変わってきます。出力品質を最適に保つために、定期的に正しくメンテナンスを行ってください。
- Mutoh は、予告なく仕様書を変更することがあります。
- 上記の仕様書の値は、Mutoh が承認するメディアで操作する時のみ有効です。

9.2 カッター刃について

厚みのある蛍光及び窓用色付きフィルムのカット用。一般の塩ビシート
の細かい作品のカット用。

刃は 45°、赤キャップ、0.25 mm オフセット、刃直径 2.5 mm



反射シート、段ボール、サンドブラストゴム、フロック、ステンシルを
カッティングする鋭い刃

刃は 60°、緑キャップ、0.50 mm オフセット、刃直径 2.5 mm



薄いサンドブラストマスク及びステンシルのカット用。刃は鋭角の特殊
デザインで、シャープコーナー周りでの操作が可能。

刃は 60°、青キャップ、0.25 mm オフセット、刃直径 2.5 mm



小さい文字や細かい装飾のカッティング用。最小オフセットで鋭い刃。

刃は 50°、黒キャップ、0.175 mm オフセット、刃直径 2.5 mm



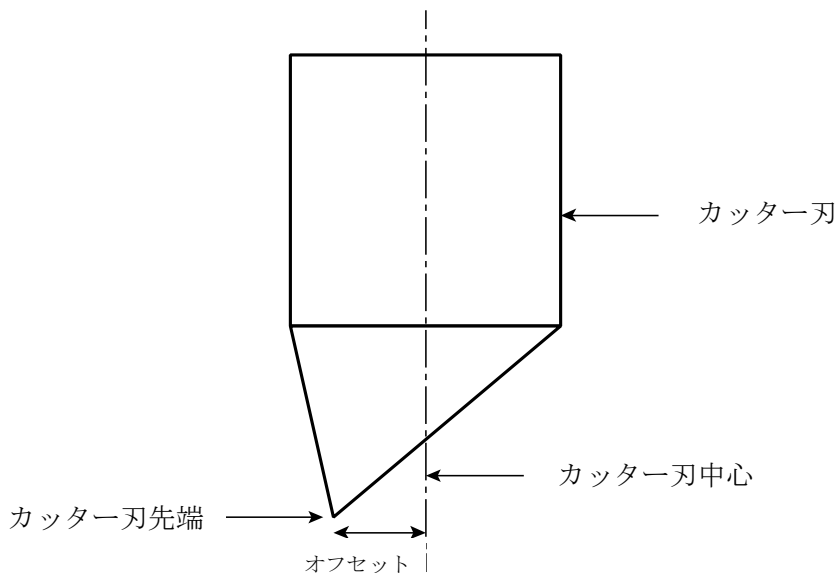
窓のスモークフィルムのような薄くて破れやすいメディア

刃は 25°、黄色のキャップ、0.25 mm オフセット、刃直径 2.5 mm

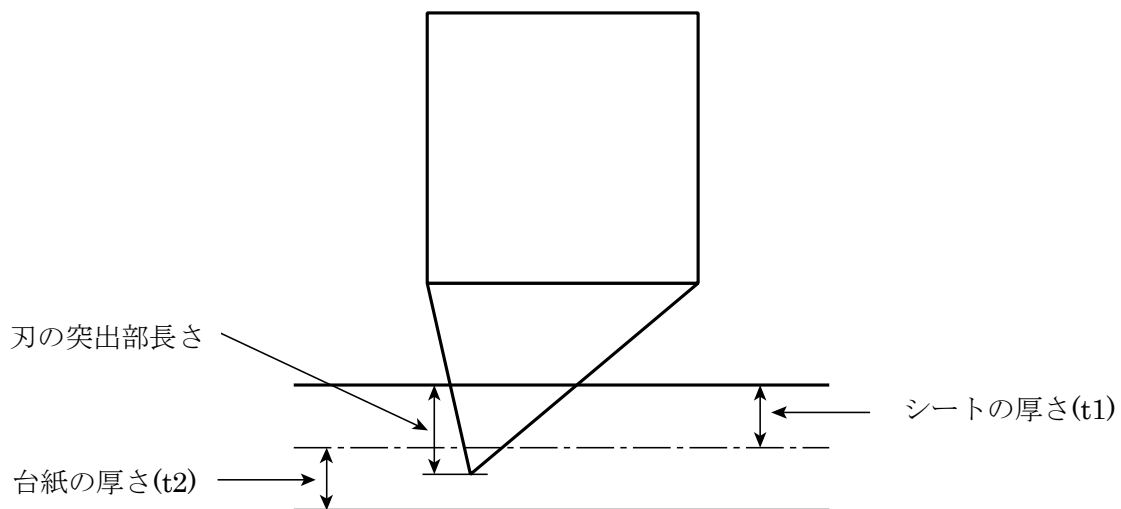


9.3 ツールについて

オフセットは、カッター刃先端とカッター刃中心の距離の事を意味します。



カッター刃突出部長さ

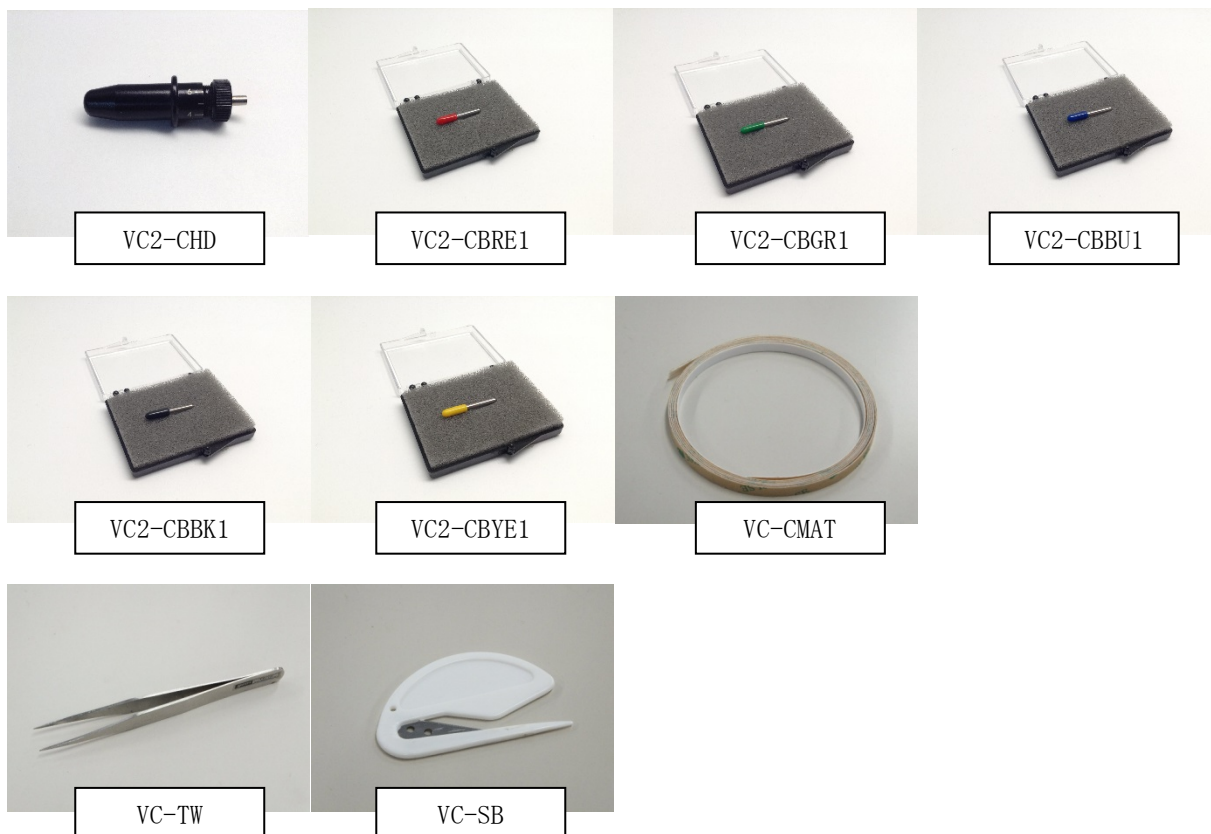


カッター刃突出部の目安の長さは $t1 + t2 / 2$ で、カッターホルダー先端からカッター刃先端まで $0.3 \text{ mm} \sim 0.5 \text{ mm}$ と考えてよいでしょう。

9.4 消耗品・オプション品リスト

消耗品

No.	製品名
VC2-CHD	VC2 用カッターホルダー
VC2-CBRE1	VC2 用カッター刃赤 1 本 (45° 0.25)
VC2-CBGR1	VC2 用カッター刃緑 1 本 (60° 0.5)
VC2-CBBU1	VC2 用カッター刃青 1 本 (60° 0.25)
VC2-CBBK1	VC2 用カッター刃黒 1 本 (50° 0.175)
VC2-CBYE1	VC2 用カッター刃黄 1 本 (25° 0.25)
VC-CMAT	VC・VC2 用カッティングマット (6 mm x 10 m)
VC-TW	VC・VC2 用ピンセット
VC-SB	VC・VC2 用横切カッター



オプション品

No.	製品名
VC2-STD600	VC2-600 用スタンド
VC-TBL	VC・VC2-600 用フラットテーブル
VC-RS	VC・VC2 用 RS-232C ケーブル
VC-USB	VC・VC2 用 USB ケーブル
VJ-AC15SJ	電源ケーブル（日本国内用）

